



4K ULTRA HD

Smart Security System **Professional NVR Series**

取扱説明書

重要事項

FCCの検証

本機器は、FCC規則のパート15に基づく検査を受け、クラスBデジタル装置の制限に準拠することが認められています。これらの制限は、住宅に機器を設置する際の有害な電波障害から適切に保護することを目的としています。本機器は、無線周波数帯域のエネルギーを発生、利用し、外部に放射する可能性があります。取扱説明書の指示に従って設置および利用しない場合、ラジオやテレビの受信に有害な電波障害を引き起こすおそれがあります。本機器の電源のオン/オフを切り替えることにより、これらの受信に有害な電波障害をもたらしていると判断される場合、ユーザーは電波障害を是正するために次の対策を講じてください：

- ・ 受信アンテナの方向や位置を変える
- ・ 機器と受信機の距離を離す
- ・ 受信機が接続されている回路とは別の回路のコンセントに機器を接続する
- ・ 販売店またはラジオ/テレビの技術者に相談する

本装置はFCC規則のパート15に準拠しています。使用するにあたり、以下2つの条件を満たす必要があります：

- ・ これらの機器は有害な電波障害の原因となってはならない
- ・ これらの機器は誤動作の原因となる電波障害を含め、受信する電波障害を許容しなければならない

重要なお知らせ：全ての国や地域において、カメラの使用に関する固有の法律や規制があります。購入者は、いかなる目的においてカメラを使用する前に、カメラの使用禁止や制限に関して適用される全ての法律および規則を認識し、適用される法律および規則に準拠する責任を負うものとします。

FCC規則(米国)：盗聴の禁止

法的権限下における警察官による調査の実施業務を除き、会話に従事する全ての関係者によって使用を承認されていない限り、何人も、直接的または間接的に、この部の規定により、他人のプライベートな会話を傍受または録音を目的として機器を使用してはなりません。

警告：コンプライアンス責任者によりはっきりと認められていない本デバイスへの変更や修正があった場合、ユーザーの装置使用权は無効となります。

重要な安全上のご注意

- ・ 配線や端子が露出している場合は使用しないでください
- ・ デバイスの側面にある通気口を覆うことは避け、適切な換気スペースを確保してください
- ・ NVRに同梱の電源アダプターのみを使用してください

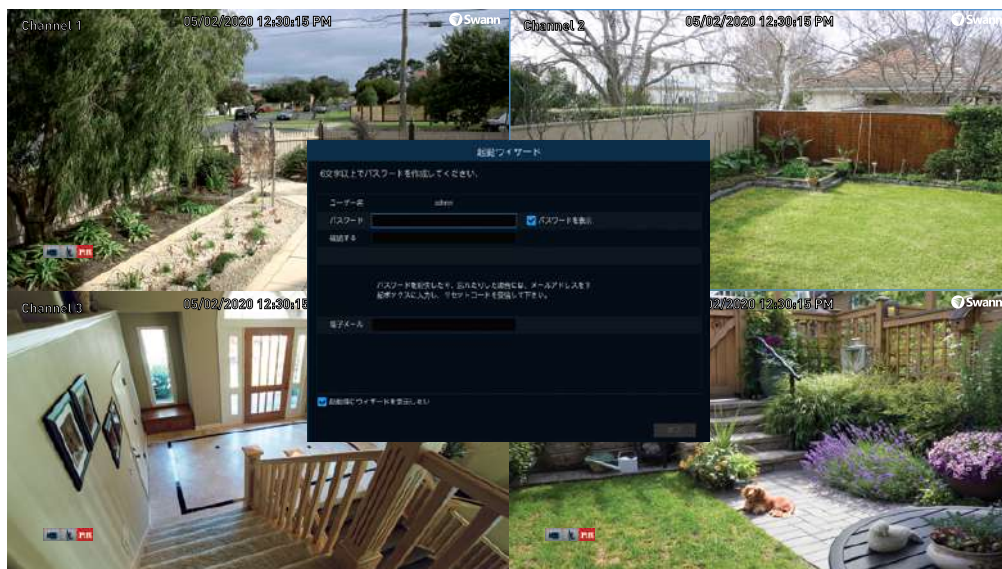
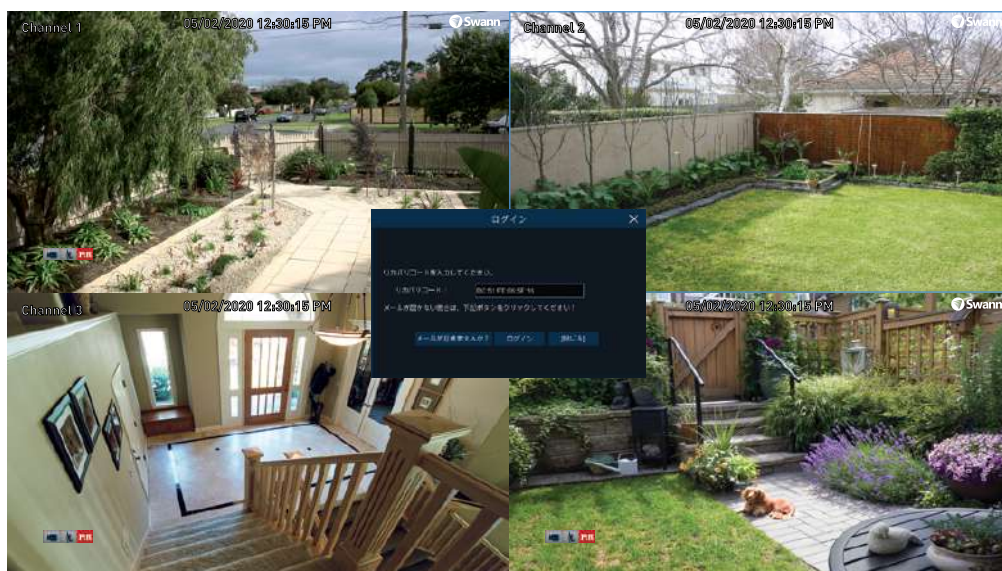
本取扱説明書の概要

本取扱説明書はシステムV8オペレーティングシステムが付いたGoogle Assistant NVRモデル用であり、完成時に正確な情報を記載しております。弊社では継続的に製品の改善を行っておりますので、そのため、完成時より特長や機能が追加される場合がございます。

重要なパスワード情報

このNVRにはデフォルトパスワードがありません。パスワードは起動ウィザード中に作成されます。パスワード保護機能が有効になっており、パスワードを忘れてしまった場合、NVRのMACアドレスを使用し、新しいパスワードを作成できます(3ページ - [パスワードリカバリ](#)を参照)。

パスワードリカバリ



パスワードを忘れましたか? 下記を行って下さい:

1. ライブビュー画面でマウスを右クリックし、メニューバーを表示して、[スタート]ボタン(メニューバーの左下)をクリックしてから、[セットアップ]をクリックします。
2. パスワードログイン画面で、[パスワードを忘れた場合]をクリックしてから[はい]をクリックします。
3. すぐに、お使いのNVRのMACアドレスが記載された、パスワードリセットリクエストメールを受信します(受信箱にない場合、迷惑メールやスパムメールフォルダーを確認して下さい)。
4. コロンを含むMACアドレス(パスワードリカバリコード)を入力(左の例を参照)してから、[ログイン]をクリックします。
5. パスワードのリセットを始めるメッセージが画面に表示されます。[OK] をクリックして続けます。
6. 新しいパスワードを入力します。パスワードは最低6文字で、数字と文字を含むようにしてください。覚えることができるけれども、他人には簡単に知られないようなパスワードを使用します。
7. 安全に保管できるように、下記スペースにパスワードを書き留めます。
8. 書き留めたら、[終了]をクリックします。メッセージが画面に表示されます。[OK] をクリックして終了します。

パスワードを必ず書き留めておいてください。_____

NVRに対してメールを作成していませんが、どうすればいいですか?ご心配なく、ホームセーフビューを使ってリカバリコードを回復すれば、NVRパスワードをリセットできます(125ページ - [ホームセーフビューを使用したパスワードリカバリ](#)を参照)。

目次

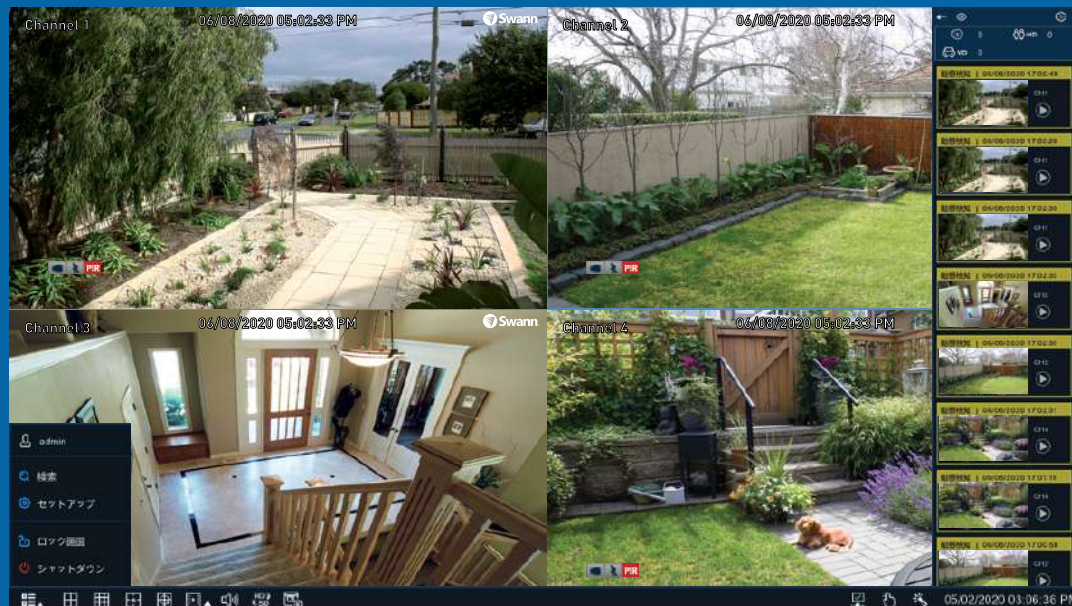
重要事項	2	周辺侵入領域の作成	40
パスワードリカバリ	3	分析:PID(周辺侵入検知) - アクション	41
ライブビュー	6	分析:LCD(ライン交差検出)	42
ライブビューモード	7	検知ラインの作成	43
ライブビューコントロール	8	分析:LCD(ライン交差検出) - アクション	44
ライブビューデジタルズームモード	10	分析:SOD(静止物体検知)	45
メインメニュー	11	物体検知領域の作成	46
メニューレイアウト	12	分析:SOD(静止物体検知) - アクション	47
カメラ構成	13	分析:PD(歩行者検知)	48
表示:ライブ	14	歩行者検知領域の作成	49
表示:IPチャンネル	16	分析:PD(歩行者検知) - アクション	50
表示:画像制御	17	分析:FD(顔検知)	51
表示:プライバシーゾーン	22	顔検知領域の作成	52
プライバシーマスクの有効化	23	分析:FD(顔検知) - アクション	53
録画:メインストリーム	24	分析:CC(クロスカウンティング)	54
録画:サブストリーム	26	カウントラインの作成	55
録画:モバイルストリーム(NHD-885/886専用)	28	分析:CC(クロスカウント) - アクション	56
アラーム:検知	30	分析:音検知	57
モーション検知セットアップ	31	オーディオ作動レベルの変更	58
アラーム:検知 - アクション	32	音検知スケジュール	59
モーション検知に関する参考事項	33	分析:音検知-アクション	60
熱センサーカメラに関する参考事項	34	詳細分析:顔管理	61
アラーム:抑止力(NHD-885/887MSFB専用)	35	詳細分析:顔管理 - アクション	63
抑止力設定	36	詳細分析:顔認識	64
スポットライト作動スケジュール	37	顔認識設定	65
分析:	38	顔プロフィールの作成	67
分析:PID(周辺侵入検知)	39	詳細分析:人と車両検知	71

目次

人と車両検知設定	72	ネットワーク:IPフィルタ	104
分析レコードスケジュール	74	デバイス:HDD	105
報告作成:詳細分析 - 顔統計	75	デバイス:S.M.A.R.T	106
報告作成:詳細分析 - 人と車両	76	デバイス:クラウドストレージ	107
録画構成	77	システム:一般	108
録画:録画	78	システム:日時	109
録画:スケジュール	79	システム:ユーザー	110
キャプチャ:キャプチャ	80	詳細設定:維持する	111
キャプチャ:スケジュール	81	詳細設定:イベント	112
イベント再生とバックアップ	82	詳細設定:自動アップグレード	113
検索:基本	83	詳細設定:リモートサポート	114
検索:イベント(USBフラッシュドライブへコピー)	86	システムステータス	115
検索:クイックショット(USBフラッシュドライブへコピー)	88	システム:情報	116
スライドショーの再生	89	システム:チャンネル情報とレコード情報	117
検索:クイックレビュー	90	システム:ネットワーク状態	118
検索:スマート	91	検索:ログ	119
検索:タグ	93	用語集	120
検索:外部ファイル	94	ホームセーフビューを使用したパスワードリカバリ	125
システム構成	95	よくある質問	127
表示:表示構成	96	保証内容	128
ネットワーク:ネットワーク	97	ヘルプとリソース	129
ネットワーク:Wi-Fi	98		
ネットワーク:ポート構成とRTSP	99		
RTSPの使用	100		
ネットワーク:電子メール構成	101		
ネットワーク:スケジュールをメール送信する	102		
ネットワーク:DDNS	103		

ライブビュー

ライブビューはNVRのデフォルトディスプレイモードです。画面に接続された各カメラが表示されます。ライブビュー画面のアイコンやメニューバーを使用して、NVRやカメラのステータスや操作を確認できます。マウスを右クリックして、メニューバーにアクセスします。



ライブビューモード

ライブビューはNVRのデフォルトディスプレイです。接続された各カメラが表示されます(複数の表示モードがご利用いただけます)。ライブビュー画面のステータスアイコンを使用して、NVRの操作を確認できます。日付と時間、各カメラの名前も表示されます。

カメラ名前

ステータスアイコン

カメラツールバー

メインメニュー

メニューバー

分析通知パネル

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12



ライブビデオチャンネルをダブルクリックして、全画面表示できます。



ライブビデオチャンネルをクリック&ドラッグして位置を変更します。

ライブビューモードでマウスを右クリックすると、メニューバーが表示されます(詳細は8ページを参照)。

カメラツールバーから、インスタント再生と画像設定のような機能にもアクセスできます(詳細情報は8ページを参照)。

ライブビューコントロール

メニューバー

1. クリックしてその他の利用可能な機能を表示します。
2. 4つのカメラビューです。
3. 9つのカメラビューです。
4. マルチスクリーン表示モードのいずれかをクリックして選択します。
5. クリックして、各ビデオチャンネルフルスクリーンを繰り返し表示します。
6. より大きなボタンをクリックして、検索メニューにアクセスします。ここから、以前に録画したビデオを再生できます。
7. クリックして、音量を変更するか、ミュートにします(スピーカーアイコンをクリックしてミュートにします)。

メインメニュー



検索: クリックして、録画ビデオの検索と再生、スナップショットの表示、システムログファイルへのアクセスができます。

セットアップ: クリックしてメインメニューにアクセスします。

ロック解除: クリックすると、NVRのロックを解除するか、再度ロックしてアクセスを禁止します。

シャットダウン: クリックしてNVRをシャットダウン、再起動やログアウトできます。

8. カメラをライブビューモードで表示中にクリックして、サブストリーム解像度からメインストリーム解像度に変更します。
9. リアルタイム (高フレームレート)、バランス(リアルタイムとスムーズのバランス)、スムーズ(高フレームレート/低ビットレート)でカメラを表示するときにビットレートとフレームレートを変更するには、クリックします。
10. このアイコンは、同梱のEthernetケーブルを使用して、お使いのNVRがモデムまたはWi-Fiに接続されていることを表わしています。
11. クリックして手動レコードモードに入ります。有効な場合、現在の録画スケジュールを無視します。
12. これをクリックして、起動ウィザードに入ります。

カメラツールバー



1. カメラを表示中、クリックして手動レコードを開始します(アイコンが赤色になると、録画中であることを表わしています)。
2. クリックしてスナップショットを撮影します。
3. クリックして最後に保存した録画を再生します。
4. クリックしてズームモードに入ります。

5. クリックして画面設定を調整します。
6. クリックしてサブストリーム解像度からメインストリーム解像度に変更します。
7. クリックしてカメラのサイレンとスポットライトを起動します(対応している場合)。
8. クリックして録画時にタグを追加します。

ライブビューコントロール



モーション検知経由で発生した場合、または1つ以上の分析ツールが有効になった場合に、分析通知パネルはイベントのサムネイルを表示します。イベントはイベントタイプによってカラーコード化されます。マウスのスクロールホイールを使って上下します(マウスカーソルを最初に通知パネル上におきます)。イベントを再生したいサムネイルの隣で再生ボタンをクリックします。

1. クリックしていつでも通知パネルを表示します。
2. クリックして通知パネルを非表示にします。
3. クリックしてフィルターと統計機能を表示します(フィルター機能は下記に表示)。
4. 顔、人や車両を認識/検知するたびに、カウンターが増えます。



ステータスアイコン



これはカメラが録画中であることを表わしています(手動またはモーション検知による)。



これはNVRがカメラからモーションを検知中であることを表わしています。

PIR

これはカメラが1つ以上の温かい物体を検知したことを表わしています。

S

これはイベントが分析機能のうちの1つで発生したことを表わしています(NVRは録画中)。

S

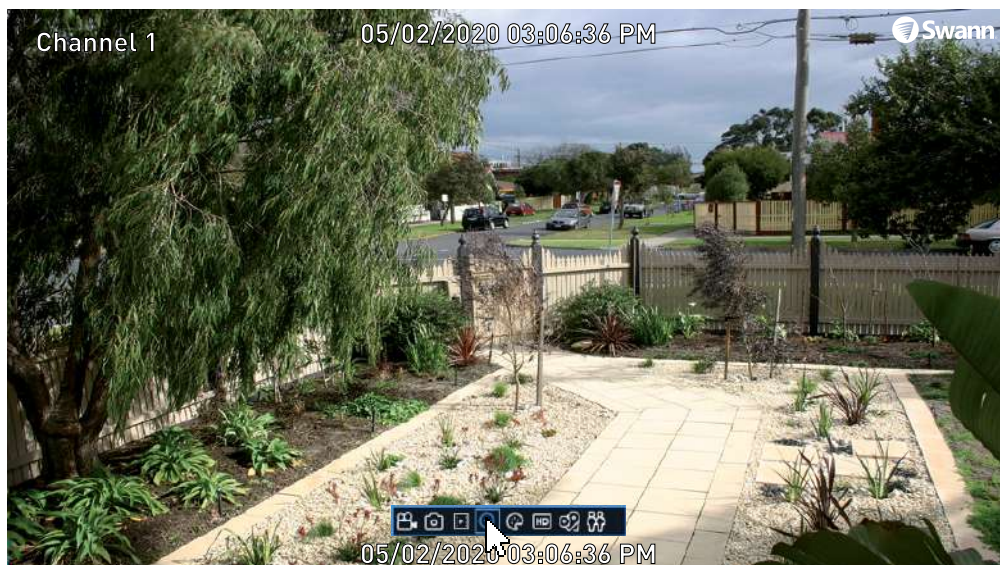
これはイベントが分析機能のうちの1つで発生したことを表わしています(NVRは録画していない)。

VIDEO LOSS

これはチャンネルに接続済みのカメラがない、またはカメラからのフィードを失ったことを表わしています。

フィルター機能を使い、どのアラートとどのカメラが通知パネルに表示されるかをカスタマイズできます。

ライブビューデジタルズームモード



1.ズームモードに入るには、ライブビューモードでカメラを左クリックしてから、カメラツールバーの[ズーム]ボタンをクリックします(左に表示の通り)。

2.ズームするには、ズームしたいエリアや物体にマウスを動かし、それからマウス上にスクロールホイールを使用して、ズームインまたはズームアウトします。ズームインするには、長方形をクリックしたまま(画面の右下に表示の通り)にして、画像周辺をスクロールします。右クリックして終了します。

マウスをダブルクリックして、複数台のカメラを表示します。



スクロールホイールを使用して、ズームインまたはズームアウトします。

ズームインしてから、ここをクリックしたまま、画像周辺をスクロールします。

メインメニュー

メインメニューから、NVRで利用可能な様々なアクションやオプションをコントロールできます。プライバシーマスクなどの機能を有効にして、画像の全部または一部をぼかし、デフォルトモーション検知エリアを変更するオプションもあります。また、クラウドストレージを有効にして、イベント発生時に、スナップショットやビデオをクラウドにコピーすることもできます。システムの健全性を維持するには、利用可能時にファームウェアアップグレードを行ってください。



メニューレイアウト

様々な機能やオプションがご利用いただけますが、メニューの左側にカテゴリ別で表示されます。

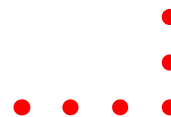
各カテゴリをクリックすると、タブやサブカテゴリが表示され、デフォルト設定から変更も可能です。



終了または前のメニューへ戻るには、マウスを右クリックします。



行った変更を保存するか、デフォルト設定を回復します。

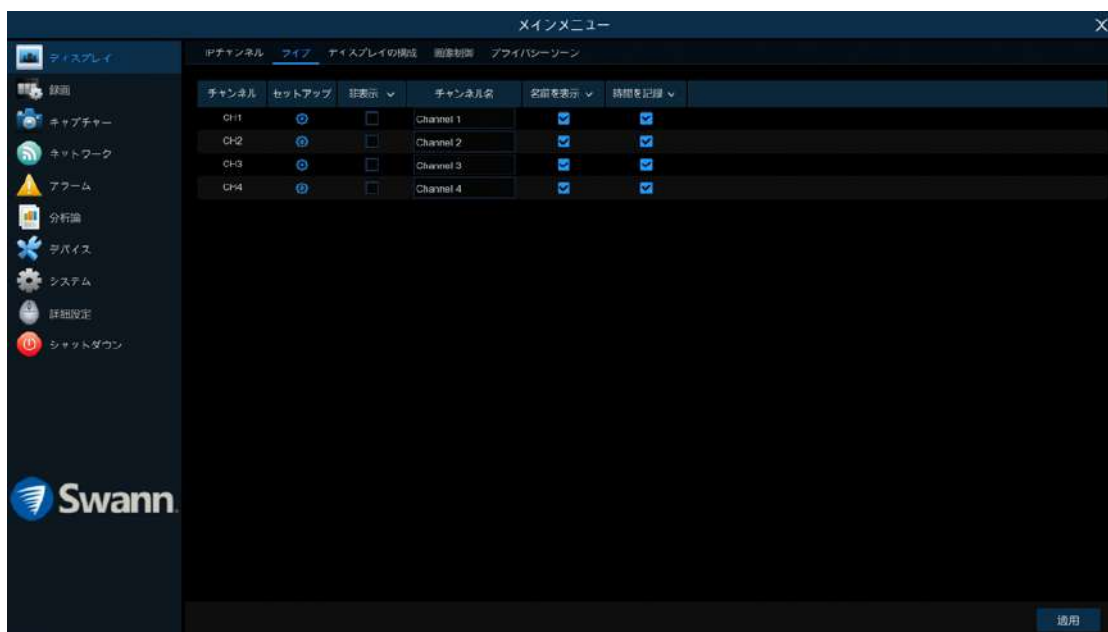


カメラ構成

カメラ構成オプションが、メインメニューからアクセス可能な[ディスプレイ]、[録画]と[アラーム]メニューでご利用いただけます。解像度、ビットレート、OSD(オンスクリーンディスプレイ)の位置、および色相、明るさ、コントラスト、彩度の画像設定を変更できます。NVRにはモーション検知制御機能があり、自宅内や周辺にある潜在的な脅威に対して、特定エリアを定義して警告を出します。また、1カ所以上のゾーンに対し、プライバシーやカメラのセンサー警告ライトのスケジュール設定を作成できます。



表示:ライブ



構成オプションが利用でき、カメラの設置個所に関連して各カメラに名前をつけ、明るさやコントラストなどのような画像設定を調整できます。また、ライブビューモードでカメラの画像を非表示にする非表示モードを有効にすることもできます。

- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインポートはCH1、CH2などのように表示されます。

セットアップ: ボタンをクリックして、カメラディスプレイ設定にアクセスできます。左記のカメラディスプレイ設定をご覧ください(15ページを参照)。

チャンネル: 編集したいカメラを選択します。

チャンネル名: 選択したカメラの名前を入力します。最長16文字にできます。

名前を表示: ライブビューモードでカメラ名を表示するには、この機能を有効なままにして下さい。非表示にする場合は、チェックボックスをクリックして無効にして下さい。

時間を記録: 時間スタンプがすべてのビデオ録画に埋め込まれるので、この機能を有効なままにして下さい。無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

アルファ(NHD-885/886専用): この機能により、ライブモードでOSD(カメラ名、日付と時刻)がどう表示されるかを調節できます。値を上げると(スライダーを右に移動)、OSDの下が長方形で囲まれているように表示されます。OSDを表示しづらい明るいエリアに向いているカメラに有効です。

色相: 画像のカラーミックスを変更します。

明るさ: 表示される画像の明るさを変更します。

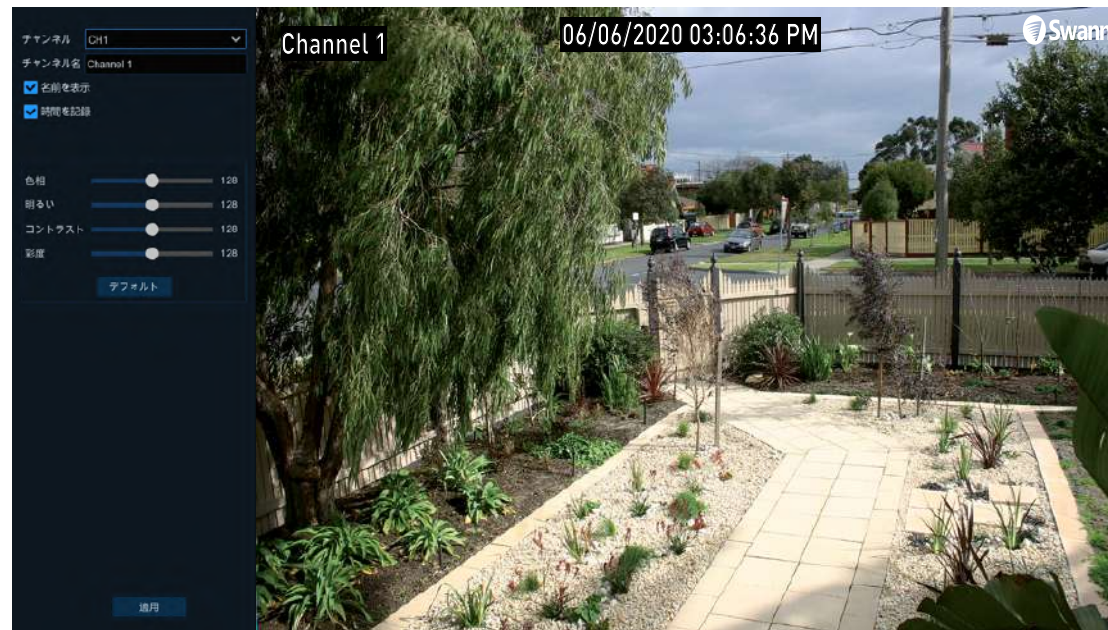
コントラスト: 物体を見分けやすくするための輝度の違いです。

彩度: 画像にどれだけ色を表示するかを変更します。

スライダーを使用し、各設定を調整します。調整後、「適用」ボタンをクリックしてから「OK」をクリックします。マウスを右クリックして終了します。

(次ページに続く)

表示:ライブ-設定

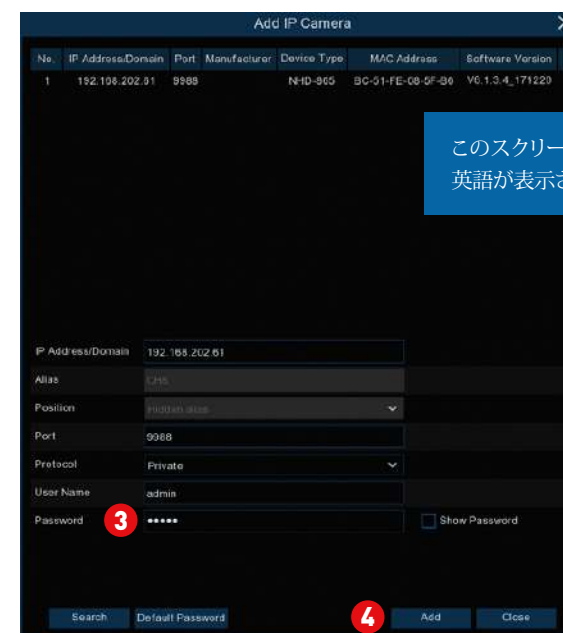


非表示:有効な場合、カメラはモーションを検知し、NVRを作動させて録画しますが、ライブビューモードでカメラの画像は表示されません。お使いのNVRとTVがパブリックエリア(店舗、倉庫など)に設置してあり、カメラからの画像を他者に見られたくない場合に、この機能が適切でしょう。



表示設定への変更は録画に影響を与えます。

表示:IPチャンネル



[検索]ボタンをクリックすると、ネットワークに直接接続されたカメラがここに表示されます。

このスクリーンショットには英語が表示されています。

この機能は、NVRに直接接続されたカメラおよびルーターに接続された互換性のあるIPカメラを管理するために使用される詳細機能です。ほとんどの場合、ここで利用可能な機能はNVRの一般的な使用には必要ありません。

1.ここをクリックして、デフォルト[ONVIF]パスワードを変更します。ONVIFはIPベースセキュリティカメラの接続のグローバルオープン基準です。新しいパスワードを書き留めて、安全な場所に保管して下さい。

2.ここをクリックして、ネットワーク接続カメラを追加します。すぐに、NVRがカメラを検知し、右上のスクリーンショットのように表示されます。チェックボックスをクリックして選択します。

3.作成したONVIFパスワードを入力します。パスワードを表示するには、[パスワードを表示]チェックボックスをクリックします。

4.終了したら、このボタンをクリックします。きちんと接続したら、緑色の再生ボ

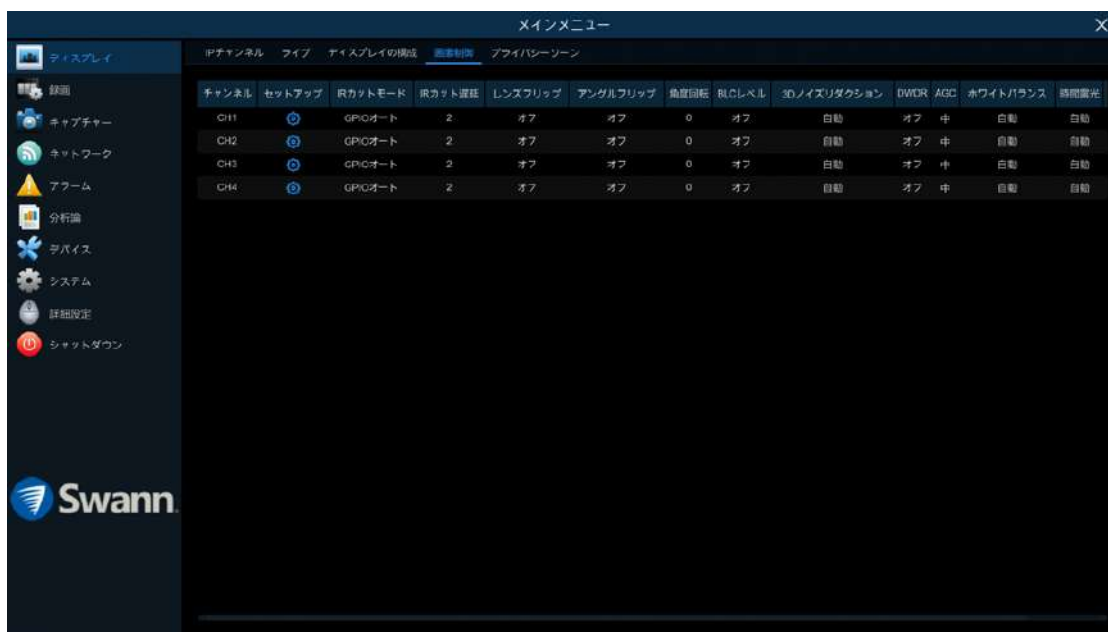
タン(状態)が表示されます。マウスを右クリックして終了します。

注: 追加したカメラのライブビューモードで[カメラの接続に失敗しました]というエラーメッセージが表示されたら、パスワードが間違っている(または変更されている)、あるいはルーターから物理的に接続が切断されていることのいずれかを表わしています。

NVRのカメラ入力がすべて使用中でも、ルーターに接続されているその他のカメラを追加できますか?

ルーターに接続されているカメラを追加する場合、NVRに利用可能なチャンネルに割り当てられます。よって全チャンネルが使用中の場合、その他のカメラを追加することはできません。ルーターに接続されたカメラを追加するには、NVRに接続されているカメラの内1台の接続を外さなければなりません。

表示：画像制御



この機能により、各カメラに表示される画像の見た目と特長を制御できます。各機能を調整して、可能な限り最高の画像品質を取得し、最も困難な照明状態でもカメラを設置できるようにします。

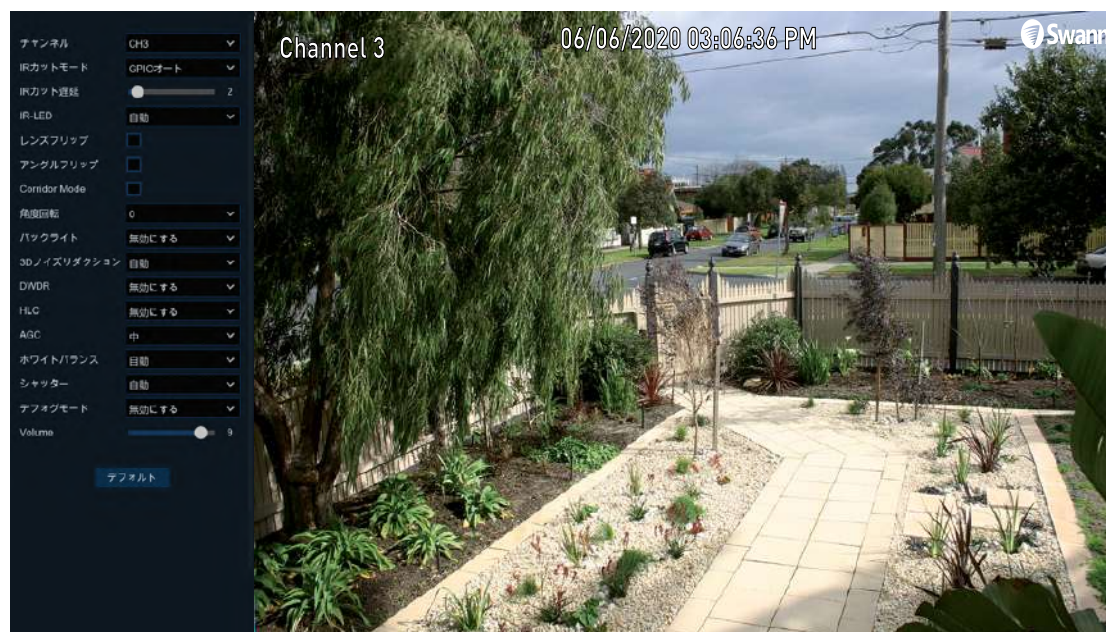
- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインプットはCH1、CH2などのように表示されます。

セットアップ: ボタンをクリックして、カメラ画像設定にアクセスします。左記のカメラ画像設定をご覧ください(18ページを参照)。

カメラ画像設定への変更はここに反映されます。

表示：画像制御-設定



チャンネル:編集したいカメラを選択します。

IRカットモード:カメラが色に対応する方法、日中から夜間そして夜間から日中への移行を管理する方法を選択できます。

→ **GPIOオート:**この機能により、カメラが[カラーモード]から[白黒モード]へ、[白黒モード]から[カラーモード]へ自動で切り替わるように指示します。

→ **カラーモード:**この機能により、カメラがカラーモードのみで作動するように指示します。微光状態では、色がかかなりぼやけて見えます。また、微光状態では、画像の鮮明さも下がります。

→ **白黒モード:**この機能により、カメラが白黒モードのみで作動するように指示します。

IRカット遅延:日中から夜間に移行する際に、IRカットフィルターの遅延を制御します。ほとんどのカメラロケーションがデフォルト設定に適切ですが、必要に応じて調整可能です。スライダーをクリックしたまま左右に動かすと、変更できます。数値が高くなればなるほど、遅延が長くなります。

IR-LED:必要な場合、赤外線LEDを消すことができます。

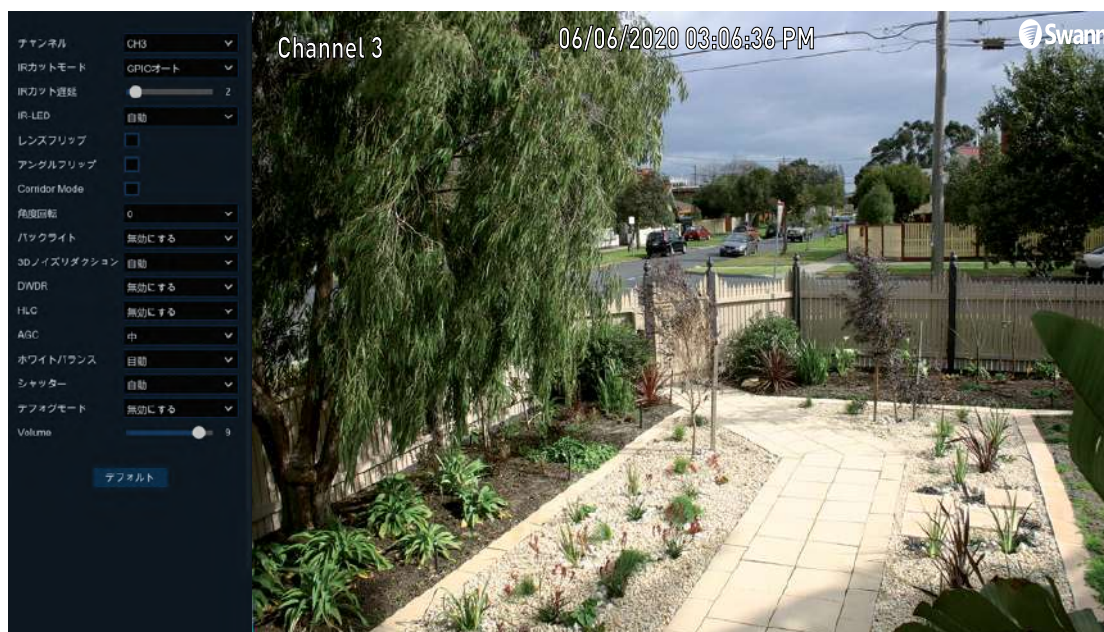
レンズフリップとアンクルフリップ:画像を上下逆にしたり、左右逆にできます。

通路モード(NHD-885/886専用):狭くて長い場所で最適な表示をするために、カメラの垂直角度をうまく利用できるようにします。カメラが狭い通路を表示中の場合、この機能を有効にします。

角度回転:90°、180°、270°で画像を回転します。

(次ページに続く)

表示:画像制御-設定



バックライト:光源の前にある物体の露出を改善します。物体が窓の前にある場合や、人物が外からやってくる場合に、逆行が起こる場合があります。カメラは自然光を拾うので、前景にある物体や人物が暗く見えます。バックライトが必要な場所にカメラが取り付けられている場合、ドロップダウンメニューをクリックして有効にします:

→ **BLC(バックライト補正)レベル:** [バックライト]が有効な場合、このオプションが表示されます。ドロップダウンメニューをクリックして、適用したいバックライト補正レベルを選択して下さい。最適な設定を選択するためには、何度か調整してみるといいでしょう。

3Dノイズリダクション:この機能を使うと、夜間や微光状態で行われた録画の総合的なノイズコンテンツを下げるすることができます。ほとんどのカメラロケーションが[オート]設定で適切ですが、必要に応じて調整可能です。

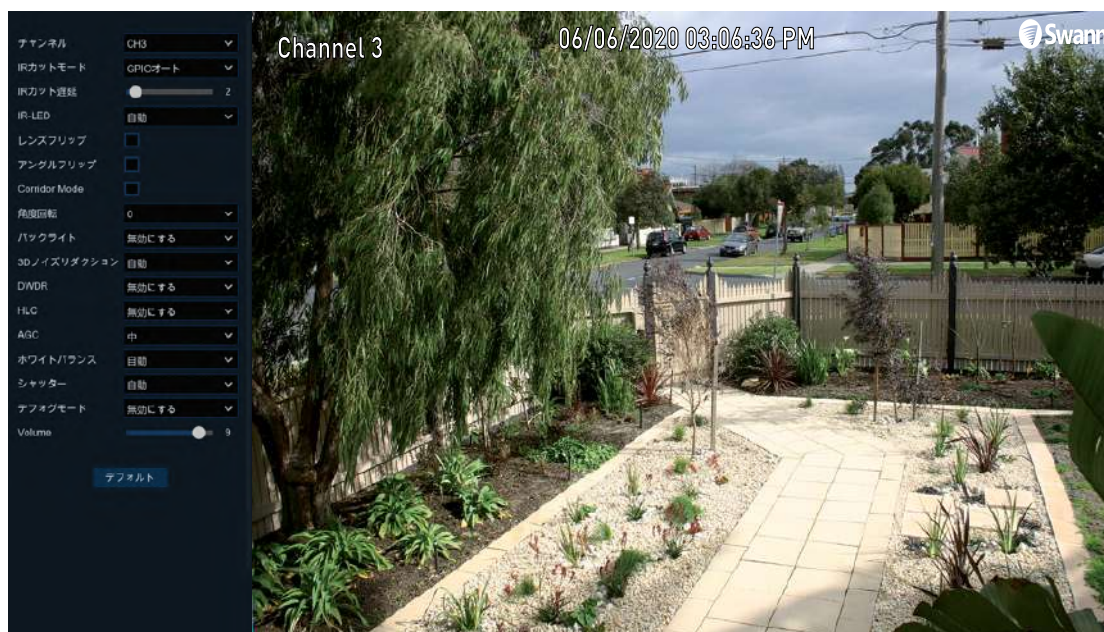
→ **マニュアル:**ドロップダウンメニューをクリックして[マニュアル]を選択します。スライダーをクリックしたまま左右に動かすと、変更できます。ただ、気をつけていただきたいのは、値を高くしすぎると、画面に表示される移動中の物体のモーションがぼやけて見えてしまう原因となります。

DWDR/WDR (ワイドダイナミックレンジ):この機能はダイナミックレンジが広い画像のバランスを取ります。暗いエリアを明るくし、明るいエリアを暗くしてバランスを取ります。室内カメラが窓やビルのエントランスに向けてあるような場合、この例として挙げられます。入ってくる光が明るすぎるので、日中に生成される画像がぼやけてしまうことがあります:

→ **レベル:**スライダーをクリックしたまま左右に動かすと、変更できます。数値を高くすればするほど、表示されるダイナミックレンジが広がります。

(次ページに続く)

表示：画像制御-設定



HLC (ハイライト補正、NHD-885専用):この機能は、ヘッドライトやスポットライトのような光で露出オーバーの画像に対処します。これにより、光の露出を大幅に下げ、明るいエリアの鮮明さが改善されます。駐車場に最適な機能です(室内使用には推奨しません)。この機能が必要な場合、ドロップダウンメニューをクリックして有効にしてください:

→ **レベル**:スライダーをクリックしたまま左右に動かすと、変更できます。数値を高くすればするほど、表示されるハイライト補正が拡がります。

AGC(自動利得制御):この機能により、感度が上がり、微光状態での作動を可能にします。カメラが自動で利得制御を上げるので、物体がより明確に見えます。ドロップダウンメニューをクリックして、適用したい制御レベルを選択してください。

ホワイトバランス:この機能は、白い物体が写真で白く見えるように、光を調整

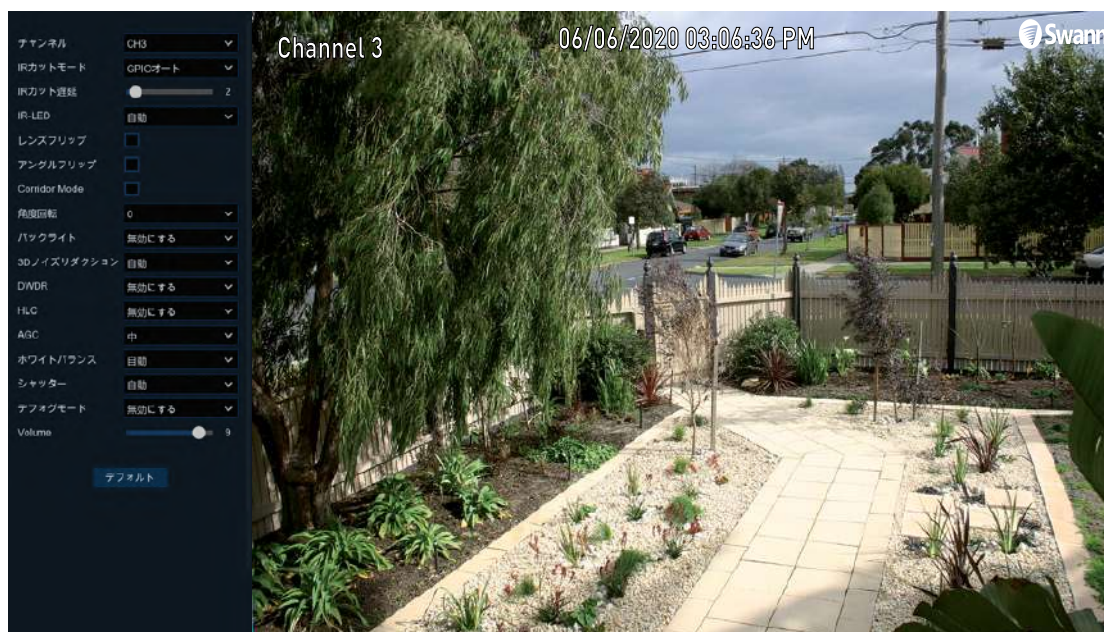
します。暗い色がかすんで見えたり、移動して見えたり、完全に異なる色に見えたりする場合、ホワイトバランス設定がうまくいっていないと言えます。このような場合は、ドロップダウンメニューをクリックして、[マニュアル]に変更するか、[オート]設定のままにしてください:

→ **マニュアル**:このモードを選択すると、赤色、緑色、青色のスライダーをクリックしたまま左右に動かすと変更できます。

→ **室内**:カメラが室内に取り付けられている場合にこのモードを選択します。

(次ページに続く)

表示：画像制御-設定



シャッター:この機能により、カメラのシャッターが開く時間とセンサーに届く光の量を制御します。微光状態では、センサーが十分な光を受け取れるように、シャッターが長く開いたままではいなければなりません。ほとんどのカメラロケーションが[オート]設定で適切ですが、必要に応じて調整可能です:

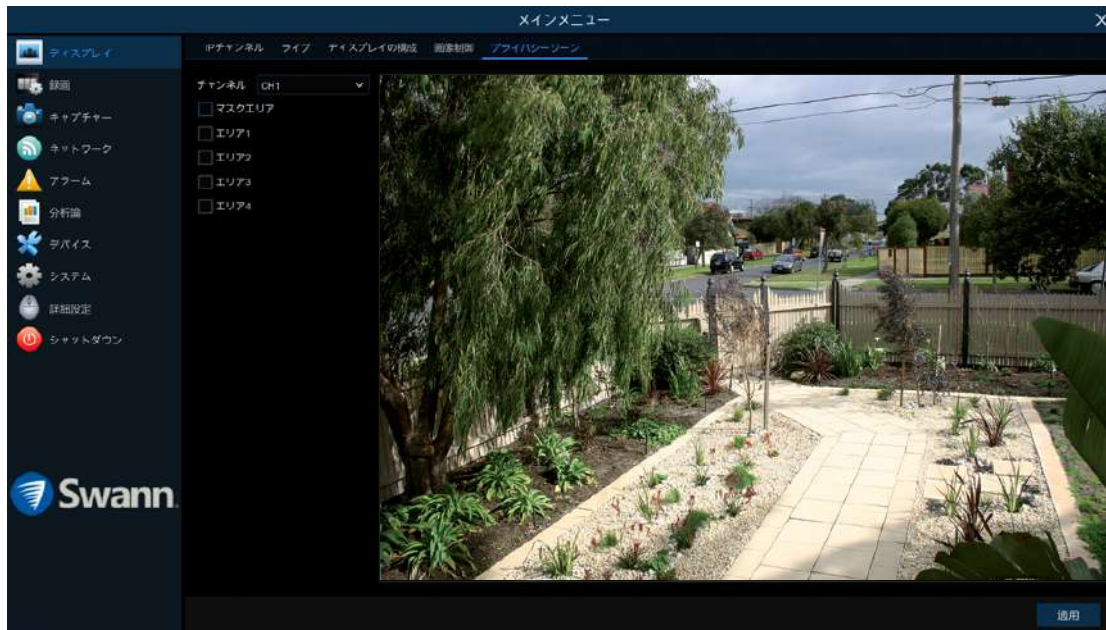
→ **時間露光:**[マニュアル]を選択している場合、ドロップダウンメニューをクリックして異なる露出時間を選択します。値が低ければ低いほど、シャッター速度が遅くなります(移動中の物体のモーションがぼやけて見える原因となる場合があります)。ベストな設定を選択するためには、何度か調整してみるといいでしょう。

デフォグモード:中程度から濃い霧やカスミがかかっている場合に、この機能がビデオ品質を改善します。ほとんどのカメラロケーションが[オート]設定で適切です。[マニュアル]を選択する場合、スライダーをクリックしたまま左右

に動かすと、変更できます。

音量:スライダーをクリックしたまま左右に動かすと、カメラ内蔵のマイクの音量レベルを変更できます。

表示:プライバシーゾーン



この機能を使い、プライバシーを守るために画像の全部または一部をぼかします(カメラ1台につき4か所のプライバシーマスクを作成可能です)。モーションが検知された場合に、誤認識作動を最小限に抑えるためにもこの機能を使用できます。マスクによりぼかしたエリアは、ライブや録画には表示されません。

チャンネル:編集したいカメラを選択します。

マスクエリア:マスクを作成するには、チェックボックスをクリックして有効にします。

エリア1から4:有効にしたいプライバシーマスクの番号のチェックボックスをクリックします。カメラ1台につき、最大4つまでプライバシーマスクを有効にできます。

プライバシーマスクを有効にする数によって、ライブビューウィンドウに1つまたはそれ以上のマスクが表示されます(23ページを参照 - [プライバシーマスクの有効化](#))。

プライバシーマスクの有効化



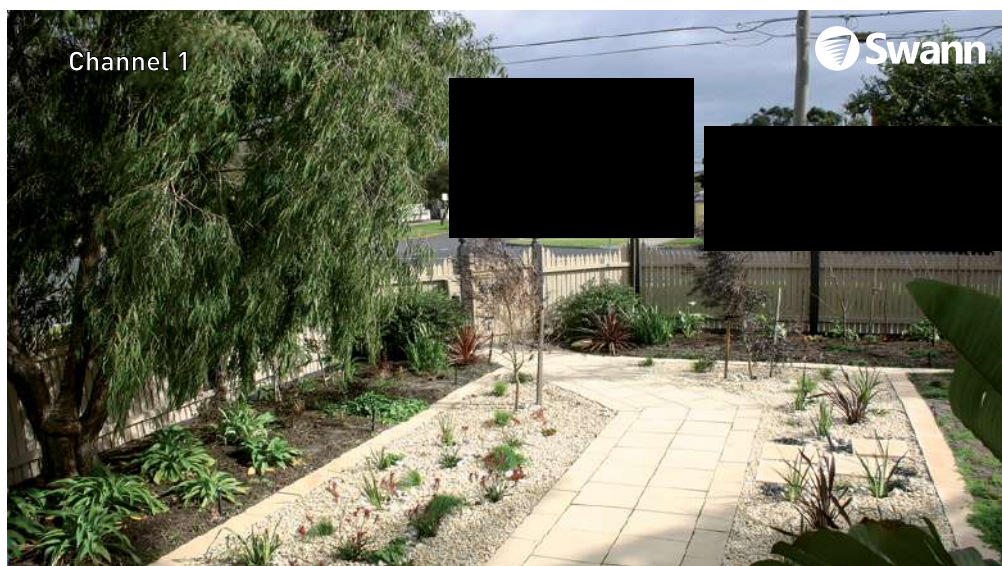
1.有効化したいマスク数により、各マスクに番号が付けられます。マスクの位置を変えるには、マスク番号をクリックしたままで、マスクを希望する場所へ移動させます。

2.マスクのサイズを変えるには、マスク番号をクリックしたままで、マスクを希望するサイズに変更します。各マスクが互いに重なるように位置やサイズを変更できます。

左記に記載の例では、2つのマスクが有効になっており、車と家の前庭の隣にある歩行者専用道路がブロックされています。これにより、誤認識作動を最低限に抑え、正面玄関から入ってくる関係のない動きをブロックできます。

3.終了したら、[適用]をクリックして保存します。マスクによりぼかしたエリアは、ライブや録画には表示されません(左下を参照)。

マスクを削除するには、関連エリアの横にあるチェックボックスのチェックを外し、[適用]をクリックして保存します。



録画：メインストリーム



ここで利用可能な機能により、接続された各カメラの解像度、フレームレート、ビットレート制御やビットレートモードを変更できます。デフォルトでは、カメラの機能に合わせて、録画解像度が自動で選択されるようになっています。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインポートはCH1、CH2などのように表示されます。

解像度: デフォルトでは、カメラの機能に一致するように、録画解像度が自動で選択されるようになっています。必要に応じて、より低い解像度が選択できるようになります。

FPS: NVRが録画するコマ/秒(fps)です。デフォルトでは、カメラの機能に一致するように、fpsが自動で選択されるようになっています。

ビデオエンコードタイプ: NVRはビデオを録画するために2つの方法を活用しています。デフォルトの圧縮方法はH.265です。この方法を使うと、録画の際に使用するハードドライブ容量が少なく済みます。2つ目の圧縮方法はH.264です。この方法は、ビデオの録画と圧縮に一般的に使用される形式です。映像品質が重要な場合、H.264に変更して下さい。変更しない場合、デフォルト設定のままにして下さい。

ビットレート制御: CBR(固定ビットレート)はビデオ録画に固定ビットレートと帯域幅を利用します。これは、NVRが録画全体にわたり、画面上で何が起ころうとも、同数のビットを使うことを意味しています。VBR(可変ビットレート)はNVRが録画中に変化するビットレートと帯域幅を利用します。録画シーンの複雑さに応じてビットレートが増減します。

どの方法を選ぶべきですか?シーンの複雑さは録画ビデオの長さによって大幅に異なり、選択するビットレートが画像品質、帯域幅消費、ハードドライブストレージに影響を与えます。可動アクションを含む複雑なシーンは、アクションや動きがほとんどない複雑ではないシーンよりも、画像品質と帯域幅消費に影響があります。

(次ページに続く)

録画：メインストリーム



CBR(固定ビットレート):交通量の多いエリアにカメラを設置している場合、制御方法としてCBRをお勧めします。ビットレートが固定されているので、画像品質が一貫しており、人や物体を特定するのに役立ちます。

VBR(可変ビットレート):交通量の少ないエリアにカメラを設置している場合、制御方法としてVBRをお勧めします。ビットレートが可変なので、NVRは動きがほとんどまたはまったく検知されない場合に、より低いビットレートを使用できます。

VBRを選択すると、使用する可変ビットレートを決める録画品質を選択できます。最も低いから最も高いまで選択できます。

ビットレートモード:事前定義済みまたはユーザー定義のビットレートから選択できます。ほとんどの場合、デフォルト設定が適切です。

ビットレート:NVRがビデオ録画に使用するデータ量です。ビットレートが高い

とビデオ画質が高くなりますが、データ通信量がより多く必要となり、録画に必要なハードドライブ容量が増えます。

オーディオ:デフォルトでは、NVRはカメラ内蔵マイクを使ってオーディオを録音します。オーディオの録音が必要ない場合、チェックボックスをクリックして無効にします。

Iフレーム間隔:これにより、ビデオストリーム内のフルフレーム(Iフレーム)間に起こる部分フレーム(Pフレーム)数を構成します。例えば、ドアが開いて人が入ってくるシーンで、ドアと人の動きのみがビデオエンコーダーに保存されます。以前の部分フレームにある静止背景はエンコードされません。部分フレームはビデオサイズを減らすことで、ビデオ圧縮率を向上させます。Iフレーム間隔が増えると、フルフレーム間の部分フレーム数が増えます。

録画:サブストリーム



ここで利用可能な機能により、Swannセキュリティアプリを使用して、モバイルデバイスへのビデオのストリーム方法を管理できます。NVRからのライブビデオのストリーミング中に問題がある場合、フレームレート、ビットレートモード、ビットレート制御を変更できます。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

チャンネル:編集したいカメラを選択します。

解像度:デフォルトでは、カメラの機能に一致するように、解像度が自動で選択されるようになっています。モバイルデバイスへのストリーミング中に問題がある場合、より低い解像度を選択できます。

FPS:NVRがモバイルデバイスへストリーミングする際に処理するコマ/秒 (fps)です。ほとんどの場合、デフォルトのフレームレートが適切です。交通量が中程度から高いエリアを監視するカメラに特に当てはまりますが、結果として動きがより滑らかになります。ただし、必要な帯域幅が増えるので気をつけて下さい。交通量が少ないエリアを監視する場合は、この値をより低くして下さい。

ビデオエンコードタイプ:NVRはビデオを録画するために2つの方法を活用しています。デフォルトの圧縮方法はH.265です。この方法を使うと、録画の際に

使用するハードドライブ容量が少なく済みます。2つ目の圧縮方法はH.264です。この方法は、ビデオの録画と圧縮に一般的に使用される形式です。映像品質が重要な場合、H.264に変更して下さい。変更しない場合、デフォルト設定のままにして下さい。

ビットレート制御:VBRに変更します。その結果、録画サイズが少なくなり、帯域幅要件も低くなります。最も低いから最も高いまで、使用する様々なビットレートを決める録画品質を選択できます。

ビットレートモード:事前定義済みまたはユーザー定義のビットレートから選択できます。ほとんどの場合、デフォルト設定が適切です。

(次ページに続く)

録画:サブストリーム



ビットレート: NVRがモバイルデバイスへのビデオストリーミングに使用するデータ量です。交通量が中程度から高いエリアを監視するカメラに関しては、ビットレートを増やすと、より詳細なカメラ画像にできます。ただし、ビットレートを増やすと、必要な帯域幅も増えるので注意して下さい。画像品質に満足するまで、少しずつビットレートを増やして下さい。

オーディオ: デフォルトでは、NVRはカメラ内蔵マイクを使ってオーディオを録音します。オーディオの録音が必要ない場合、チェックボックスをクリックして無効にします。

Iフレーム間隔: これにより、ビデオストリーム内のフルフレーム (Iフレーム) 間に起こる部分フレーム (Pフレーム) 数を構成します。例えば、ドアが開いて人が入ってくるシーンで、ドアと人の動きのみがビデオエンコーダーに保存されます。以前の部分フレームにある静止背景はエンコードされません。部分フレ

ームはビデオサイズを減らすことで、ビデオ圧縮率を向上させます。Iフレーム間隔が増えると、フルフレーム間の部分フレーム数が増えます。非常に安定したネットワークでのみ、高いフレーム数を使用しても構いませんが、それ以外の場合はデフォルト設定のままにして下さい。



ライブビデオをストリーミング中に、インターネット接続とサブストリーム設定によって品質が決まります。同時に複数のカメラをストリーミングする際には、このことを覚えておくことが重要です。

録画：モバイルストリーム(NHD-885/886専用)



モバイルストリームは、スワンセキュリティアプリを使用して、モバイルデバイスにビデオをストリーミングするために使用する際のデフォルト制御方法です。NVRからのライブビデオのストリーミング中に問題がある場合、解像度、フレームレート、ビットレート制御、ビットレートを変更できます。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

チャンネル:編集したいカメラを選択します。

解像度:デフォルトでは、カメラの機能に一致するように、解像度が自動で選択されるようになっています。モバイルデバイスへのストリーミング中に問題がある場合、より低い解像度を選択できます。

FPS:NVRがモバイルデバイスへストリーミングする際に処理するコマ/秒(fps)です。ほとんどの場合、デフォルトのフレームレートが適切です。交通量が中程度から高いエリアを監視するカメラに特に当てはまりますが、結果として動きがより滑らかになります。ただし、必要な帯域幅が増えるので気をつけて下さい。交通量が少ないエリアを監視する場合は、この値をより低くして下さい。

ビデオエンコードタイプ:NVRはビデオを録画するために2つの方法を活用しています。デフォルトの圧縮方法はH.265です。この方法を使うと、録画の際に

使用するハードドライブ容量が少なくて済みます。2つ目の圧縮方法はH.264です。この方法は、ビデオの録画と圧縮に一般的に使用される形式です。映像品質が重要な場合、H.264に変更して下さい。変更しない場合、デフォルト設定のままにして下さい。

ビットレート制御:VBRに変更します。その結果、録画サイズが少なくなり、帯域幅要件も低くなります。最も低いから最も高いまで、使用する様々なビットレートを決める録画品質を選択できます。

ビットレートモード:事前定義済みまたはユーザー定義のビットレートから選択できます。ほとんどの場合、デフォルト設定が適切です。

(次ページに続く)

録画:モバイルストリーム(NHD-885/886専用)



ビットレート: NVRがモバイルデバイスへのビデオストリーミングに使用するデータ量です。交通量が中程度から高いエリアを監視するカメラに関しては、ビットレートを増やすと、より詳細なカメラ画像にできます。ただし、ビットレートを増やすと、必要な帯域幅も増えるので注意して下さい。画像品質に満足するまで、少しずつビットレートを増やして下さい。

オーディオ: デフォルトでは、NVRはカメラ内蔵マイクを使ってオーディオを録音します。オーディオの録音が必要ない場合、チェックボックスをクリックして無効にします。

Iフレーム間隔: これにより、ビデオストリーム内のフルフレーム(Iフレーム)間に起こる部分フレーム(Pフレーム)数を構成します。例えば、ドアが開いて人が入ってくるシーンで、ドアと人の動きのみがビデオエンコーダーに保存されます。以前の部分フレームにある静止背景はエンコードされません。部分フレ

ームはビデオサイズを減らすことで、ビデオ圧縮率を向上させます。Iフレーム間隔が増えると、フルフレーム間の部分フレーム数が増えます。非常に安定したネットワークでのみ、高いフレーム数を使用しても構いませんが、それ以外の場合はデフォルト設定のままにして下さい。



ライブビデオをストリーミング中に、インターネット接続とサブストリーム設定によって品質が決まります。同時に複数のカメラをストリーミングする際には、このことを覚えておくことが重要です。

アラーム:検知



1台以上のカメラでモーションが検知された時、NVRが自宅で潜在的な脅威があることをあなたに警告します。参照としてカメラからの画像を添付したメールアラートを送信(このオプションが有効な場合)および/またはスワンセキュリティアプリからプッシュ通知を送信して警告します。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインプットはCH1、CH2などのように表示されます。

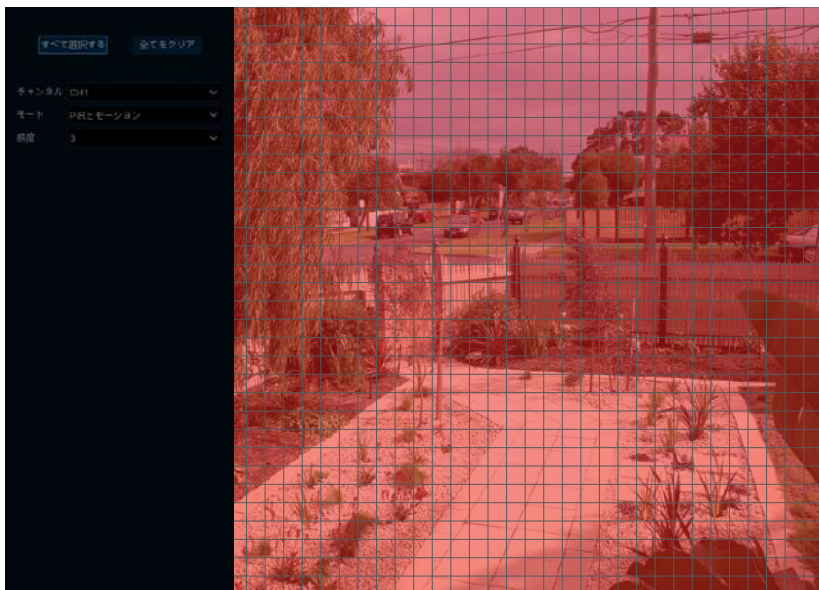
セットアップ: ボタンをクリックして、デフォルトモーション検知エリアを変更します。カメラの全体像に対してモーション検知を行うことができますが、希望される場合、特定のエリアを選択できます(31ページを参照 - [モーション検知設定](#))。

モード: デフォルトでは、カメラおよびカメラ内蔵のPIRセンサーが1つまたはそれ以上の物体を検知した場合にのみ、NVRがモーションを録画します。これにより、風、落ち葉や雨による誤認識作動をなくし、より正確なモーション検知を提供します(34ページ参照 - [熱センサーカメラに関する参考事項](#))。人通りの多い道やビルのエントランスなど、カメラ内蔵のPIRセンサーで検知しなければならない物体がないエリアを監視している場合、これを[モーション]に変更してください。

感度: このオプションにより、感度レベルを変更できます。数値が高ければ高いほど、モーション検知時にNVRの感度が高くなります。ほとんどの場合、デフォルト設定が適切ですが、感度レベルがカメラの位置に適切かどうかをテストすることをお勧めします(33ページ参照 - [モーション検知の参考事項](#))。

アクション: ボタンをクリックし、アラーム通知、アラートなどに関するオプションを変更できます(32ページ参照 - [アラーム: 検知 - アクション](#))。

モーション検知セットアップ



1. [すべてをクリア]をクリックして、デフォルトモーション検知エリアを削除します。
2. 新規モーション検知エリアを作成するには、左マウスボタンを押したままで、開始したいセルや四角を選択してから、クリック&ドラッグして、作成したいエリアを選択します。マウスを離し、終了します。
3. 複数のエリアを作成することもできます。各セルや四角がモーション検知できます。また、同じアクションを使い、作成したエリアの削除もできます。

例では、木々や車、家の前庭に隣接する歩行者などのような物体を除き、前庭に対してモーション検知エリアを作成しました。正面玄関から道に沿って歩いてくる人物やフロントドアに近づいてくる人物は検知されます。

モーション検知エリア外の動きは検知されないため、録画やイベント通知は作動しません。

4. 必要に応じて感度を調整してから、マウスを右クリックして終了します。
5. 「適用」をクリックすると、変更事項を保存します。



アラーム:検知 - アクション



ブザー: モーションが検知されると、NVRブザーを作動し、最初に設定した時間の間、アラートを出します。

録画(録画チャンネル): このオプションにより、モーションが検知された時に、NVRにその他のカメラが録画開始を作動するように指示できます。[アナログチャンネル]チェックボックスをクリックし、すべてのカメラを選択するか、録画を作動したいカメラ番号をクリックします。

ポストレコーディング: このオプションにより、イベント発生後、一定時間NVRに録画するように指示できます。ほとんどの場合、デフォルト設定が適切ですが、希望すれば、変更できます。

メッセージを表示: モーションが検知された時、モーションアイコンが画面上に表示されます。

電子メールの送信: チェックボックスをクリックしてNVRを有効にすると、モ-

ーションが検知された時に電子メールアラートを送信します。

プッシュ: スワンセキュリティアプリから、プッシュ通知が自動的に送信されます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

写真をクラウドへ: チェックボックスをクリックすると、Dropbox経由でクラウドへスナップショットがコピーされます。

ビデオをクラウドへ: チェックボックスをクリックすると、Dropbox経由でクラウドへビデオがコピーされます。

全画面(右へスライドして表示): チェックボックスをクリックすると、モーションが検知された時にライブビューモードでカメラの全画面を表示できます。

「保存」ボタンをクリックしてから「OK」をクリックします。マウスを右クリックして終了します。

モーション検知に関する参考事項

カメラの設置

1.人がどちらに向いて歩いても、あなたの自宅に向かって歩かなければならないエリアに向かうようにカメラを設置します。後で参照する際に、フロントドアに向かってくる人の画像をキャプチャできるように、カメラをフロントドアに向かうように設置するといいいでしょう。宅急便が届けられた場合や、泥棒が誰か家にいるかどうか確かめるためにドアをノックしたり、ベルを鳴らしたりした場合に、確認できるのでいいでしょう。

2.家の周りを歩き、侵入者が侵入する際に最も使う可能性が高いと思われる場所や通路を評価します。泥棒の多くは、フロントドアまたはバックドアから家に侵入するので、そのようなエリアにカメラを設置することをお勧めします。そうすれば、近づいてくる人物の詳細をきちんと把握できます。

3.カメラを室外に設置する場合、暗視機能に適し、モーション検知ができるように、前庭と裏庭に可能な限り明るく照明を点灯しておくことが重要です。侵入者は、施錠されていないガレージから、あるいは私道に置いてある施錠されていない車内にあるガレージドアオープナーを使って、家に侵入するのが一般的です。私道や同様の場所にある車両が映るようにカメラを設置すると、非常に役に立ちます。

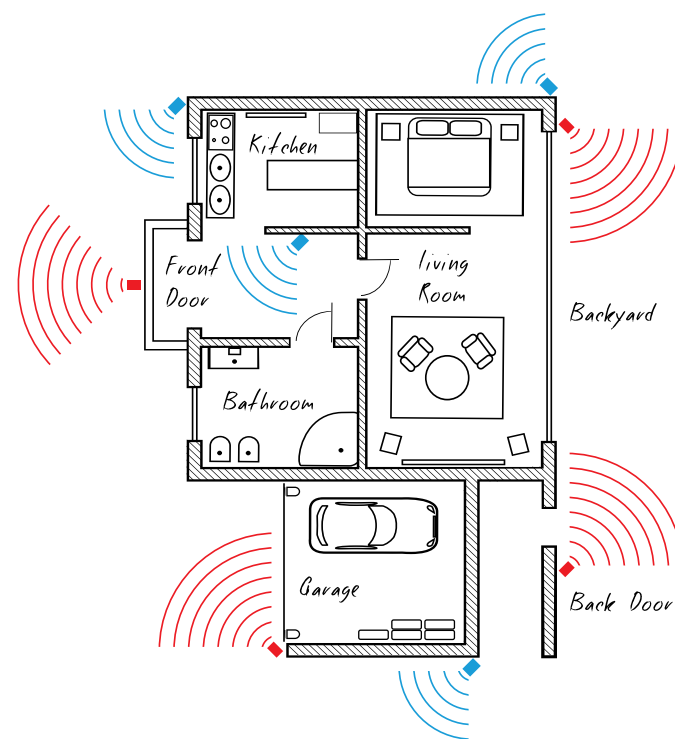
誤認識作動の回避

1.木、低木や風に飛ばされた枝葉などの風に飛ばされた物体は、カメラのアンゲルを変えてカメラビュー外になるようにするか、カメラモーション検知エリア設定を使ってこのようなエリアを検知から除外して下さい。

2.あなたの家の近くの歩道や通りを移動する人などに関しては、本当の脅威のみがイベントを作動するように、カメラのアンゲルを絞り、モーション検知エリア設定を使用して下さい。

3.背景を移動する車両に関しては、背景の動きを避けるようにカメラのアンゲルを変えるか、モーション検知エリア設定を使って通りの車両を検知しないようにして下さい。

4.硝子のような滑らかな面に反射する動きや光に関しては、感度レベルの調整および/またはガラス表面に直接カメラを向けないようにします。



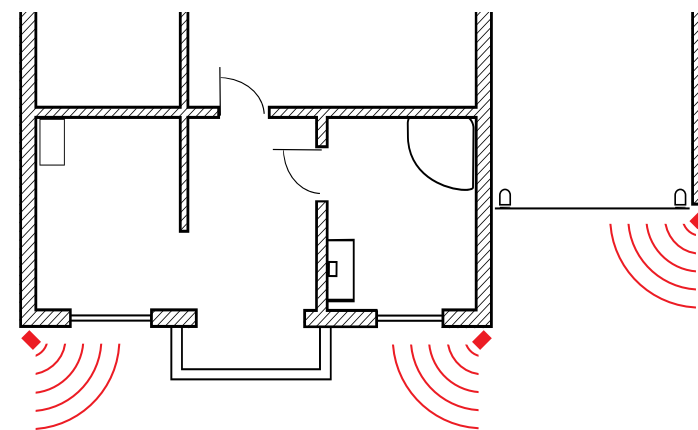
赤色で記したカメラ(上図)が主要ロケーションです。フロントドア、バックドア、ガレージ入口の近くや裏庭を臨む場所にカメラを設置して下さい。

青色で記したカメラは補助的なロケーションです。NVRに増設できるカメラがある場合、自宅内の正面玄関、自宅の正面(前庭や私道を見渡せる可能性あり)、裏庭への入り口が複数ある場合の勝手口に設置して下さい。

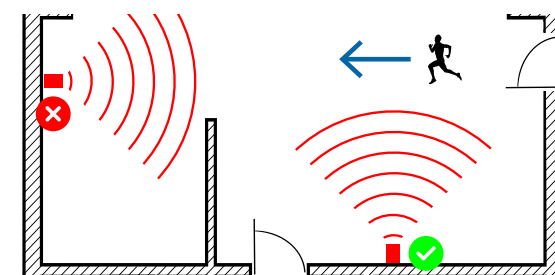
熱センサーカメラに関する参考事項

カメラにはPIR(受動型赤外線モーション検知)センサーが内蔵されています。これは、人、車両や動物を含む温かい物体の動きを感じ取ることができるという意味です。PIRセンサーのないカメラと比較すると、画像の変化による誤認識作動が非常に少ないという利点があります。

- PIRセンサーは、侵入者がセンサーに直接向かって歩いてくるのとは対照的に、カメラに並行して歩く時、すなわちカメラの「視野」を通過する時に一番うまく作動します。例えば、家の周りの廊下や通路では、壁に直接向かって歩くのではなく、壁に並行して歩くと思います。あなたの自宅に近づいてくる人物がカメラの視野を横切り、イベントを作動するようにカメラの位置を決めて下さい。
- 録画を開始するには、PIRが正面を動く温かい物体を感知し、さらにカメラの画像センサーが画像の動きを検知しなければなりません。このいずれかがおきない場合は、ビデオは録画されません。
- PIRが作動すると、PIRアイコン(赤色ボックス)が画面で点滅します。PIRとモーションセンサーが作動すると、「走る人」のアイコン画面に表示され、イベントが起こり、録画が実行されていることを表わします。
- PIRはカメラの視野外にある物体を検知できるので、センサーを作動させるものすべてがカメラで見えるとは限りません。
- PIRは30フィート/9メートルまでの動きを確実に検知しますが、この距離を超えると検知できない場合もあります。
- 通り、道路などの温度が急に変化があり、木や影など画像に動きもあった場合に、誤認アラートが発生する場合もあるのでご注意ください。
- 誤認識作動が起こった場合、モーションエリアセットアップを使い、動く物体を検知から除去し、アラートをさらに調整して下さい(31ページ参照 - [モーション検知セットアップ](#))。
- 室内で使用する場合、PIRを作動させる可能性があるため、暖房の吹き出し口、ヒーターやその他の熱源からカメラを遠ざけて下さい。ただし、画像に動きがなければ、誤認識アラートが起こる可能性は低いでしょう。



室外にカメラを設置する場合、侵入者が最も侵入しやすい場所に取り付けて下さい(フロントドアやバックドア、ガレージ入口)。侵入者がセンサーと平行になるように歩くようにカメラの角度を変えて下さい。



PIRセンサーは、侵入者がセンサーに直接向かって歩いてくるのとは対照的に、カメラに並行して歩く時、すなわちカメラの「視野」を通過する時に一番うまく作動します。

アラーム:抑止力(NHD-885/887MSFB専用)



お使いのNVRの各カメラインプットはCH1、CH2などのように表示されます。

セットアップ: ボタンをクリックして、デフォルトスポットライト検知エリアを変更します。カメラの全体像に対してモーション検知を行うことができますが、希望される場合、特定のエリアを選択できます(36ページを参照 - 抑止力設定)。

スケジュール: ボタンをクリックして、デフォルトのスポットライトスケジュールを変更します(37ページ参照 - スポットライト作動スケジュール)。

感度: このオプションにより、NVRがモーションを検知した時に、スポットライトがどの程度の感度があるかを変更できます。この感度は、カメラのモーション検知感度とは異なります。例を挙げると、背景で起こっている動きを録画したいけれども、1つまたはそれ以上の物体がカメラに近づいてこない限り、スポットライトやサイレンを作動したくない場合があるでしょう。このような場

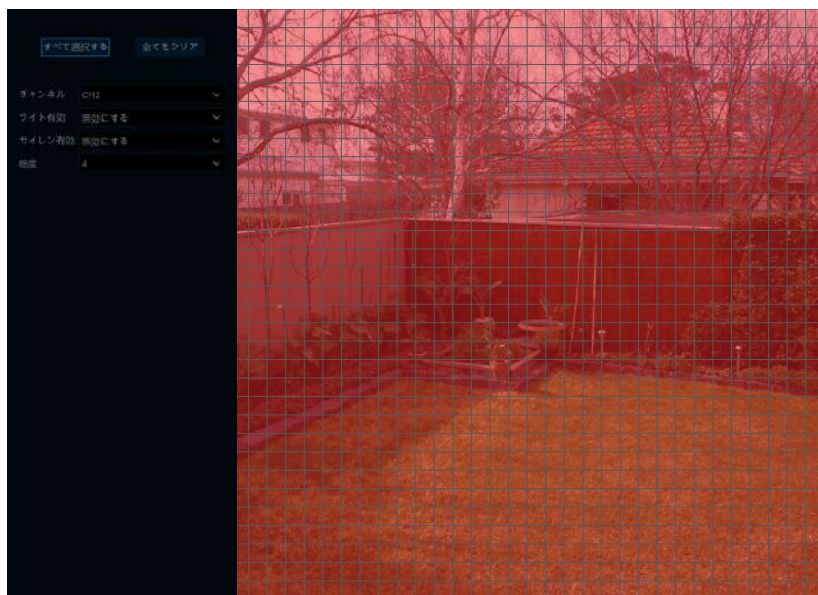
合、感度を1または2に調整して下さい。

ライト有効: チェックボックスをクリックして、カメラのスポットライトを有効にします。

ライト持続時間: モーションが検知された時に、スポットライトが点灯し続ける時間の長さを変更できます。適宜調整して下さい。

サイレン有効: カメラのサイレンはデフォルトでは無効となっています。サイレンが必要な場合、ドロップダウンメニューをクリックして有効にして下さい(この機能はカメラにサイレンが内蔵されている場合にのみご利用いただけます)。警告メッセージが画面に表示されます。[OK] をクリックして続けます。

抑止力設定



1. [すべてをクリア]をクリックして、デフォルトスポットライト検知エリアを削除します。
2. 新規スポットライト検知エリアを作成するには、左マウスボタンを押したままで、開始したいセルや四角を選択してから、クリック&ドラッグして、作成したいエリアを選択します。マウスを離し、終了します。

3. 複数のエリアを作成することもできます。各四角がスポットライトを作動するようにできます。また、同じアクションを使い、作成したエリアの削除もできます。

この例では、裏庭に対してスポットライト検知エリアを作成し、家の後ろ側に1つまたはそれ以上の物体が近づいた時にスポットライトが作動します。

スポットライト検知エリア以外の動きでは、スポットライトは作動しません。

ライト有効: ドロップダウンメニューをクリックして、カメラのスポットライトを有効にします。

感度: ドロップダウンメニューをクリックして、必要に応じて感度を調整します。

サイレン有効: ドロップダウンメニューをクリックして、カメラのサイレンを有効にします。警告メッセージが画面に表示されます。[OK] をクリックして続けます。

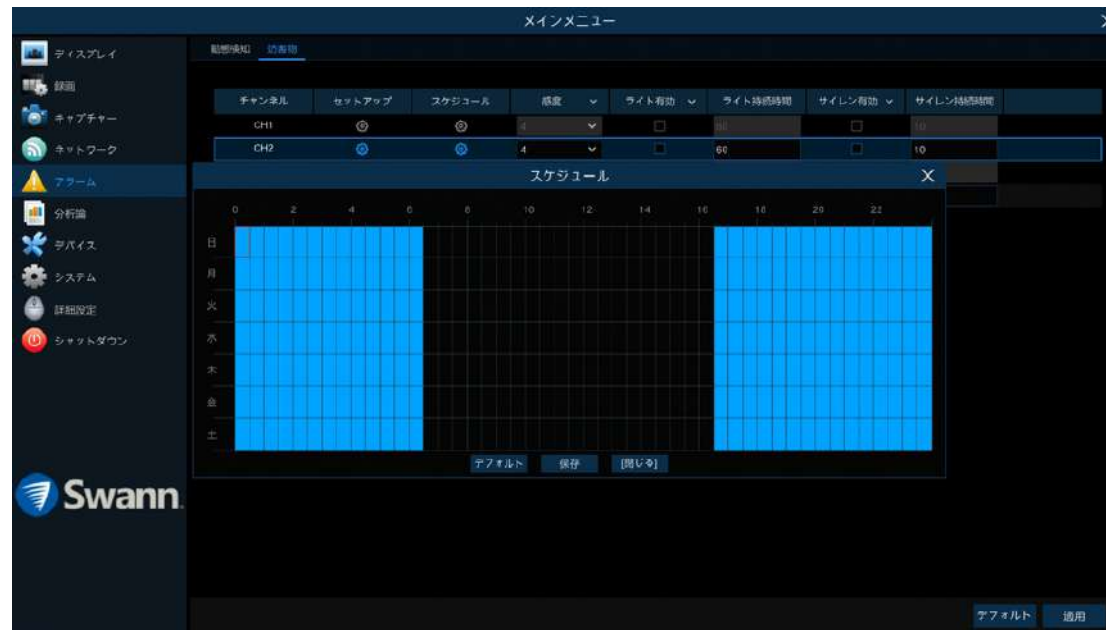
サイレン持続時間: モーションが検知された時に、サイレンがなり続ける時間の長さを変更できます。適宜調整して下さい。

4. マウスを右クリックして終了します。

5. 「適用」をクリックすると、変更事項を保存します。



スポットライト作動スケジュール



デフォルトでは、スポットライトとサイレンは午前6:30から午後4:30までは作動しないようになっていますが、必要に応じて変更できます。

四角1つは30分を表わしています。マウスを使用して、特定の四角を変更するか、希望する期間に呼応する四角の上でマウスをクリック&ドラッグします。

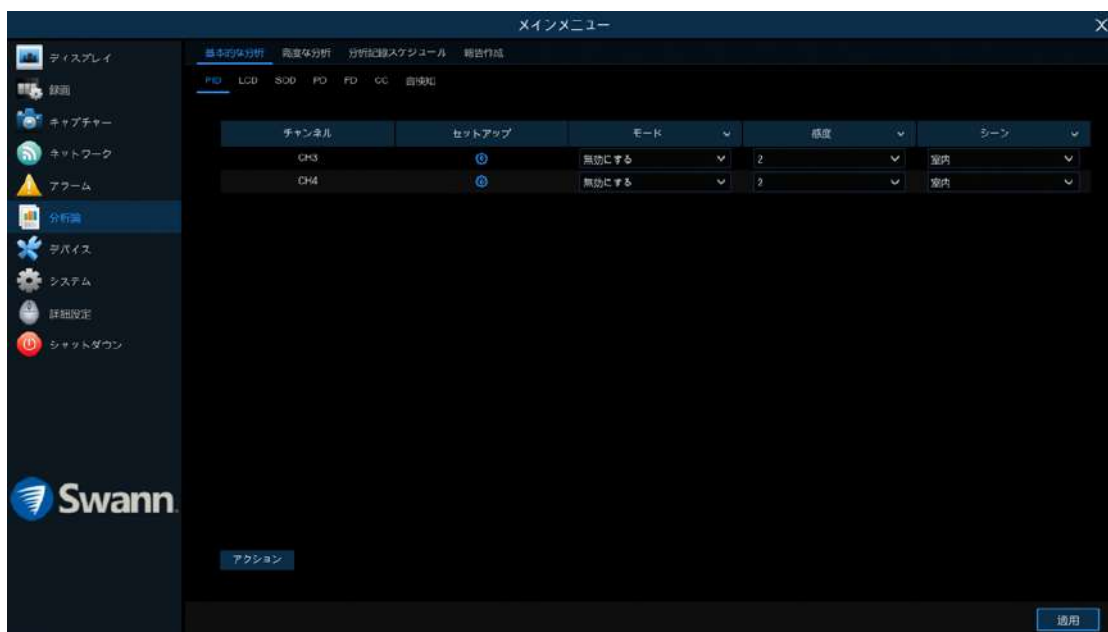
「保存」をクリックすると、変更事項を保存します。マウスを右クリックして終了します。

分析:

分析機能により、NVRがモーションを検知する方法を十分制御できるようになります。顔検知機能も有効にでき、静止物体が持ち去られたり、置いて行かれたことをカメラが検知した場合にアラートを発したり、画像内に引いているラインを超えた動きをカウントすることもできます。検知ラインを引くと、NVRが動きを検知する方向についてルールを適用でき、1つまたはそれ以上の物体が一定時間以内滞在する場合にアラートを発する特定の侵入エリアも定義できます(人が徘徊していたり、駐車禁止場所に車が駐車されている場合などに特に役立ちます)。



分析:PID(周辺侵入検知)



周辺侵入領域は、モーションを監視したい特定エリアを定義するために使用できます。例えば、1つまたはそれ以上の物体が指定時間の間、侵入領域内に留まる場合に、NVRがアラートを発するようにルールを決めることができます。また、物体がどの方向から出入りするのかも選択できます。この機能はNHD-885/886シリーズのみに対応している点にご注意下さい。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインプットはCH1、CH2などのように表示されます。

セットアップ: ボタンをクリックして、1つまたはそれ以上の周辺侵入領域を作成できます(40ページ参照 - [周辺侵入エリアの作成](#))。

モード: 2つの選択肢が利用できます。[PID]を選択して、モーションが検知された時にアラートを受信します。[PID+PIR]を選択して、モーションがカメラおよびカメラ内蔵PIRセンサーで検知された時にアラートを受信します。

感度: 周辺侵入領域の感度レベルを調整します。数値が高ければ高いほど、侵入領域の感度が上がります。

シーン: カメラの場所に合わせた適切な設定を選択します。

アクション: ボタンをクリックし、アラーム通知、アラートなどに関するオプションを変更できます(41ページ参照 - [分析:PID\(周辺侵入検知\) - アクション](#))。



分析機能の1つがモーションを検知した時、ライブビューモードで緑色または赤色の[S]が表示されます。緑色はNVRが録画していないことを、赤色はNVRが録画中であることを表わしています。

周辺侵入領域の作成



周辺侵入領域の削除: 選択するルール番号チェックボックスをクリックし、[削除]ボタンを押します。複数の領域を作成していた場合、[すべて削除]をクリックします。

ルール番号: ドロップダウンメニューをクリックして、作成したいルール番号を選択して下さい。最大4か所の周辺侵入領域を作成できます。

ルール切り替え: この機能は有効のままにして下さい。

ルールタイプ: 3つのルールタイプから選択できます。作成領域に適切なルールを選択します(各領域に異なるルールを選択できます)。

A->B: 物体が方向Aのみからラインを越えた時に、モーションを検知。

B->A: 物体が方向Bのみからラインを越えた時に、モーションを検知。

A<->B: 物体が両方向からラインを越えた時に、モーションを検知。

マウスを使い、4つのポイントを作成して周辺侵入領域を作成します(どんなサイズでも作成できます)。侵入領域を作成時に、NVRはラインを越えることを許しません。

左上図の通り、開始ポイントを1回クリックして、右へ移動し、もう1回クリックして第2ポイントを作成します。マウスを下に動かし、1回クリックして第3ポイントを作成して、左へ移動し、もう1回クリックして第4ポイントを作成します。

削除: 右上例をご覧下さい。

すべて削除: ここをクリックすると、すべての周辺侵入領域を削除します。

保存: ここをクリックして変更事項をすべて保存してから、[OK] をクリックして続行します。

右クリックして終了します。

分析:PID (周辺侵入検知) - アクション



ブザー: モーションが検知されると、NVRブザーを作動し、最初に設定した時間の間、アラートを出します。ドロップダウンメニューをクリックして、時間を選択します。

録画(録画チャンネル): このオプションにより、モーションが検知された時に、NVRにその他のカメラが録画開始を作動するように指示できます。

ポストレコーディング: このオプションにより、イベント発生後、一定時間NVRに録画するように指示できます。ほとんどの場合、デフォルト設定が適切ですが、希望すれば、変更できます。

メッセージを表示: モーションが検知されると、モーションアイコンが画面に表示されます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

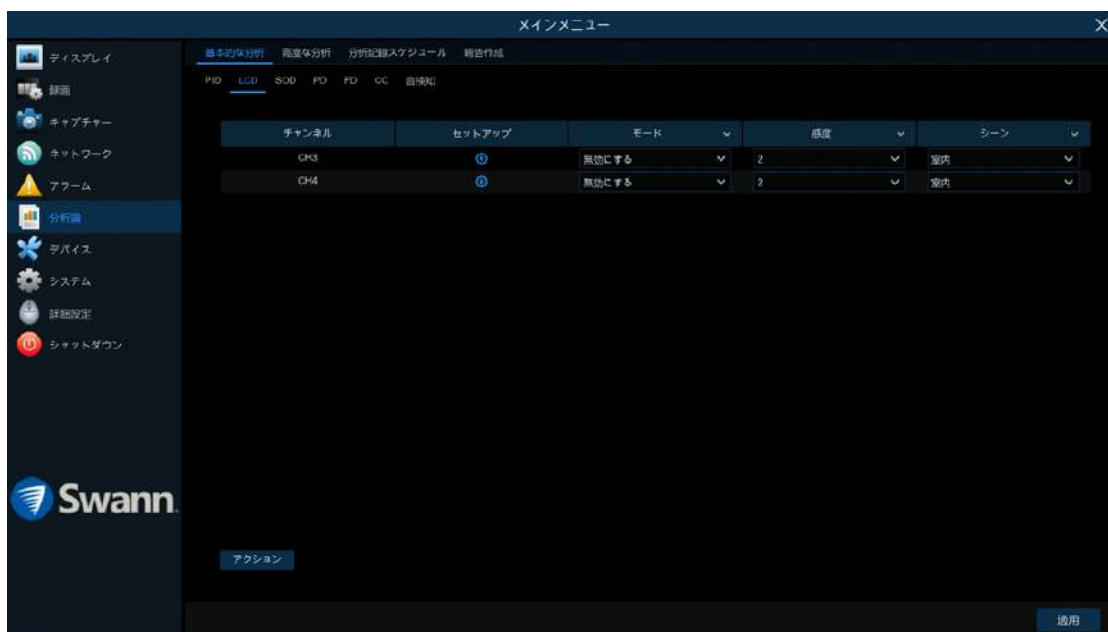
電子メールの送信: モーションが検知されると、電子メールアラートが送信さ

れます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

全画面: チェックボックスをクリックすると、モーションが検知された時にライブビューモードでカメラの全画面を表示できます。

「保存」ボタンをクリックしてから「OK」をクリックします。マウスを右クリックして終了します。

分析:LCD(ライン交差検出)



検知ラインを引くと(どんな方向、長さやアングルでも可能)、どの方向にNVRがモーションを検知するのかについてルールを適用できます。例を挙げると、これを使用して人がフェンスを飛び越えたり、戸口を出入りしたりするのを検知できます。この機能はNHD-885/886シリーズのみに対応している点にご注意下さい。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメララインはCH1、CH2などのように表示されます。

セットアップ: [セットアップ]ボタンをクリックして、1つまたはそれ以上の検知ラインを作成できます(43ページ参照 - [検知ラインの作成](#))。

モード: 2つの選択肢が利用できます。[LCD]を選択して、モーションが検知された時にアラートを受信します。[LCD+PIR]を選択して、モーションがカメラおよびカメラ内蔵PIRセンサーで検知された時にアラートを受信します。

感度: 検知ラインの感度レベルを調整します。数値が高ければ高いほど、検知の感度が上がります。

シーン: カメラの場所に合わせた適切な設定を選択します。

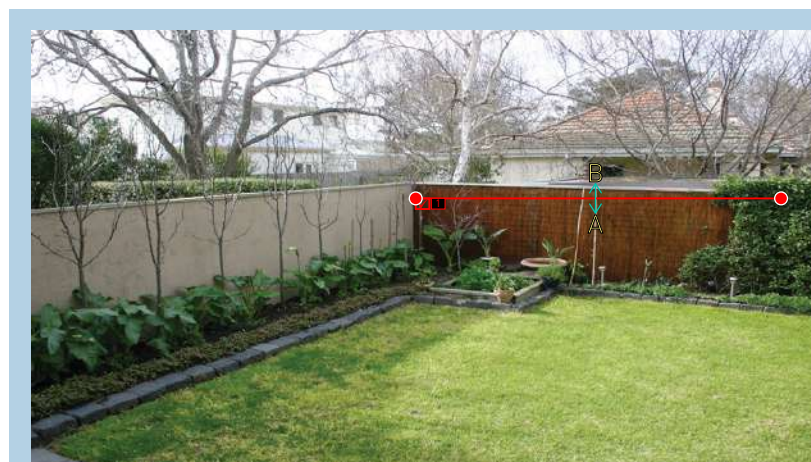
アクション: ボタンをクリックし、アラーム通知、アラートなどに関するオプションを変更できます(44ページ参照 - [分析: LCD \(ライン交差検出\) - アクシ](#)

ン)。



分析機能の1つがモーションを検知した時、ライブビューモードで緑色または赤色の[S]が表示されます。緑色はNVRが録画していないことを、赤色はNVRが録画中であることを表わしています。

検知ラインの作成



検知ラインの削除: 選択するルール番号チェックボックスをクリックし、[削除]ボタンを押します。複数のラインを作成していた場合、[すべて削除]をクリックします。

ルール番号: ドロップダウンメニューをクリックして、作成したいルール番号を選択して下さい。最大4本の検知ラインを作成できます。

ルール切り替え: この機能は有効のままにして下さい。

ルールタイプ: 3つのルールタイプから選択できます。ライン作成に適切なルールを選択します(各ラインに異なるルールを選択できます)。

A->B: 物体が方向Aのみからラインを越えた時に、モーションを検知。

B->A: 物体が方向Bのみからラインを越えた時に、モーションを検知。

A<->B: 物体が両方向からラインを越えた時に、モーションを検知。

マウスを使い、1回開始ポイントをクリックしてから、エンドポイントをもう1度クリックします。検知ラインは2つのポイントの間に引かれます。方向Aおよび方向Bが表示され、検知ラインに適用できるルールを表示します。検知ライン

はどの方向、長さ、アングルでも引けます。

左上図の通り、検知ラインがフェンスラインに対して引かれています。ルールB->Aを選択した場合、物体が方向Bのみからラインを越えた時に、モーションを検知します。

削除: 右上例をご覧ください。

すべて削除: ここをクリックすると、すべての検知ラインを削除します。

保存: ここをクリックして変更事項をすべて保存してから、[OK] をクリックして続行します。

右クリックして終了します。

分析:LCD (ライン交差検出) - アクション



ブザー: モーションが検知されると、NVRブザーを作動し、最初に設定した時間の間、アラートを出します。ドロップダウンメニューをクリックして、時間を選択します。

録画(録画チャンネル): このオプションにより、モーションが検知された時に、NVRにその他のカメラが録画開始を作動するように指示できます。

ポストレコーディング: このオプションにより、イベント発生後、一定時間NVRに録画するように指示できます。ほとんどの場合、デフォルト設定が適切ですが、希望すれば、変更できます。

メッセージを表示: モーションが検知された時、モーションアイコンが画面上に表示されます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

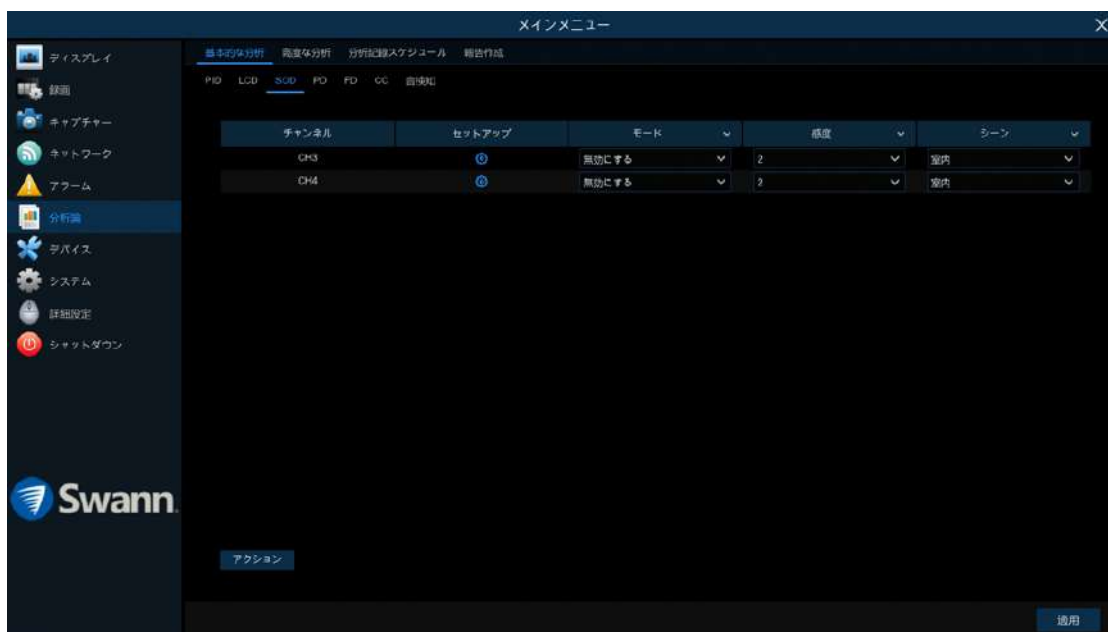
電子メールの送信: チェックボックスをクリックしてNVRを有効にすると、モ-

ーションが検知された時に電子メールアラートを送信します。

全画面: チェックボックスをクリックすると、モーションが検知された時にライブビューモードでカメラの全画面を表示できます。

「保存」ボタンをクリックしてから「OK」をクリックします。マウスを右クリックして終了します。

分析:SOD(静止物体検知)



この機能は、自宅内および周辺の静止物体の監視に使用可能です。物体周辺にエリアを作成することで、その物体が削除されると、NVRは録画を作動し、イベントを知らせます。貴重品を保護するため、あるいは宅急便が配達されたことを検知するためにポーチで使用してください。この機能はNHD-885/886シリーズのみに対応している点にご注意下さい。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインプットはCH1、CH2などのように表示されます。

セットアップ: [セットアップ] ボタンをクリックして、1本またはそれ以上の検知ラインを作成できます(46ページ参照 - 物体検知領域の作成)。

モード: 2つの選択肢が利用できます。[SOD]を選択して、モーションが検知された時にアラートを受信します。[SOD+PIR]を選択して、モーションがカメラおよびカメラ内蔵PIRセンサーで検知された時にアラートを受信します。

感度: 物体検知領域の感度レベルを調整します。数値が高ければ高いほど、検知の感度が上がります。

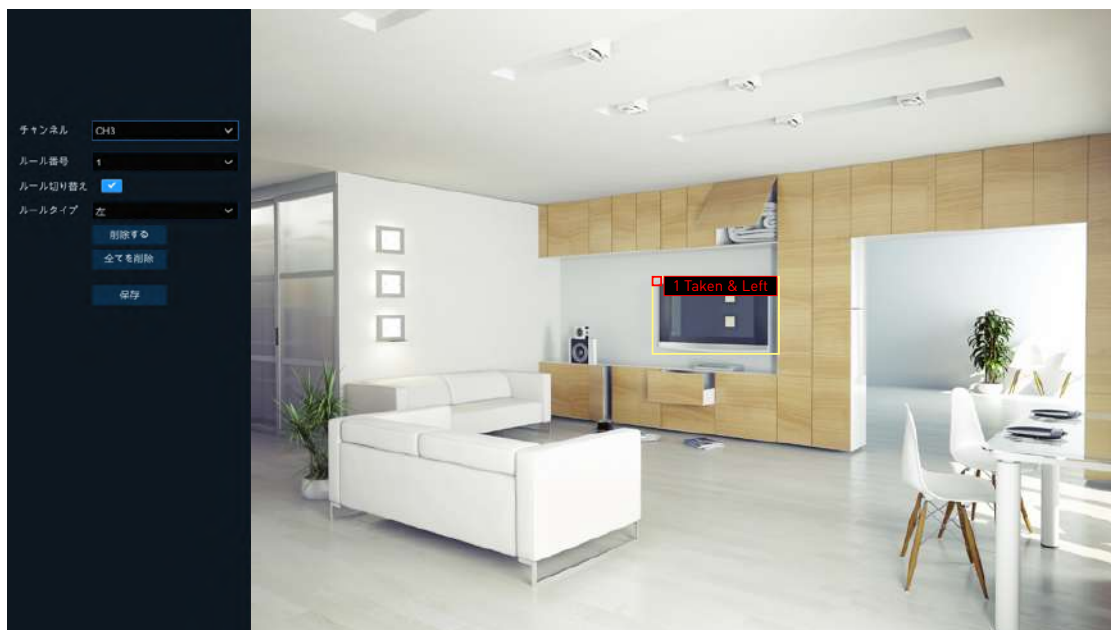
シーン: カメラの場所に合わせた適切な設定を選択します。

アクション: ボタンをクリックし、アラーム通知、アラートなどに関するオプションを変更できます(47ページ参照 - 分析: SOD (静止物体検知) - アクション)



分析機能の1つがモーションを検知した時、ライブビューモードで緑色または赤色の[S]が表示されます。緑色はNVRが録画していないことを、赤色はNVRが録画中であることを表わしています。

物体検知領域の作成



物体検知領域の削除: 選択するルール番号チェックボックスをクリックし、[削除]ボタンを押します。複数の領域を作成していた場合、[すべて削除]をクリックします。

ルール番号: ドロップダウンメニューをクリックして、作成したいルール番号を選択して下さい。最大4か所の物体検知領域を作成できます。

ルール切り替え: この機能は有効のままにして下さい。

ルールタイプ: ルールタイプは1つのみご利用いただけます。

持ち去りと置き去り: 物体が物体検知領域内で持ち去られた場合および/または置き去られた場合に、イベントが発生します。

マウスを使い、4つのポイントを作成し物体検知領域を作成します(どんなサイズでも作成できます)。検知領域を作成時に、NVRはラインを越えることを許可しません。検知領域が検知物体サイズよりも大きいまたは等しくなるようにして下さい。

左上図の通り、開始ポイントを1回クリックして、右へ移動し、もう1回クリックし

て第2ポイントを作成します。マウスを下に動かし、1回クリックして第3ポイントを作成して、左へ移動し、もう1回クリックして第4ポイントを作成します。

削除: 右上例をご覧下さい。

すべて削除: ここをクリックすると、すべての物体検知領域を削除します。

保存: ここをクリックして変更事項をすべて保存してから、[OK] をクリックして続行します。

右クリックして終了します。

分析:SOD(静止物体検知) - アクション



ブザー: モーションが検知されると、NVRブザーを作動し、最初に設定した時間の間、アラートを出します。ドロップダウンメニューをクリックして、時間を選択します。

録画(録画チャンネル): このオプションにより、モーションが検知された時に、NVRにその他のカメラが録画開始を作動するように指示できます。

ポストレコーディング: このオプションにより、イベント発生後、一定時間NVRに録画するように指示できます。ほとんどの場合、デフォルト設定が適切ですが、希望すれば、変更できます。

メッセージを表示: モーションが検知されると、モーションアイコンが画面に表示されます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

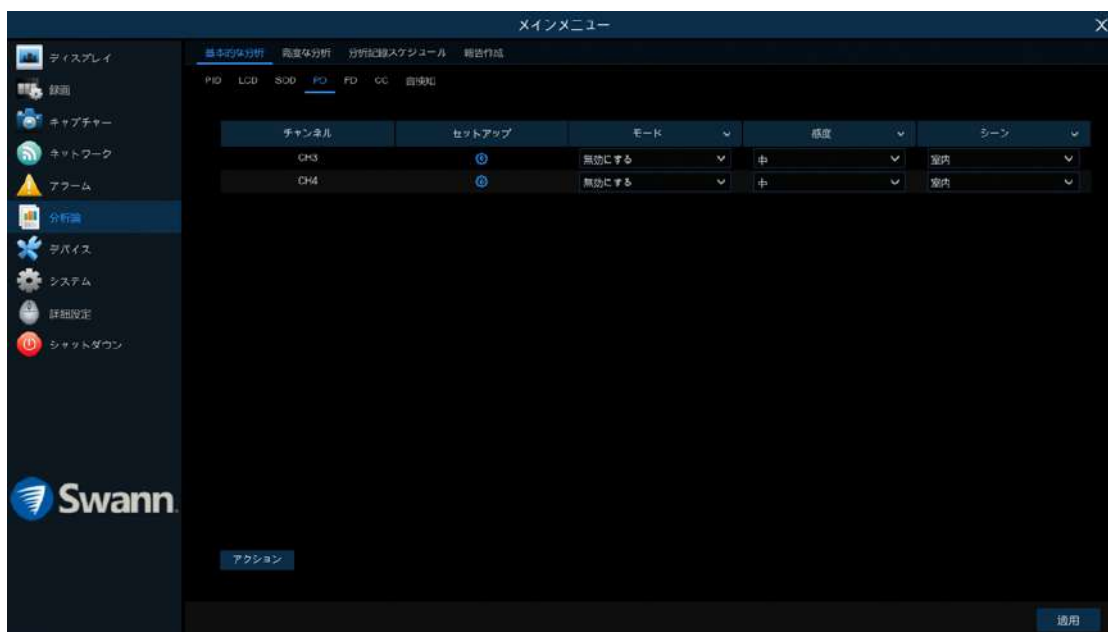
電子メールの送信: モーションが検知されると、電子メールアラートが送信さ

れます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

全画面: チェックボックスをクリックすると、モーションが検知された時にライブビューモードでカメラの全画面を表示できます。

「保存」ボタンをクリックしてから「OK」をクリックします。マウスを右クリックして終了します。

分析:PD(歩行者検知)



この機能により、人の形をした物体の動きを見分けます。検知された場合、NVRは録画を作動し、アラートも送信します。あなたの所有物や住居に向かって歩いてくる人物を検知するために使用します。この機能はNHD-885/886シリーズのみに対応している点にご注意下さい。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインプットはCH1、CH2などのように表示されます。

セットアップ: [セットアップ] ボタンをクリックして、1本またはそれ以上の検知ラインを作成できます(49ページ参照 [歩行者検知領域の作成](#))。

モード: 2つの選択肢が利用できます。[PD]を選択して、モーションが検知された時にアラートを受信します。[PD+PIR]を選択して、モーションがカメラおよびカメラ内蔵PIRセンサーで検知された時にアラートを受信します。

感度: 歩行者検知領域の感度レベルを調整します。数値が高ければ高いほど、検知の感度が上がります。

シーン: カメラの場所に合わせた適切な設定を選択します。

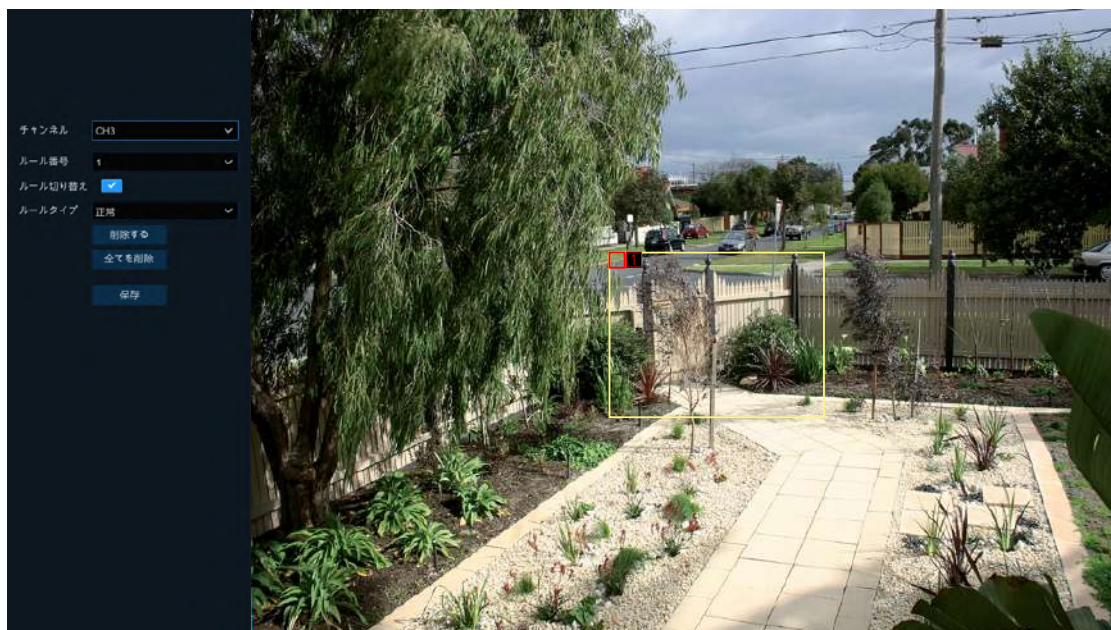
アクション: ボタンをクリックし、アラーム通知、アラートなどに関するオプションを変更できます(50ページ参照 - [分析: PD\(歩行者検知\) - アクション](#))。



分析機能の1つがモーションを検知した時、ライブビューモードで緑色または赤色の[S]が表示されます。緑色はNVRが録画していないことを、赤色はNVRが録画中であることを表わしています。

注: この機能は、PID、LCD、SOD分析機能が無効になっている場合にのみ使用できます。

歩行者検知領域の作成



歩行者検知領域の削除: 選択するルール番号チェックボックスをクリックし、[削除]ボタンを押します。

ルール切り替え: この機能は有効のままにしてください。

マウスを使い、4つのポイントを作成して歩行者検知領域を作成します(どんなサイズでも作成できます)。検知領域を作成時に、NVRはラインを越えることを許可しません。検知領域が検知物体サイズよりも大きいまたは等しくなるようにしてください。

左上図の通り、開始ポイントを1回クリックして、右へ移動し、もう1回クリックして第2ポイントを作成します。マウスを下に動かし、1回クリックして第3ポイントを作成して、左へ移動し、もう1回クリックして第4ポイントを作成します。

削除: 右上例をご覧ください。

すべて削除: ここをクリックすると、すべての歩行者検知領域を削除します。

保存: ここをクリックして変更事項をすべて保存してから、[OK] をクリックして

続行します。

右クリックして終了します。

分析:PD(歩行者検知) - アクション



ブザー: モーションが検知されると、NVRブザーを作動し、最初に設定した時間の間、アラートを出します。ドロップダウンメニューをクリックして、時間を選択します。

録画(録画チャンネル): このオプションにより、モーションが検知された時に、NVRにその他のカメラが録画開始を作動するように指示できます。

ポストレコーディング: このオプションにより、イベント発生後、一定時間NVRに録画するように指示できます。ほとんどの場合、デフォルト設定が適切ですが、希望すれば、変更できます。

メッセージを表示: モーションが検知されると、モーションアイコンが画面に表示されます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

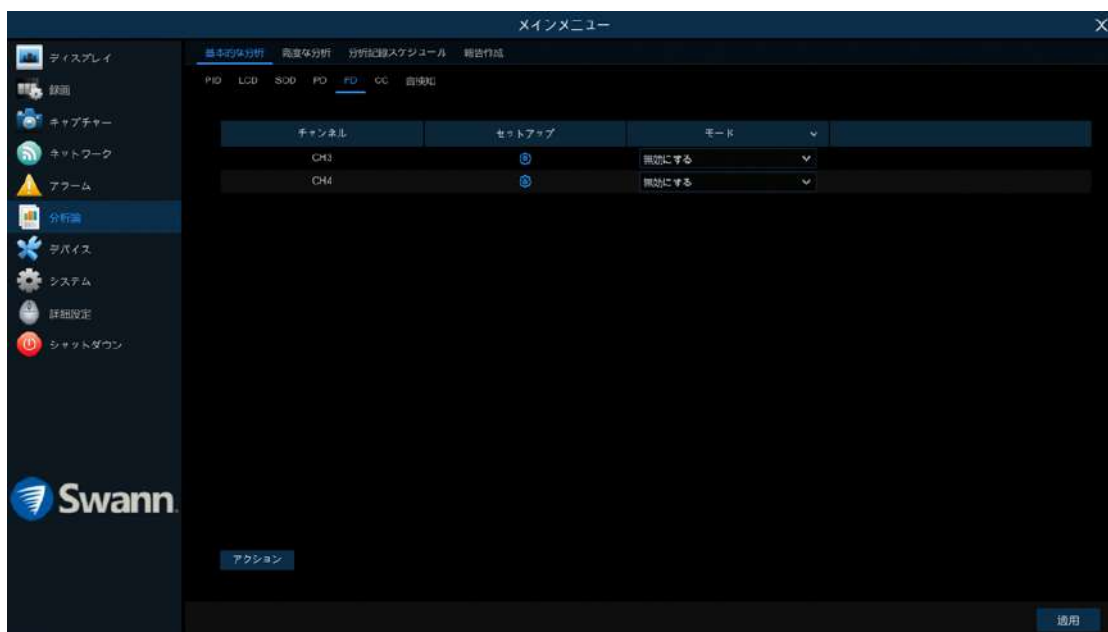
電子メールの送信: モーションが検知されると、電子メールアラートが送信さ

れます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

全画面: チェックボックスをクリックすると、モーションが検知された時にライブビューモードでカメラの全画面を表示できます。

「保存」ボタンをクリックしてから「OK」をクリックします。マウスを右クリックして終了します。

分析:FD(顔検知)



この機能を有効にすると、あなたが監視したい異なるエリアの監視方法を改善できます。人の顔が検知された場合、NVRは録画を作動し、アラートも送信します。特定の時間に人が歩き回るべきでない制限された場所に最適です。この機能はNHD-885/886シリーズのみに対応している点にご注意下さい。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインプットはCH1、CH2などのように表示されます。

セットアップ: [セットアップ]ボタンをクリックして、1本またはそれ以上の検知ラインを作成できます(52ページ参照 顔検知領域の作成)。

モード: 2つの選択肢が利用できます。[FD]を選択して、モーションが検知された時にアラートを受信します。[FD+PIR]を選択して、モーションがカメラおよびカメラ内蔵PIRセンサーで検知された時にアラートを受信します。

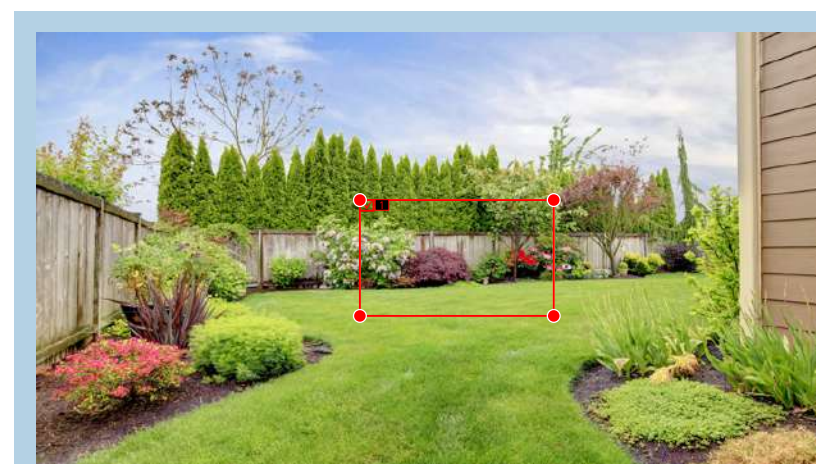
アクション: ボタンをクリックし、アラーム通知、アラートなどに関するオプションを変更できます(53ページ参照 - 分析: FD(顔検知) - アクション)。



分析機能の1つがモーションを検知した時、ライブビューモードで緑色または赤色の[S]が表示されます。緑色はNVRが録画していないことを、赤色はNVRが録画中であることを表わしています。

注: この機能は、PID、LCD、SOD分析機能が無効になっている場合にのみ使用できます。

顔検知領域の作成



顔検知領域の削除: 選択するルール番号チェックボックスをクリックし、[削除]ボタンを押します。

ルール切り替え: この機能は有効のままにしてください。

マウスを使い、4つのポイントを作成して顔検知領域を作成します(どんなサイズでも作成できます)。検知領域を作成時に、NVRはラインを越えることを許可しません。検知領域が検知物体サイズよりも大きいまたは等しくなるようにしてください。

左上図の通り、開始ポイントを1回クリックして、右へ移動し、もう1回クリックして第2ポイントを作成します。マウスを下に動かし、1回クリックして第3ポイントを作成して、左へ移動し、もう1回クリックして第4ポイントを作成します。

削除: 右上例をご覧ください。

すべて削除: ここをクリックすると、すべての顔検知領域を削除します。

保存: ここをクリックして変更事項をすべて保存してから、[OK] をクリックして

続行します。

右クリックして終了します。

分析:FD(顔検知) - アクション



ブザー: モーションが検知されると、NVRブザーを作動し、最初に設定した時間の間、アラートを出します。ドロップダウンメニューをクリックして、時間を選択します。

録画(録画チャンネル): このオプションにより、モーションが検知された時に、NVRにその他のカメラが録画開始を作動するように指示できます。

ポストレコーディング: このオプションにより、イベント発生後、一定時間NVRに録画するように指示できます。ほとんどの場合、デフォルト設定が適切ですが、希望すれば、変更できます。

メッセージを表示: モーションが検知されると、モーションアイコンが画面に表示されます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

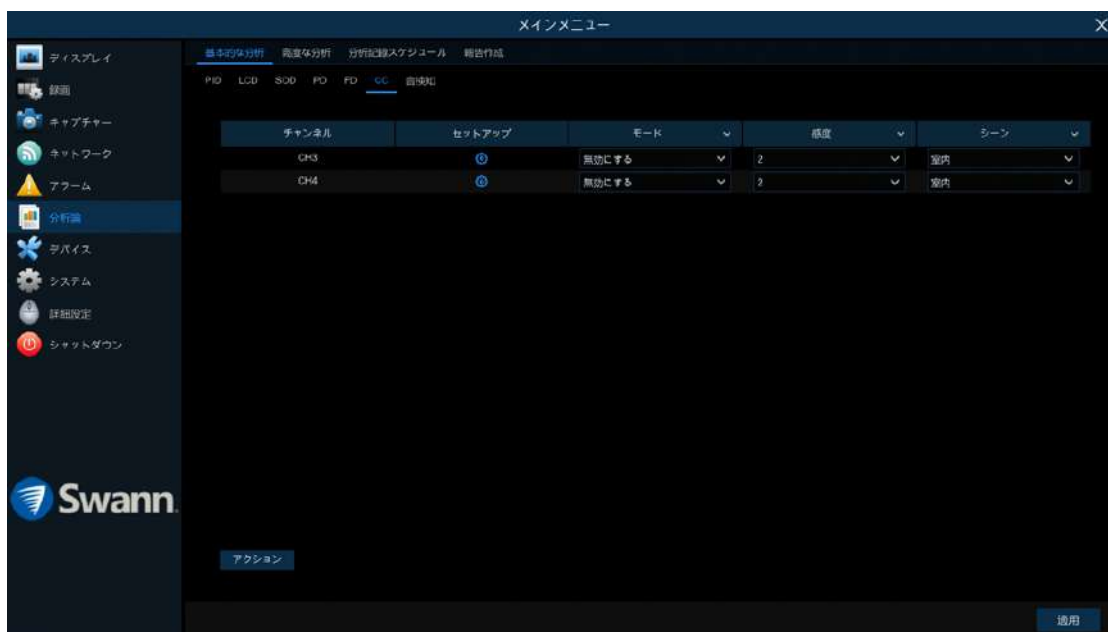
電子メールの送信: モーションが検知されると、電子メールアラートが送信さ

れます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

全画面: チェックボックスをクリックすると、モーションが検知された時にライブビューモードでカメラの全画面を表示できます。

「保存」ボタンをクリックしてから「OK」をクリックします。マウスを右クリックして終了します。

分析:CC(クロスカウンティング)



この機能は、物体や人が両方向からカウントラインを越えた回数を数えます。有効になったカメラのライブビューでこれを表示します。この機能は、ビジネスを行う際に、敷地内を出入りする顧客数を数えることができるので特に便利です。この機能はNHD-885/886シリーズのみに対応している点にご注意下さい。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインポートはCH1、CH2などのように表示されます。

セットアップ: [セットアップ]ボタンをクリックして、1本またはそれ以上の検知ラインを作成できます(55ページ参照 - [カウントラインの作成](#))。

モード: 2つの選択肢が利用できます。[CC]を選択して、モーションが検知された時にアラートを受信します。[CC+PIR]を選択して、モーションがカメラおよびカメラ内蔵PIRセンサーで検知された時にアラートを受信します。

感度: カウントラインの感度レベルを調整します。数値が高ければ高いほど、検知の感度が上がります。

シーン: カメラの場所に合わせた適切な設定を選択します。

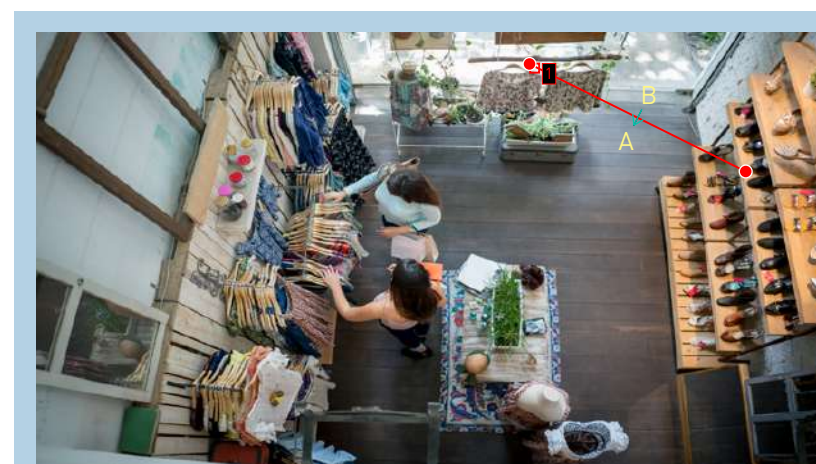
アクション: ボタンをクリックし、アラーム通知、アラートなどに関するオプションを変更できます(56ページ参照 - [分析: CC\(クロスカウント\) - アクション](#))。



分析機能の1つがモーションを検知した時、ライブビューモードで緑色または赤色の[S]が表示されます。緑色はNVRが録画していないことを、赤色はNVRが録画中であることを表わしています。

注: この機能は、PID、LCD、SOD分析機能が無効になっている場合にのみ使用できます。

カウントラインの作成



カウントラインの削除: 選択するルール番号チェックボックスをクリックし、[削除]ボタンを押します。

ルール切り替え: この機能は有効のままにしてください。

ルールタイプ: 線引きに関する適切なルールを選択します。2つのルールが利用でき、イン/アウトのカウント方向が変更できます。

マウスを使い、1回開始ポイントをクリックしてから、エンドポイントをもう1度クリックします。カウントラインは2つのポイントの間に引かれます。方向Aおよび方向Bが表示され、カウントラインに適用できるルールを表示します。カウントラインはどの方向、長さ、アングルでも引けます。

左上図の通り、カウントラインが店舗入り口に対して引かれています。人が入ってくると、インのカウンターが増え、人が出ると、アウトのカウンターが増えます。

削除: 右上例をご覧ください。

すべて削除: ここをクリックすると、すべての検知ラインを削除します。

保存: ここをクリックして変更事項をすべて保存してから、[OK] をクリックして続行します。

右クリックして終了します。

分析:CC(クロスカウント) - アクション



ブザー: モーションが検知されると、NVRブザーを作動し、最初に設定した時間の間、アラートを出します。ドロップダウンメニューをクリックして、時間を選択します。

録画(録画チャンネル): このオプションにより、モーションが検知された時に、NVRにその他のカメラが録画開始を作動するように指示できます。

ポストレコーディング: このオプションにより、イベント発生後、一定時間NVRに録画するように指示できます。ほとんどの場合、デフォルト設定が適切ですが、希望すれば、変更できます。

メッセージを表示: モーションが検知されると、モーションアイコンが画面に表示されます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

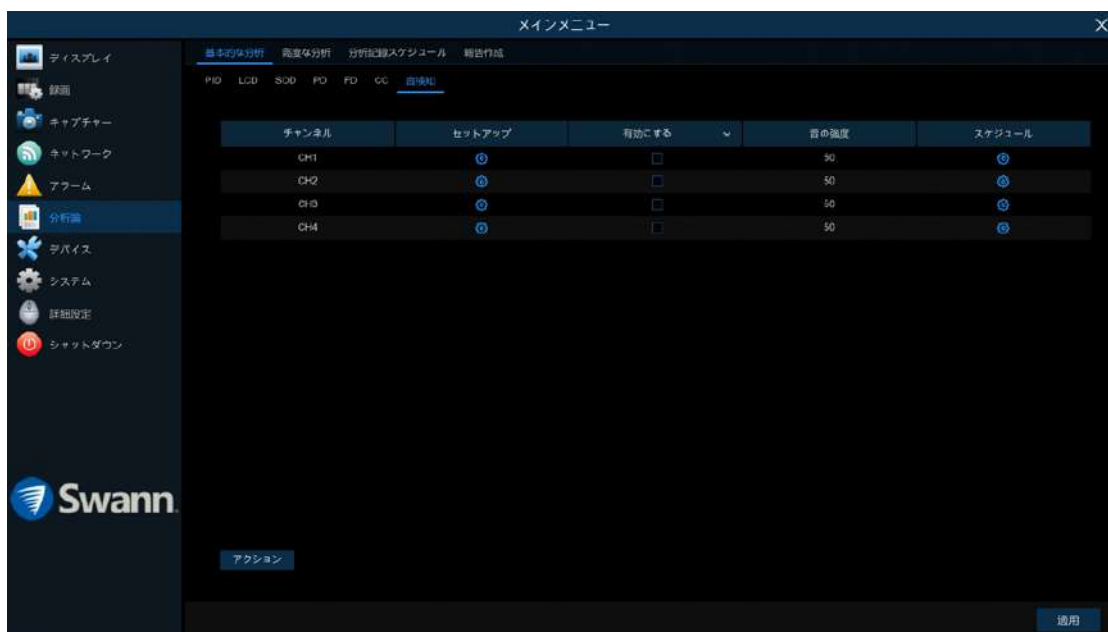
電子メールの送信: モーションが検知されると、電子メールアラートが送信さ

れます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

全画面: チェックボックスをクリックすると、モーションが検知された時にライブビューモードでカメラの全画面を表示できます。

「保存」ボタンをクリックしてから「OK」をクリックします。マウスを右クリックして終了します。

分析:音検知



多くのセキュリティインシデントは音が先に発生したり、音で始まることが多いので、音検知機能により、NVRが設定した作動レベルと一致または越えるとアラートが送信されます。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインプットはCH1、CH2などのように表示されます。

セットアップ: [セットアップ] ボタンをクリックして、作動レベルを変更します (58ページ参照 - [オーディオ作動レベルの変更](#))。

有効: チェックボックスをクリックして音検知を有効にします。

スケジュール: ボタンをクリックして、デフォルトの音検知スケジュールを変更します (59ページ参照 - [音検知スケジュール](#))。

アクション: ボタンをクリックし、アラーム通知、アラートなどに関するオプションを変更できます (60ページ参照 - [分析: 音検知 - アクション](#))。

オーディオ作動レベルの変更



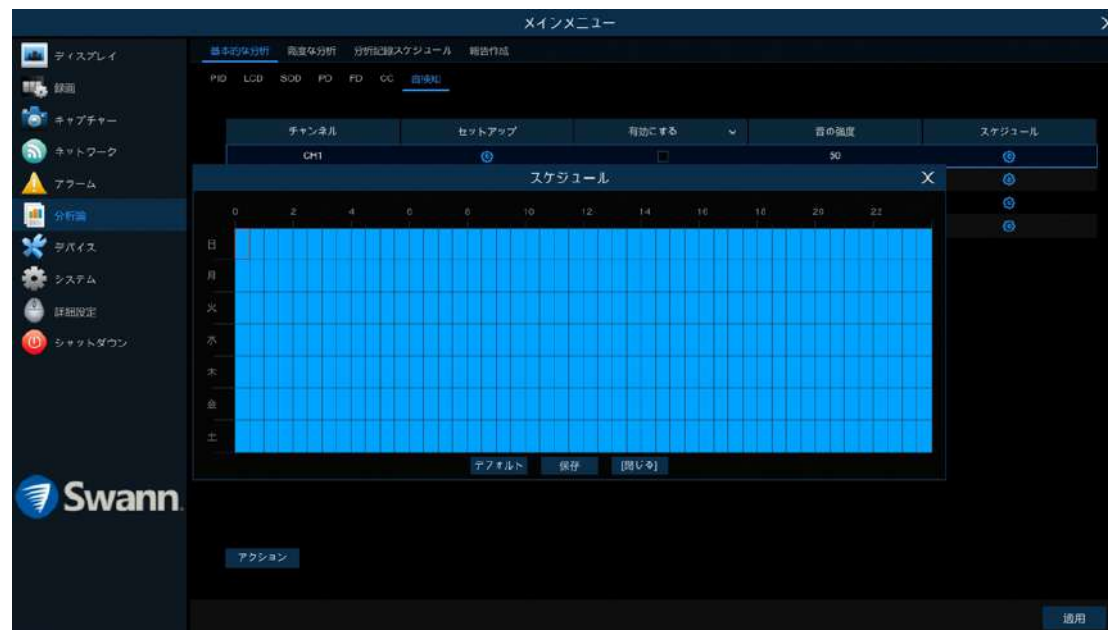
作動レベル: スライダーをクリックしたまま左右に動かすと、希望する作動レベルを設定できます。例えば、作動レベルを20に設定すると、このレベルに一致または越えるレベルの音を検知すると、イベントが発生し、アラートが送信されます。

ライブレベル: これにより、カメラ内蔵マイクを使ってNVRが検知したオーディオのリアルタイム値を提供します。

保存: ここをクリックして変更事項をすべて保存してから、[OK] をクリックして続行します。

右クリックして終了します。

音検知スケジュール



四角1つは30分を表わしています。マウスを使用して、特定の四角を変更するか、希望する期間に呼応する四角の上でマウスをクリック&ドラッグします。音検知スケジュールが必要でない場合(1つまたはそれ以上のセクションが有効でない場合)、同じアクションを適用可能です。

「保存」をクリックすると、変更事項を保存します。マウスを右クリックして終了します。

分析:音検知-アクション



ブザー: モーションが検知されると、NVRブザーを作動し、最初に設定した時間の間、アラートを出します。ドロップダウンメニューをクリックして、時間を選択します。

録画(録画チャンネル): このオプションにより、モーションが検知された時に、NVRにその他のカメラが録画開始を作動するように指示できます。

ポストレコーディング: このオプションにより、イベント発生後、一定時間NVRに録画するように指示できます。ほとんどの場合、デフォルト設定が適切ですが、希望すれば、変更できます。

メッセージを表示: モーションが検知されると、モーションアイコンが画面に表示されます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

電子メールの送信: モーションが検知されると、電子メールアラートが送信さ

れます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

プッシュ: チェックボックスをクリックすると、スワンセキュリティアプリ経由でプッシュ通知を受信します(プッシュ通知とはモバイルデバイス上にポップアップするメッセージです)。

全画面: チェックボックスをクリックすると、モーションが検知された時にライブビューモードでカメラの全画面を表示できます。

「保存」ボタンをクリックしてから「OK」をクリックします。マウスを右クリックして終了します。

詳細分析:顔管理



顔管理機能を使用し、許可リストとブロックリストグループで顔プロフィールを作成・管理し、顔マッチング類似閾値を構成し、監視中エリアで顔認識イベントが検知された際に講じるグループアクションをカスタマイズします。この機能はNHD-887シリーズのみに対応している点にご注意下さい。

- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインポートはCH1、CH2などのように表示されます。

データベースのインポート: 許可リスト&ブロックリスト設定のバックアップやUSBフラッシュドライブからの顔プロフィールを回復できます。この作業により既存設定や顔プロフィールは上書きされるのでご注意ください。

バックアップデータベース: [許可リストとブロックリスト]設定(有効、類似性、アクションなど)および顔プロフィールをUSBフラッシュドライブに保存します。

グループ名: グループの名前です。デフォルトでは、許可リスト、ブロックリストと見知らぬ人という3つのプリセットグループがあります。認識できない顔は初回は見知らぬ人に分類されます。フィールドをクリックし、新しい名前をタイプして、デフォルトのグループ名を変更できます。

+/-: アイコンをクリックして、カスタム顔グループを追加できます。

編集: アイコンをクリックして、許可リスト&ブロックリストの顔プロフィールを管理できます。データベースで顔を検索し、顔プロフィールの作成や複数の顔画像を既存のプロフィールに追加し、顔認識の精度を向上できます。(67ページ参照 - 顔プロフィールの作成)。

有効: チェックボックスがチェックされていない場合、NVRはアラーム通知などグループに指定されたアクションを実施しません。

方針: 本設定は3つのプリセット顔グループに対して構成不可能です。カスタムグループを作成した場合、許可、拒否または詳細のいずれか1つのカスタムグループの方針を設定できます。

(次ページに続く)

詳細分析:顔管理



類似性: 検知した顔が認識マッチであると見なされるためには、グループ内の顔プロフィールとどれくらいぴったり一致しなければならないかをパーセンテージで設定します。デフォルト閾値は70%です。類似性パーセンテージを高くすれば高くするほど、誤認識結果が低くなります。

アクション: ボタンをクリックして、顔認識イベントが発生した際に、NVRが講じるグループアクションを指定します。検知済みの顔の画像を保存し、イベント通知を有効にする、その他のオプションがあります(63ページを参照 [- 詳細分析: 顔管理 - アクション](#))。

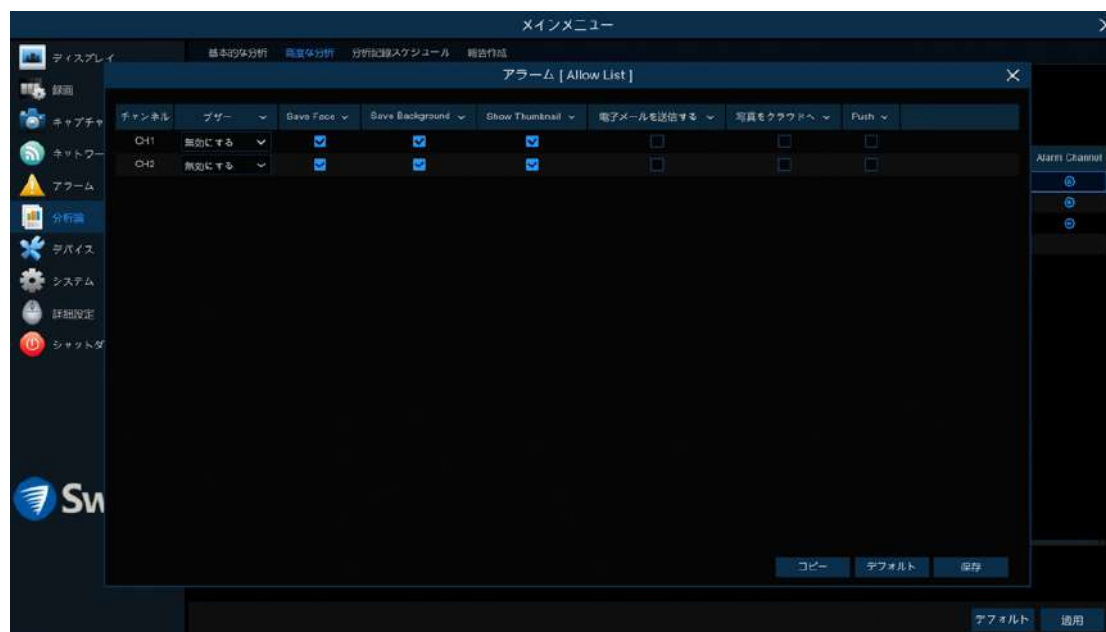
アクションスケジュール: ボタンをクリックして、グループに指定したアクションが実施されるスケジュールを編集できます。



「見知らぬ人」グループを「有効にする」チェックボックスにチェックが入ったままになっていることを確認して下さい。これにより、NVRは

既存の顔プロフィールとは一致しない画像も含み、検知した顔の画像を1つ1つすべて保存し、データベースに保存できます。このような顔画像を後で使用して、許可リスト&ブロックリストグループの顔プロフィールを作成または改善できます。

詳細分析:顔管理 - アクション



ブザー:顔認識イベントが検知されると、NVRブザーを作動し、最初に設定した時間の間、アラートを出します。ドロップダウンメニューをクリックして、時間を選択します。

顔の保存:認識した顔のスナップショットがNVRの顔データベースに保存されるかどうかを決めます。このオプションを有効にしたままにすると、より多くの顔画像がプロフィールに追加でき、後で顔認識精度を改善できます。

背景の保存:背景のスナップショットを顔画像と一緒に保存するかどうかを決めます。このオプションを有効にしたままにすると、詳細顔検索(検索>詳細)を実施した際に、顔画像を右クリックして[詳細情報]を選択し、背景のスナップショットを表示できます。

サムネイルの表示:ライブビューモードで分析通知パネル経由で認識された顔のスナップショットを含む、顔認識イベント通知を作成するかどうかを決め

ます。このオプションを無効にすると、分析通知パネルに顔認識イベントが表示されなくなります。

電子メールの送信:モーションが検知されると、電子メールアラートが送信されます。これを無効にしたい場合、チェックボックスをクリックして下さい。

写真をクラウドへ:チェックボックスをクリックすると、Dropbox経由でクラウドへスナップショットがコピーされます(107ページを参照 - [デバイス: クラウドストレージ](#))。

プッシュ:チェックボックスをクリックすると、スワンセキュリティアプリ経由でプッシュ通知を受信します(プッシュ通知とはモバイルデバイス上にポップアップするメッセージです)。

「保存」ボタンをクリックしてから「OK」をクリックします。マウスを右クリックして終了します。

詳細分析:顔認識



この機能はNHD-887シリーズのみに対応している点にご注意下さい。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインプットはCH1、CH2などのように表示されます。

セットアップ: [セットアップ] ボタンをクリックして、顔認識の最低ピクセルサイズや検知エリアなどのデフォルトのビデオ分析設定を変更します(65ページ参照 - 顔認識設定)。

モード: 2つの選択肢が利用できます。「FR」を選択すると、カメラの顔認識が有効になり、カメラが指定検出エリアで顔を検出した時は常にイベントを録画します。「FR+PIR」を選択すると、顔認識が有効になり、カメラが指定検出エリアで顔を検出し、さらにカメラの内蔵PIRセンサーで動きを検知した時は常にイベントを録画します。



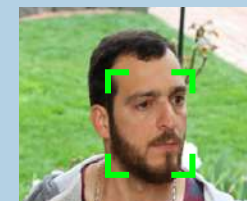
顔認識がカメラで有効になると、人と車両検知が無効となり、その逆も可能です。同時にカメラ上で両方の機能を作動させることはできません。

顔認識設定



黄色の四角が付いた緑色で囲まれたボックスは、指定された最小ピクセル値を表わしています。これは、検出エリアの顔が最低でもこのボックスのサイズ(ビューと比較して)でなければ、イベントが作動しないことを意味しています。黄色の四角をクリック&ドラッグして、ボックスのサイズとその値を調節します。ボックス内のどこかをクリックし、ビューエリア内をドラッグして、顔サイズを測定・チェックします。

カメラが顔を認識すると、緑色の追跡フレームが顔を囲むように表示されます。これらの緑色の追跡フレームがライブビュー(メインストリーム専用)とFRイベント再生中に表示できます。



スナップモード: 認識された顔を含むスナップショットをどのようにキャプチャするかを選択します。これにより、受信する顔認識通知数が変わります:

リアルタイムモード: カメラが顔検知エリアに出入りした人物の顔を追跡・キャプチャします。分析通知パネルには2つの通知があり、1つは顔が最初に検知された時で、もう1つは顔検出エリアをその顔が出た時です。継続してエリアでのある人物の存在を監視し、リアルタイムでアラートを受け取りたい時に、この機能は便利です。

最適モード: 顔のベストスナップショットが1回キャプチャされます。

インターバルモード: 撮影するスナップショット数と、スナップショット間のインターバル時間を指定できます。

モードの適用: 2つのオプションがご利用いただけます:

正面ビュー: カメラの正面から近づいてくる顔をスキャンするように、顔認識エンジンが最適化されます。

マルチアングル: 異なるアングルからカメラに近づいてくる顔をスキャンするように、顔認識エンジンが最適化されます。

最小ピクセル: 最小顔サイズのピクセル値です。ピクセル値が小さければ小さいほど、より多くの顔をカメラが認識できます。デフォルト値は64です。カメラが不要な遠くにある顔を認識することが多過ぎる場合、最小ピクセル値を増やし、一般的により近い距離のより大きな顔をカメラが探すように向けてみて下さい。

検知モード: 静止モードでは、カメラの視野にあるすべての物体が分析されます。モーションモードでは、移動中の物体のみが分析されます。

(次ページに続く)

顔認識設定



規則種類: デフォルト選択のままにしてください。

検知距離: カメラのビュー全体で顔認識検知が有効になっています。カスタマイズを選択して、デフォルト検知エリアを変更できます。

可視エリア: デフォルト選択のままにしてください。[無効]を選択すると、検知した顔を囲む緑色の追跡フレームが、ライブビューモードとFRイベント再生中は見えなくなります。

保存: ここをクリックして変更事項をすべて保存してから、[OK] をクリックして続行します。

右クリックして終了します。

検知距離のカスタマイズ

1.検知距離: ドロップダウンメニューからカスタマイズを選択します。

2. 長方形の隅にある赤色の四角 (サイズ変更ハンドル) をクリック & ドラッグして、顔検知エリアの形を変え、カスタマイズします。顔認識が不要なエリアを除くように、長方形をあらゆる形状やサイズに変更できます。例は下記をご覧ください。



3. 終了したら、[保存] ボタンをクリックします。

右クリックして終了します。

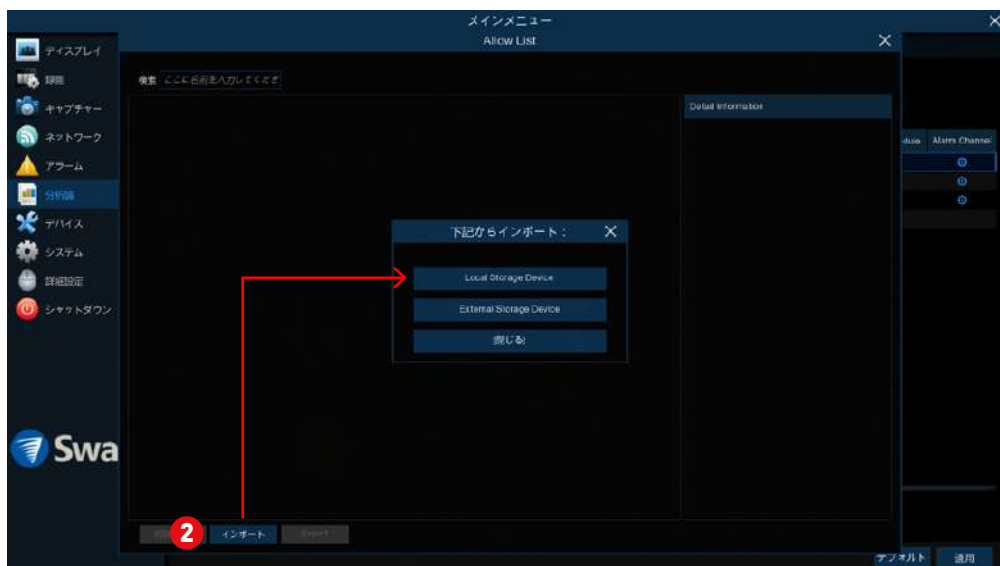
顔プロフィールの作成



1. 顔プロフィールを作成したい許可リストまたはブロックリストグループの[編集]ボタンをクリックします。

2. グループウィンドウから、[インポート]ボタンをクリックしてから、[局部記憶装置]ボタンをクリックすると、NVRがキャプチャ・保存した顔画像データベースをブラウズできます。必要であれば、[外部記憶装置]をクリックすると、外部記憶装置へ以前にエクスポートした顔画像をブラウズすることもできます。

(次ページに続く)



顔プロフィールの作成



3. カレンダーを使用して、日付範囲を指定します。

4. 矢印ボタンを使って、前日または翌日から顔画像を素早く表示します。

5. チャンネル: 検索したい1台またはすべてのカメラを選択します。

6. 検索: これをクリックすると、指定基準に基づき検索を実行します。

削除: 類似性パーセンテージ(%)に基づく検索をした時、選択した顔画像を削除します。

類似性: 顔類似性閾値(%)です。顔画像を選択したら、[検索]ボタンをクリックして、ここで指定した類似性よりも高い類似性の顔を検索します。

7. 1つまたはそれ以上の顔画像を選択したら、[OK]ボタンをクリックします。

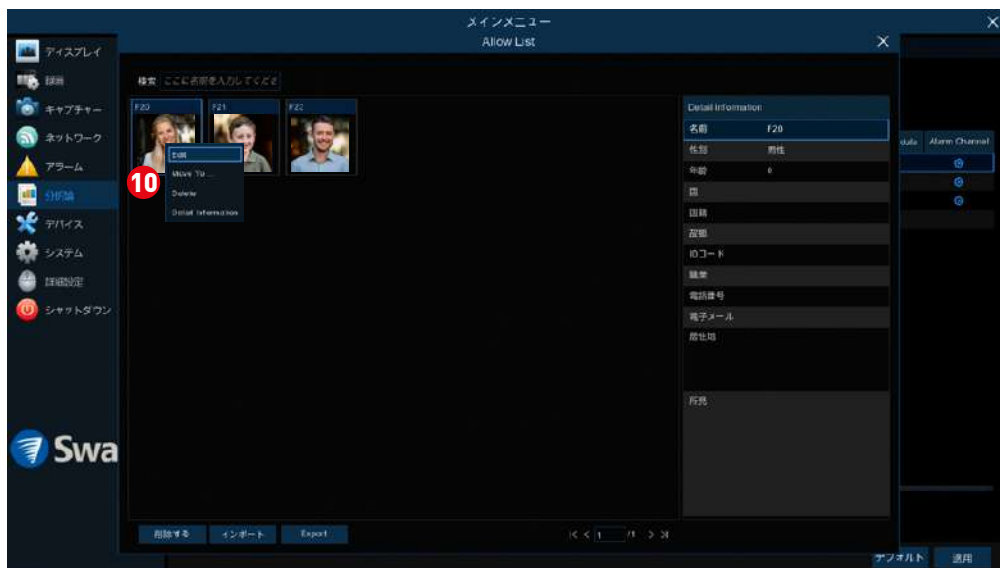


8. 顔画像を選択してから、その人物の名前や年齢など、個人識別詳細情報を入力します。デフォルトでは、顔画像毎に、その名前のような顔IDが付与されます。

9. 終了したら、このボタンをクリックします。顔プロフィールが作成され、グループが割り当てられました。

(次ページに続く)

顔プロフィールの作成



各顔プロフィールに複数の顔画像が追加できました。これにより、顔認識エンジンを訓練して、様々な角度と異なる表情から人物を検出できるようになります。

顔管理では、編集したいグループで[編集]ボタンをクリックします。グループに割り当てられた顔画像が表示されます。

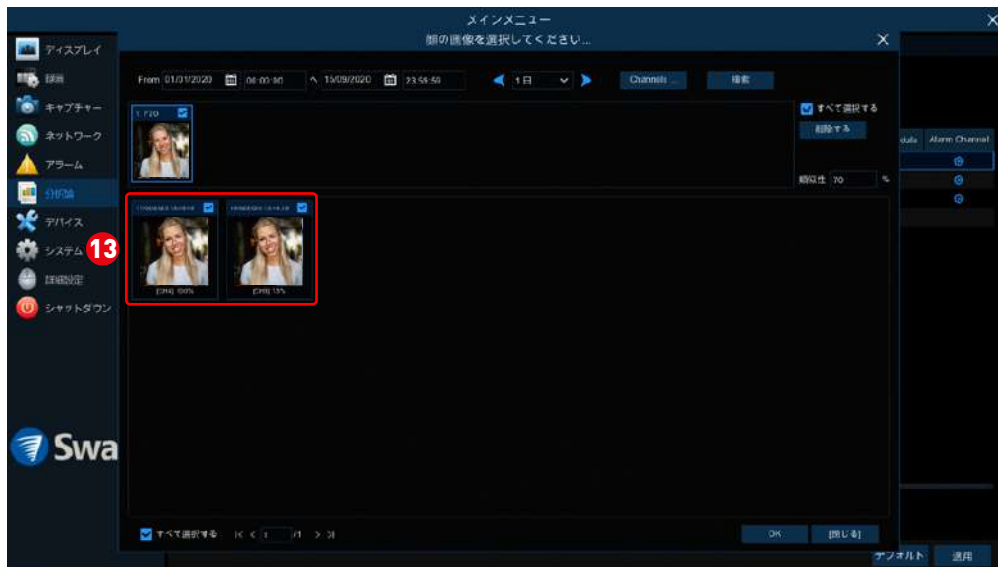
10.画像を右クリックしてから、[編集]をクリックします。



11.+アイコンをクリックしてから、[局部記憶装置]ボタンをクリックすると、NVRがキャプチャ・保存した顔画像データベースをブラウズできます。

(次ページに続く)

顔プロフィールの作成



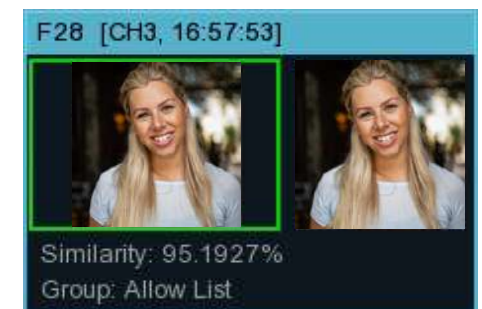
12. ステップ3から6に従い、別の検索を開始します。より多くの結果を表示するには、日付範囲と類似性閾値(%)を変更します。

13. 追加したい顔画像の各チェックボックスをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

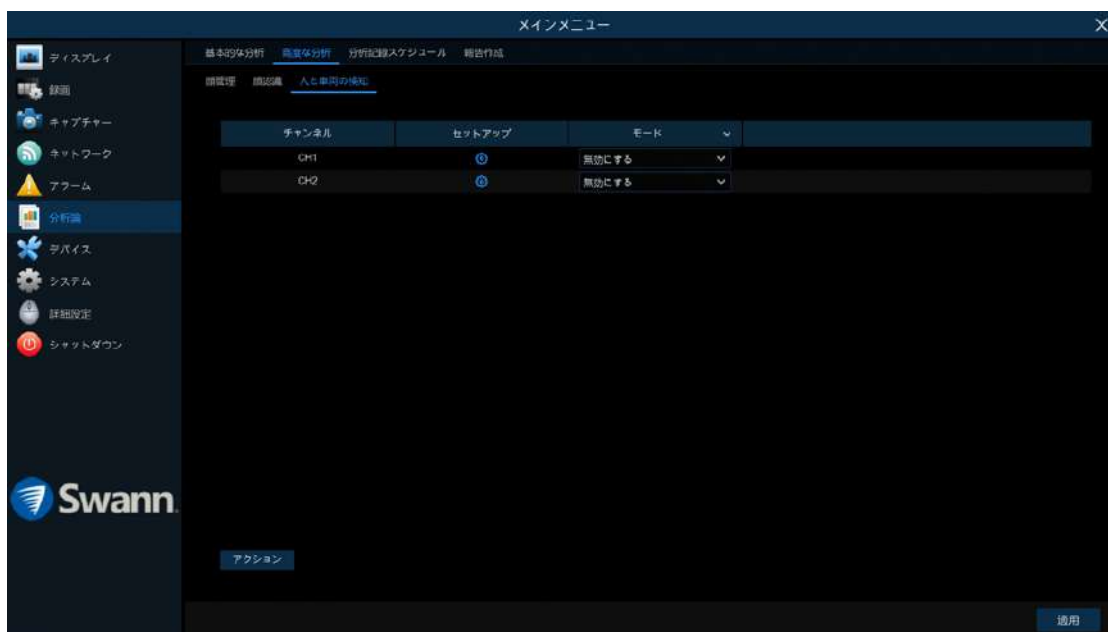


14. 追加される画像数を確認するため[OK]ボタンをクリックします。[終了]ボタンをクリックしてから、右クリックして閉じます。

顔認識イベントが発生したら、NVRが分析通知パネル経由でアラートを送信します。通知には緑色の境界線で囲んだ一致する顔のスナップショットが含まれます。通知をダブルクリックして、顔認識イベントを再生します。



詳細分析:人と車両検知



この機能はNHD-887シリーズのみに対応している点にご注意下さい。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインプットはCH1、CH2などのように表示されます。

セットアップ:[セットアップ]ボタンをクリックして、人や車両検知の最低ピクセルサイズや検知エリアなどのデフォルトのビデオ分析設定を変更します(72ページ参照 - 人や車両検知設定)。

モード:2つの選択肢が利用できます。「HD&VD」を選択すると、人と車両検知が有効になり、カメラが指定検出エリアで人および/または車両を検出した時は常にイベントを録画します。「HD&VD+PIR」を選択すると、人と車両検知が有効になり、カメラが指定検出エリアで人および/または車両を検出し、さらにカメラの内蔵PIRセンサーで動きを検知した時は常にイベントを録画します。



人と車両検知がカメラで有効になると、顔認識が無効となり、その逆も可能です。同時にカメラ上で両方の機能を作動させることはできません。

人と車両検知設定



黄色の四角が付いた緑色で囲まれたボックスは、指定された最小ピクセル値を表わしています。これは、検出エリアの物体が最低でもこのボックスのサイズ(ビューと比較して)でなければ、イベントが作動しないことを意味しています。黄色の四角をクリック&ドラッグして、ボックスのサイズとその値を調節します。ボックス内のどこかをクリックし、ビューエリア内をドラッグして、物体サイズを測定・チェックします。

カメラが物体を認識すると、緑色の追跡フレームが物体を囲むように表示されます。これらの緑色の追跡フレームがライブビュー(メインストリーム専用)とHD&VDイベント再生中に表示できます。



スナップモード: 人および/または車両を含むスナップショットをどのようにキャプチャするかを選択します。これにより、受信する物体認識通知数が変わります。

リアルタイムモード: カメラが検知エリアに出入りした人および/または車両を追跡・キャプチャします。リアルタイムで分析通知パネルに通知を受けます。

インターバルモード: 撮影するスナップショット数と、スナップショット間のインターバル時間を指定できます。

最小ピクセル: 人および/または車両の最低サイズをピクセル数で表しています。ピクセル値が小さければ小さいほど、より多くの物体をカメラが認識できます。デフォルト値は64です。カメラが不要な遠くにある物体を認識することが多過ぎる場合、最小ピクセル値を増やし、一般的により近い距離の物体をカメラが探すようにカメラを向けてみて下さい。

感度: 検知エリアの感度レベルを調整します。数値が高ければ高いほど、物体検知時に感度が高くなります。

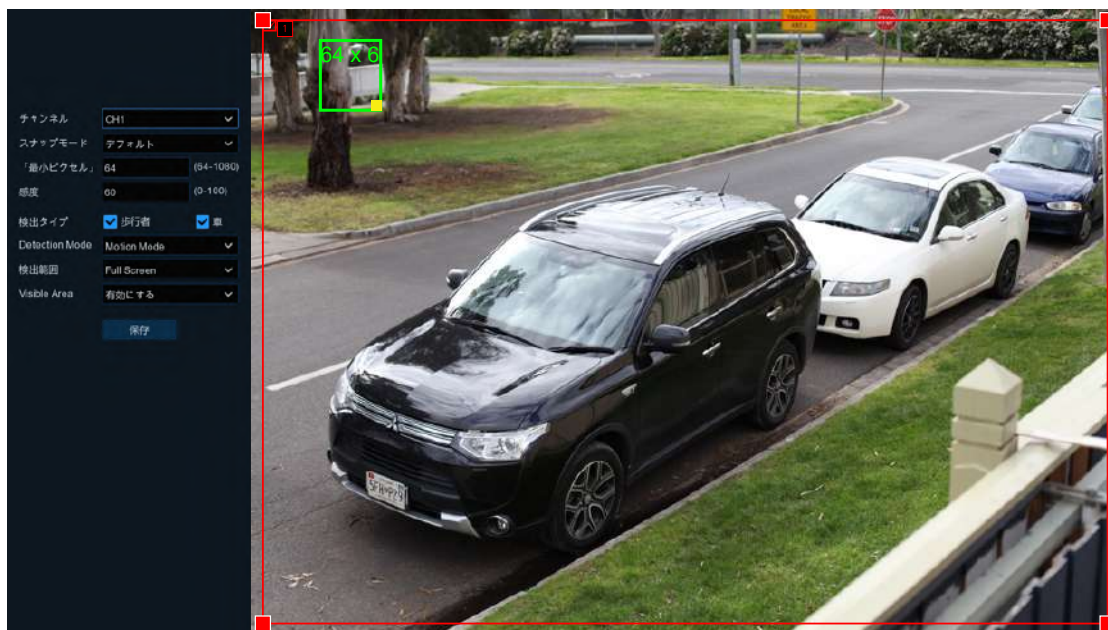
検知タイプ: デフォルトでは、人および/または車両が検知されます。人のみを検知したい場合、車両のチェックを外し、車両のみを検知したい場合は人のチェックを外してください。

検知モード: 静止モードでは、カメラの視野にあるすべての物体が分析されます。モーションモードでは、移動中の物体のみが分析されます。

検知距離: カメラのビュー全体で人および/または車両検知が有効になっています。カスタマイズを選択して、デフォルト検知エリアを変更できます(方法は次ページを参考)。

(次ページに続く)

人と車両検知設定



可視エリア:デフォルト選択のままにしてください。[無効]を選択すると、物体を囲む緑色の追跡フレームが、ライブビューモードとHD&VDイベント再生中は見えなくなります。

保存:ここをクリックして変更事項をすべて保存してから、[OK] をクリックして続行します。

右クリックして終了します。

検知距離のカスタマイズ

1.検知距離:ドロップダウンメニューからカスタマイズを選択します。

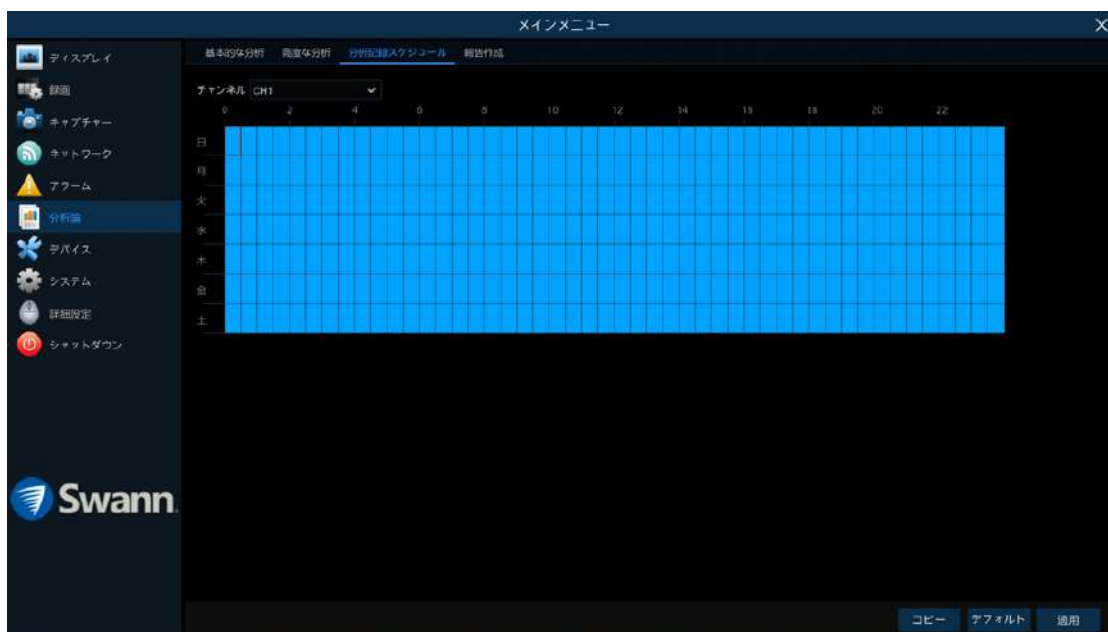
2.長方形の隅にある赤色の四角(サイズ変更ハンドル)をクリック&ドラッグして、物体検知エリアの形を変え、カスタマイズします。人および/または車両検知が不要なエリアを除くように、長方形をあらゆる形状やサイズに変更できます。例は下記をご覧ください。



3.終了したら、[保存]ボタンをクリックします。

右クリックして終了します。

分析レコードスケジュール



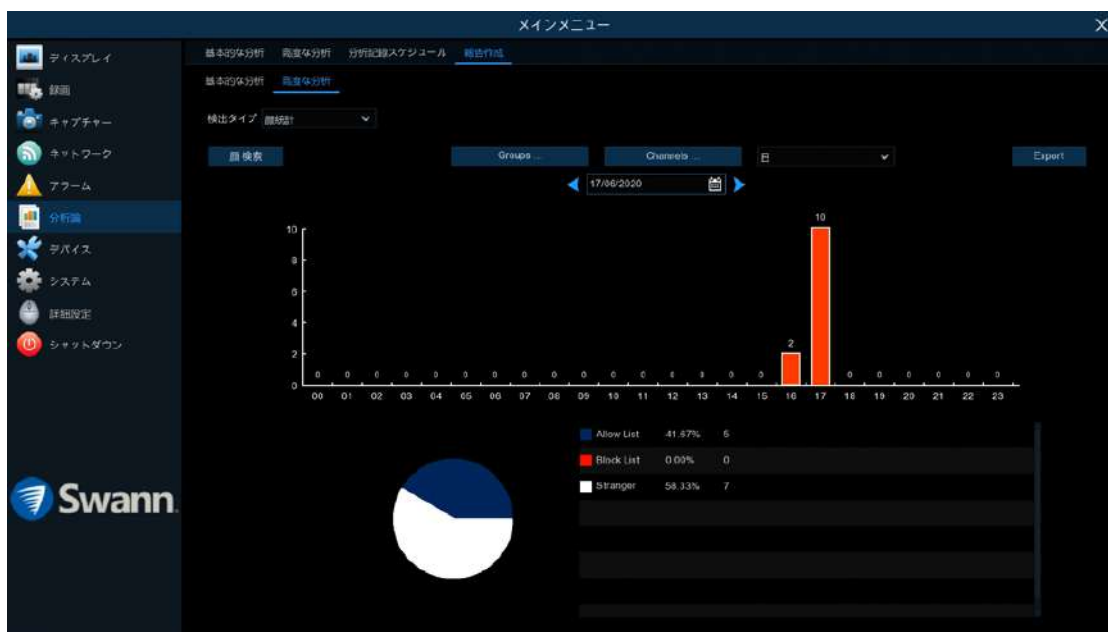
チャンネル:編集したいカメラを選択します。

四角1つは30分を表わしています。マウスを使用して、特定の四角を変更するか、希望する期間に呼応する四角の上でマウスをクリック&ドラッグします。録画スケジュールが必要でない場合(1つまたはそれ以上のセクションが有効でない場合)、同じアクションを適用可能です。

基本および詳細分析を使用して検知されたイベントを録画するには、基本および詳細分析が有効にされたカメラのために分析録画スケジュールを作成しなければなりません。必要であれば、各カメラを異なる録画スケジュールにできます。

- 「コピー」機能を使用して、すべての設定を他のカメラに適用します。
- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

報告作成: 詳細分析 - 顔統計



顔認識ビデオ分析がカメラで有効な場合、NVRは顔検知に関連する統計データを検索し、提示できます。棒グラフにより、指定期間内に検知された顔の数を表示し、円グラフは各グループに属する検出された顔の占有率と頻度を表示します。

顔検索: クリックして、[検索](#) > [詳細](#) > [顔](#) ウィンドウを表示し、そこで、すべての発生した顔認識イベントのブラウズ、顔の比較、録画の再生ができます。

グループ: 顔認識データが取得されたグループを選択します。デフォルトでは、すべてのグループが選択されています。

チャンネル: 顔認識データが取得されたチャンネルを選択します。デフォルトでは、すべてのチャンネルが選択されています。

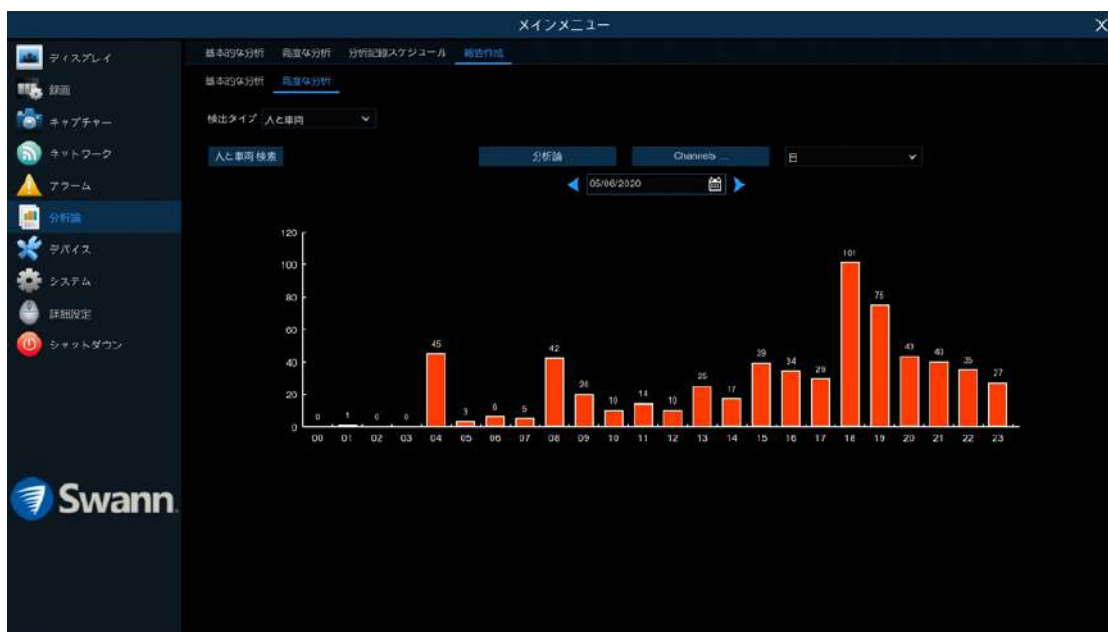
日/週/月/四半期/年: ドロップダウンメニューをクリックして、顔認識データが取得される期間を選択します。

カレンダー: 選択した期間の開始日を変更します。

エクスポート: 選択した期間の顔認識データをUSBフラッシュドライブにエクスポートします。ファイルは*CSVファイルとして保存されます。ファイルをEx-

cel(または類似ソフトウェア)で開き、さらにデータを分析できます。

報告作成: 詳細分析 - 人と車両



人および車両ビデオ分析がカメラで有効な場合、NVRは物体検知に関連する統計データを検索し、提示できます。指定期間中に検知された人および/または車両数を棒グラフで表示します。

検出タイプ: ドロップダウンメニューをクリックして[人および車両]を選択します。

カレンダー: 選択した期間の開始日を変更します。

人と車両検索: クリックして、[検索](#) > [詳細](#) > [人と車両](#) ウィンドウを表示し、そこで、すべての発生した顔人および/または車両認識イベントのブラウズと録画の再生ができます。

分析: デフォルトでは、人および車両の両方の統計が選択されています。ドロップダウンメニューをクリックして、変更します。

チャンネル: 物体認識データが取得されたチャンネルを選択します。デフォルトでは、すべてのチャンネルが選択されています。

日/週/月/四半期/年: ドロップダウンメニューをクリックして、物体認識データが取得される期間を選択します。

録画構成

録画構成オプションが、メインメニューからアクセス可能な[録画]と[キャプチャ]メニューでご利用いただけます。ここから、接続された各カメラに対し、デフォルトの録画スケジュール（毎日24時間グリッドおよびカラーコードとして提示）にアクセス、変更できます。また、NVRを有効にし、イベント発生時にスナップショットを撮影するスケジュールを設定できます。



録画：録画



- 「コピー」機能を使用して、すべての設定を他のカメラに適用します。
- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインプットはCH1、CH2などのように表示されます。

レコード有効:無効になっていると、NVRはモーションを検知しますが、録画しません(手動レコードも無効になります)。

ストリームモード:デフォルトでは、NVRは、メインストリームとサブストリームビデオの両方(デュアルストリームと呼ばれる)を録画します。メインストリーム(高品質)ビデオはNVRを直接使用時に再生用に使用され、サブストリーム(低品質)はモバイルデバイス上でリモート再生するために使用されます。リモート再生が必要ない場合、メインストリーム録画のみを選択できます。

事前レコード:イベント発生前に指定した秒数NVRを録画できます。この機能を有効なままにしておくことをお勧めします。

録画：スケジュール



チャンネル:編集したいカメラを選択します。

正常:NVRは設定した期間常に録画します。

検知:1台またはそれ以上のカメラからモーションが検知された時のみ、NVRが録画します。

四角1つは30分を表わしています。マウスを使用して、希望する録画モードをせたくしてから、特定の四角をクリックして変更するか、希望する期間に呼応する四角の上でマウスをクリック&ドラッグします。正常または検知録画が必要でない場合(1つまたはそれ以上のセクションが録画が有効でない場合)、同じアクションを適用可能です。

デフォルトでは、毎日24時間検知スケジュールが各接続カメラに有効となっています。スケジュールはニーズに合わせて変更可能で、必要に応じて各カメラに異なるスケジュールを設定できます。スケジュールはカラーコード化され、イベントタイプを表わします。

- 「コピー」機能を使用して、すべての設定を他のカメラに適用します。
- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

キャプチャ:キャプチャ



イベント発生時にスナップショットを撮影するスケジュールを設定できます。この機能はモーションイベントを素早く見つける際に特に便利で、タイムラプス撮影のような異なる目的でも使用できます。

- 「コピー」機能を使用して、すべての設定を他のカメラに適用します。
- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

お使いのNVRの各カメラインポートはCH1、CH2などのように表示されます。

オートキャプチャ:有効な場合、NVRはイベントが発生するたびにスナップショットを撮影します。

ストリームモード:デフォルト選択のままにしてください(メインストリーム)。これにより、カメラのネイティブ解像度を選択できます(アラーム解像度)。

通常の間隔:スナップショットを撮影するまでの待機時間です。例えば、正常取入れスケジュールを設定すると、デフォルト選択で、5秒ごとにスナップショットを撮影します。適宜調整して下さい。

アラーム間隔:検知キャプチャスケジュールを設定すると、選択した間隔に従ってモーションが検知される度にスナップショットを撮影します。適宜調整して下さい。

アラーム解像度:デフォルト選択のままにしてください(1920x1080)。そのままにすると、スナップショットを最高解像度で保存します。解像度を低めに選択することもできます。

アラーム品質:デフォルト選択のままにしてください。そのままにすると、スナップショットをカメラの最高ビットレート(NVRを使ってスナップショットを撮影するデータ量)で保存します。

この機能は追加機能なので、キャプチャスケジュールはデフォルトでは有効にはなっていません。この機能を有効にできます(81ページ参照 - キャプチャ:スケジュール)。

キャプチャ:スケジュール



分析録画スケジュールのように、キャプチャスケジュールを作成すれば、イベントが発生した時、あるいはインターバル時間を使用してスナップショットを撮影したい時、NVRがスナップショットを撮影できます。

- 「コピー」機能を使用して、すべての設定を他のカメラに適用します。
- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

チャンネル:編集したいカメラを選択します。

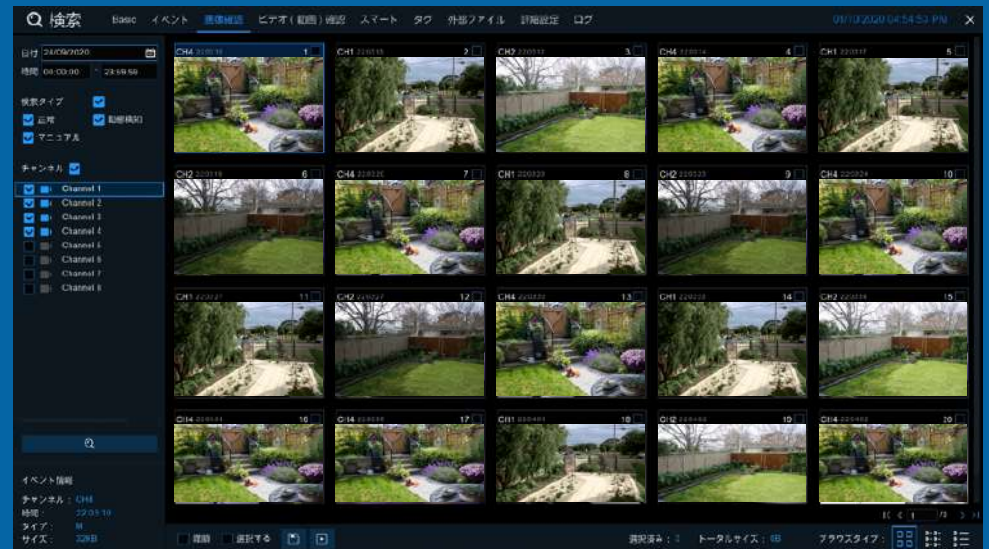
通常:選択した通常インターバル設定(例、5秒毎)に従ってスナップショットを撮影します。

検知:選択したアラーム間隔に従って、モーションが検知される度にスナップショットを撮影します。

四角1つは30分を表わしています。マウスを使用して、希望するキャプチャモードを選択してから、特定の四角をクリックして変更するか、希望する期間に呼応する四角の上でマウスをクリック&ドラッグします。正常または検知キャプチャが必要でない場合(1つまたはそれ以上のセクションが録画が有効でない場合)、同じアクションを適用可能です。

イベント再生とバックアップ

検索機能により、以前に録画したビデオやNVRハードドライブに保存されているスナップショットを検索や再生できます。録画スケジュール、手動録画、分析イベントやモーションイベントのみと一致するビデオを選択して再生できます。バックアップ機能により、重要イベント(ビデオとスナップショットの両方)をUSBフラッシュドライブに保存できます。



検索:基本



1 カレンダーアイコンをクリックして、検索したい日付を選択します。日付の下に赤色の下線が引いてある場合は、その日に録画があることを表わしています。

2 この日付が検索できるイベントタイプです。すべてから検索したい場合はすべてのイベントタイプを有効にしたままにするか、もしくは特定のイベントタイプを選択できます。適宜調整して下さい。

3 再生用にメインストリームかサブストリームのいずれかを選択できます。

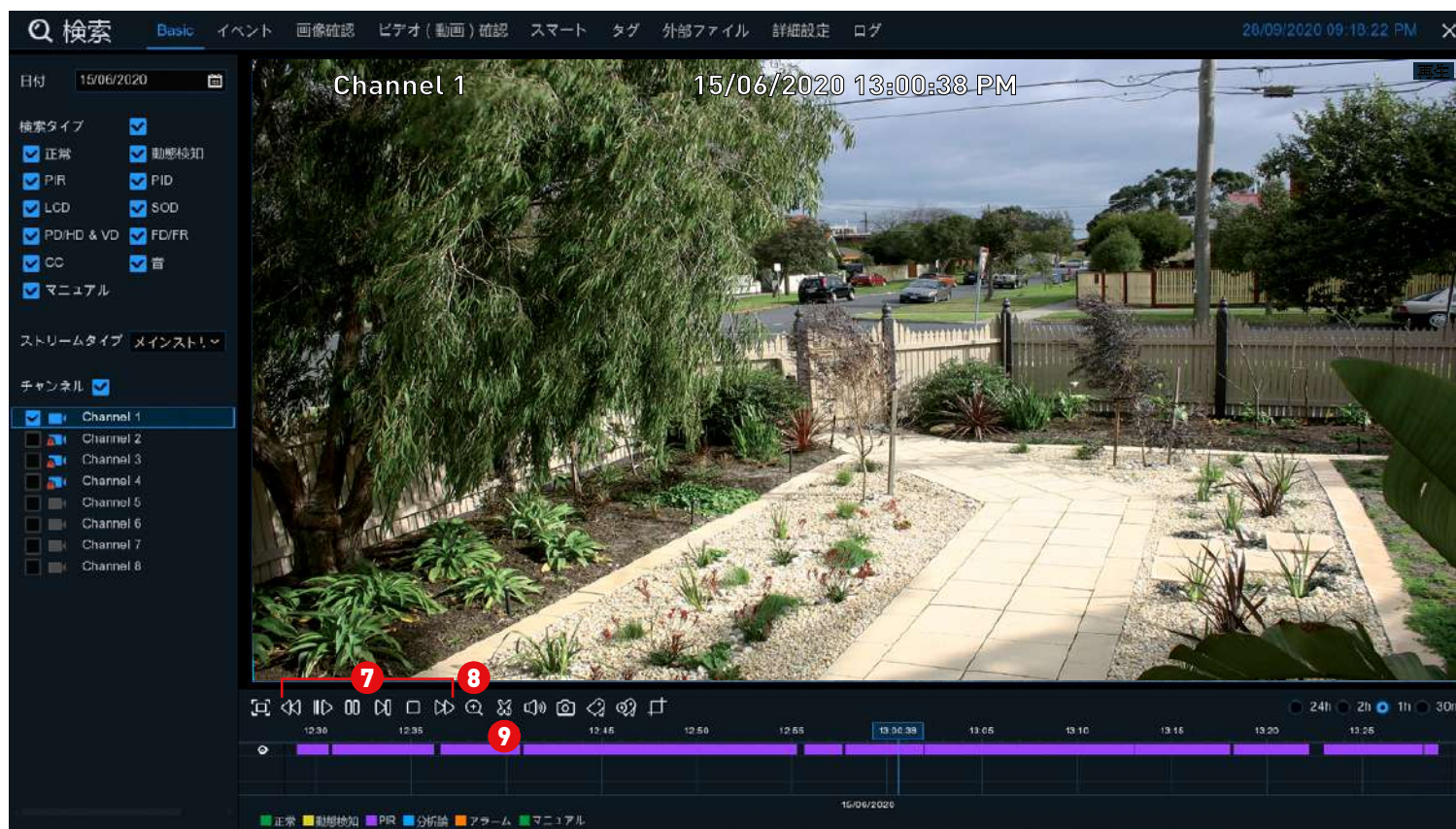
4 再生用に表示するカメラを選択します(再生専用には1台のカメラしか選択できないので、[チャンネル]をクリックして別のカメラを選択します)。カメラが青色な場合、検索基準と一致することを表わしています。

5 これをクリックすると、再生インターフェイスが非表示になり、ビューエリアを最大表示できます(フル画面で表示)。右クリックして元に戻せます。

6 検索基準に一致する録画がここに表示されます。

(次ページに続く)

検索:基本



7 左から右へ、逆戻し、スローモーション、再生/一時停止、コマ送り、停止、早送りをコントロールできる機能です。逆戻しをもう一度押すと、スローモーションになり、早送りボタンを押すと、各アクションがスピードアップします。

8 カメラを選択し、このボタンをクリックしてから、マウス上でスクロールボタンを使ってズームします。ピクチャーインピクチャー画面を使い、異なるエリアを選択して表示できます。右クリックして終了します。

9 このボタンにより、インとアウトマークをセットし、ビデオを編集でき、その

後USBフラッシュドライブへコピーできます。カメラをクリックして選択してから、このボタンを押します。タイムラインに2つの白色の三角形が表示されます。編集したいビデオをのセクション上でその三角形を左右に動かします。ディスクアイコン(バックアップ)をクリックして保存します。バックアップタイプは、コンピュータのより幅広い再生互換性のため、再生デフォルト選択(mp4)のままにしてください。USBフラッシュドライブをNVRに挿入して、[保存]をクリックします。

(次ページに続く)

検索:基本



10 このボタンをクリックして、オーディオをミュートまたはミュート解除します。

11 このボタンにより、スナップショットをUSBフラッシュドライブに保存できます。カメラをクリックして選択してから、このボタンを押します。

12 タグ付けすると、ビデオ内に人物や物体のような情報を記録できます。カメラをクリックして選択し、タグ付けされている人物や物体を見たい時にビデオを一時停止し、それからこのボタンを押します(タグは複数作成できます)。

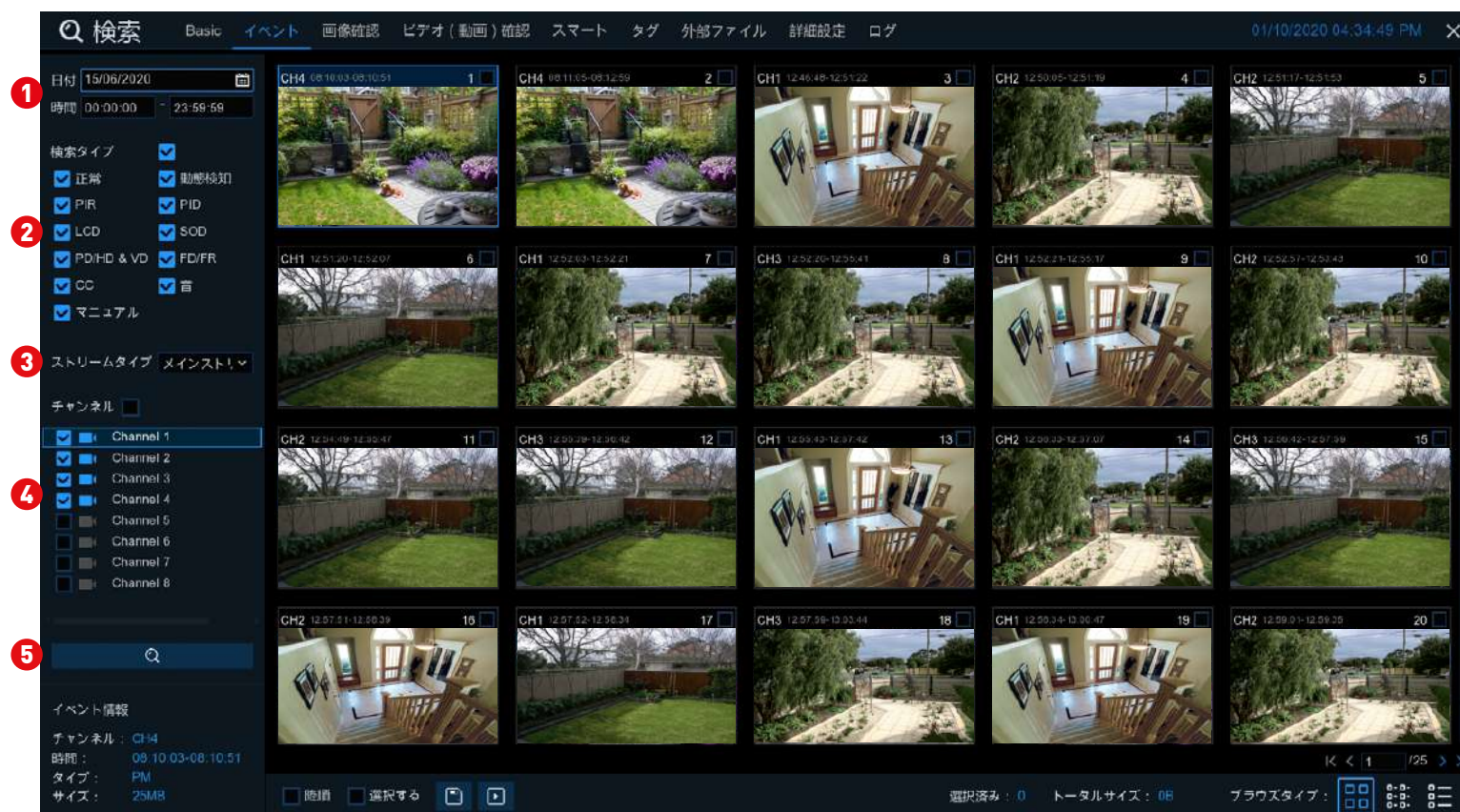
13 上記の通りですが、自分で選んだタグ名も選択できます。

14 タイムライン上でビデオタイプを表示します。

15 これにより、表示される期間を表わします。異なる期間をクリックして、正確にコントロールしたければズームインし、あるいはズームアウトします。

タグを検索します(93ページ参照 - [検索:タグ](#))。

検索: イベント (USBフラッシュドライブへコピー)



USB フラッシュドライブにイベントを再生し、コピーする機能。

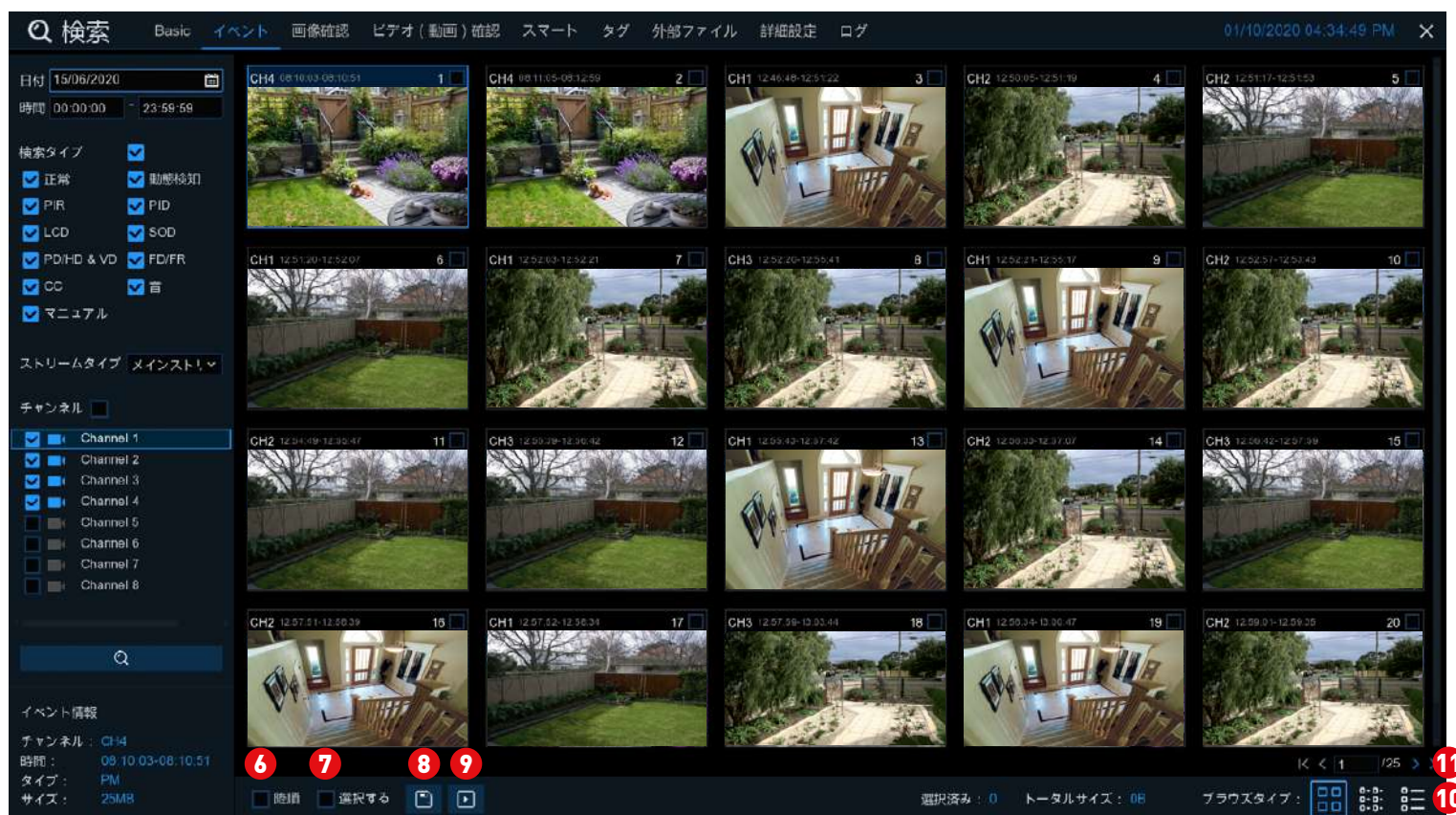
- 1 カレンダーアイコンをクリックして、検索したい日付を選択します。日付の下に赤色の下線が引いてある場合は、その日に録画があることを表わしています。時間に関しては、24時間で検索するか、キーボードを使用して特定の開始時間と終了時間を入力することもできます。
- 2 この日付が検索できるイベントタイプです。適宜調整して下さい。
- 3 検索用にメインストリームかサブストリームのいずれかを選択できます(

メインストリームはカメラのネイティブ録画解像度で動画を再生します)。

- 4 検索したい1台またはすべてのカメラを選択します。カメラが青色な場合、検索基準と一致することを表わしています。
- 5 このボタンをクリックすると、検索を開始します。検索基準と一致する各イベントのサムネイルが表示されます。各サムネイルの上にあるチェックボックスをクリックして選択します。

(次ページに続く)

検索: イベント (USBフラッシュドライブへコピー)



6 チェックボックスをクリックすると、降順でイベントを表示します。

7 チェックボックスをクリックして、すべてのイベントを選択します。

8 1つ以上のイベントを選択する時、このボタンをクリックするとUSBフラッシュドライブにコピーします。バックアップタイプは、コンピュータのより幅広い再生互換性のため、再生デフォルト選択(mp4)のままにしてください。USBフラッシュドライブをNVRに挿入して、[保存]をクリックします。[OK]をクリックして保存してから、完了したら[閉じる]をクリックします。

9 このボタンをクリックすると、選択したイベントを再生します。右クリックして終了します。

10 これらをクリックして、イベントの表示方法を変更できます。デフォルトビューはサムネイルですが、リストまたは詳細に変更できます。

11 これらをクリックして、異なるページに移動できます。キーパッドを使用して、特定のページへ移動できます。

検索:クイックショット(USBフラッシュドライブへコピー)



スナップショットの検索、再生、USBフラッシュドライブへコピーができます。

- 1 カレンダーアイコンをクリックして、検索したい日付を選択します。日付の下に赤色の下線が引いてある場合は、その日に録画があることを表わしています。時間に関しては、24時間で検索するか、キーボードを使用して特定の開始時間と終了時間を入力することもできます。
- 2 この日付が検索できるイベントタイプです。適宜調整して下さい。
- 3 検索したい1台またはすべてのカメラを選択します。

- 4 これをクリックすると、検索を開始します。
- 5 チェックボックスをクリックすると、降順でスナップショットを表示します。
- 6 チェックボックスをクリックして、すべてのスナップショットを選択します。
- 7 スナップショットを選択してから、このボタンをクリックすると、USBフラッシュドライブにコピーします。
- 8 これをクリックするとスライドショーを再生します(89ページを参照 - [スライドショーの再生](#))。

スライドショーの再生



① スナップショットを選択してから、このボタンをクリックすると、USBフラッシュドライブにコピーします。

② 前の画面に戻るには、ここをクリックします。

③ スナップショットの前のグループを表示するには、ここをクリックします。

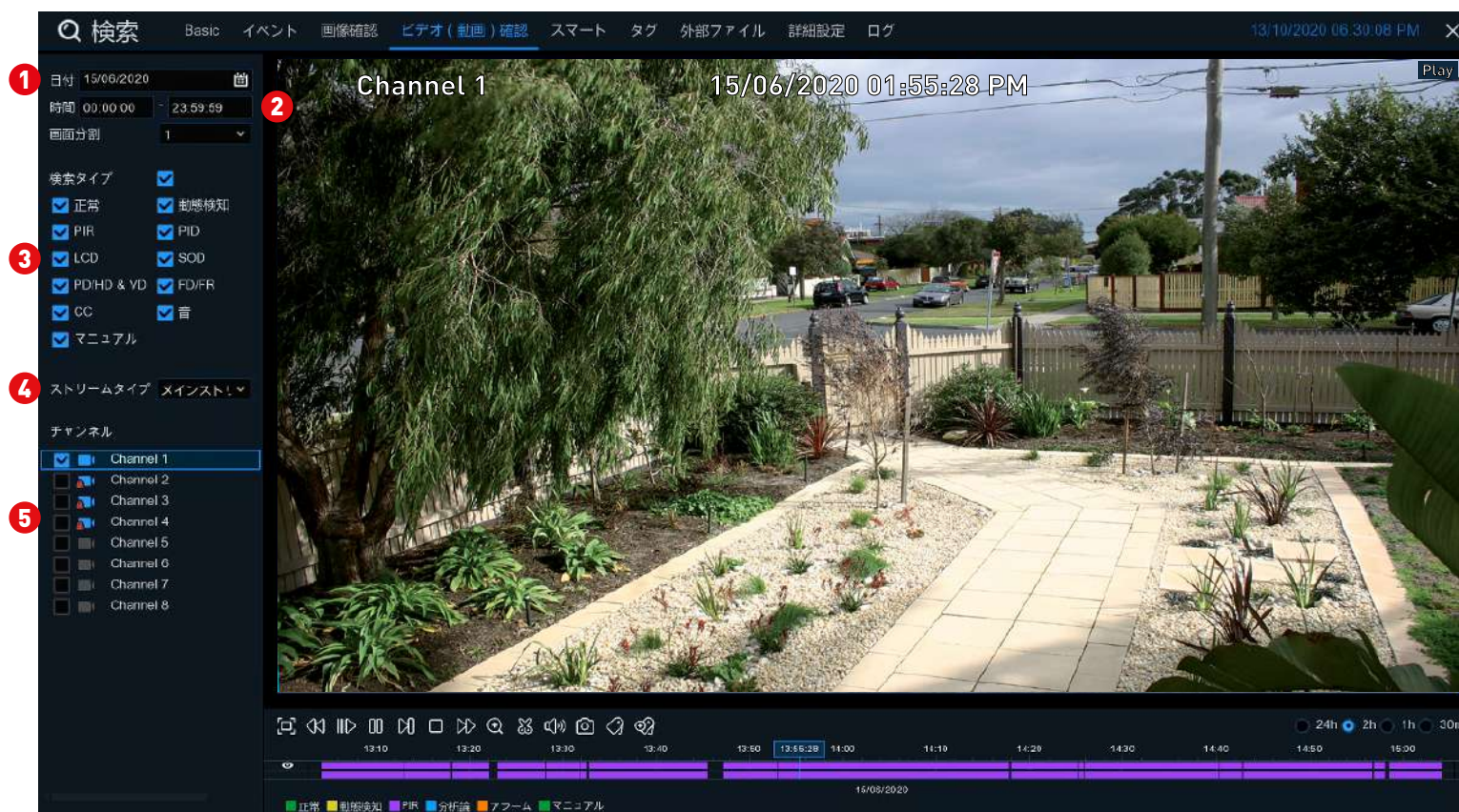
④ スライドショーを一時停止または再生するには、ここをクリックします。

⑤ スナップショットの次のグループを表示するには、ここをクリックします。

⑥ 一度に1枚のスナップショットを表示するには、ここをクリックします。

⑦ 一度に4枚のスナップショットを表示するには、ここをクリックします。

検索:クイックレビュー



クイックレビューは、基本と同じ機能を持っていますが、検索する期間を変更する追加オプションがあります。

① カレンダーアイコンをクリックして、検索したい日付を選択します。日付の下に赤色の下線が引いてある場合は、その日に録画があることを表わしています。

② 時間に関しては、24時間で検索するか、キーパッドを使用して特定の開始時間と終了時間を入力することもできます。

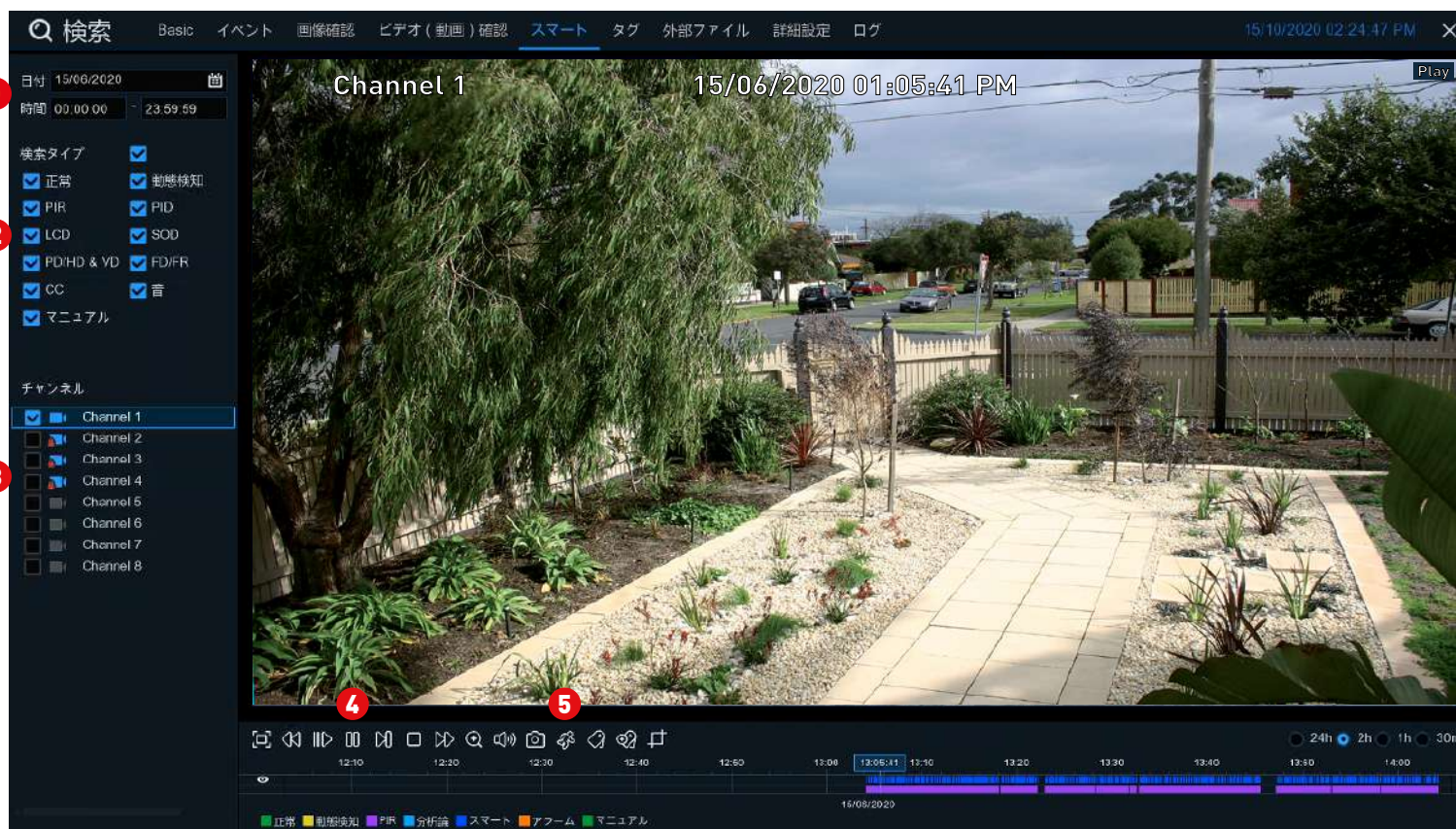
③ この日付が検索できるイベントタイプです。適宜調整して下さい。

④ 検索したいメインストリームまたはサブストリームを選択します。

⑤ 検索したいカメラを選択します。

83ページを参照して、タイムラインのコントロールに関する説明をご覧ください。

検索:スマート



スマートモードにより、ビデオの1つまたはそれ以上の特定エリアを定義でき、検索しているものを見つけやすくなります。例えば、裏庭の左側に動くものがあるけれども、右側で何が起きているのかを知りたい時などに使用できます。

1 カレンダーアイコンをクリックして、検索したい日付を選択します。日付の下に赤色の下線が引いてある場合は、その日に録画があることを表わしています。時間に関しては、24時間で検索するか、キーパッドを使用して特定の開始時間と終了時間を入力することもできます。

2 この日付が検索できるイベントタイプです。適宜調整して下さい。

3 検索したいカメラを選択します。

4 [再生]ボタンをクリックして、各イベントを再生します。

5 このボタンをクリックして、スマートモードに入ります。カメラがフル画面で表示され、スマートモードコントロールが表示されます。

(次ページに続く)

検索:スマート



- 6 これをクリックして、フル画面検知エリアを定義します。
- 7 これをクリックして、作成したすべてのエリアを削除します。
- 8 これをクリックして、定義済みエリアに基づくビデオを検索・再生します。
- 9 これをクリックして、再生インターフェイスへ戻ります。

1つ以上の特定エリアを定義するには、下記を行ってください:

- 10 クリック&ドラッグして、定義したいエリアを選択します。複数のエリアを定義することもできます。同じアクションで、定義済みエリアの選択解除や、完全に削除もできます。
- 11 完了したら、検索ボタン(虫眼鏡)をクリックし、定義済みエリアに基づいてビデオを再生します。

再生インターフェイスに戻ります。検索エリアと一致するセグメントがタイムラインに濃い青色で表示されます。



スマートモードを同時に複数のカメラで使用できますか?複雑さと処理に必要な電力により、スマートモードは一度に1台のカメラでのみ使用できます。

検索: タグ

	タグ名	チャンネル	日付	時間	プレイバック	編集	削除する
1	Tag	CH1	06/06/2020	12:32:24	▶	✎	✖
2	Tag	CH1	06/06/2020	12:35:10	▶	✎	✖
3	Tag	CH1	06/06/2020	12:39:33	▶	✎	✖
4	Tag	CH1	06/06/2020	12:44:26	▶	✎	✖

- 1 カレンダーアイコンをクリックして、検索したい日付を選択します。時間に関しては、24時間で検索するか、キーパッドを使用して特定の開始時間と終了時間を入力することもできます。
- 2 1つまたはそれ以上のカスタマイズタグを作成した場合、ここをクリックしてタグ名を入力します(タグ名は大文字小文字を区別します)。
- 3 検索したいカメラを選択します。
- 4 このボタンをクリックすると、検索を開始します。検索基準に一致するタグ

が表示されます。

- 5 イベントを選択してから、これをクリックして再生するか、イベントをダブルクリックして再生します。

編集: これをクリックしてタグ名を編集します。

削除: これをクリックしてタグを削除します。

[83ページ](#)を参照して、タイムラインのコントロールに関する説明をご覧ください。

検索:外部ファイル



この機能を使い、USBフラッシュドライブへコピーしたイベントを再生できます。

アを最大表示できます。右クリックして元に戻せます。

① 複数のUSBフラッシュドライブが接続されている場合、ドロップダウンメニューをクリックして読み込みたいドライブを選択します。

② このボタンをクリックして、USBフラッシュドライブを再度読み込みます。イベントをダブルクリックして再生します。

③ これをクリックすると、再生インターフェイスが非表示になり、ビューエリ

コンテンツをクリック

システム構成

利用可能なオプションにより、NVRが構成され、運用される方法について完全にコントロールできます。ディスプレイ解像度、タイムゾーン、メール構成、サマータイム設定やパスワード作成などのオプションが起動ウィザード中に構成されます。経験豊かなネットワークユーザーであれば、NVRで特定要件にあうように構成可能なオプションがあります。利用可能な時に、ファームウェアアップグレードも実行できます。



表示：表示構成



- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

シーケンスモード:NVRがシーケンスモード中にいくつかのビデオチャンネルを表示したいかを選択します。一度に表示するカメラの台数を1台、4台または6台から選択できます。

シーケンスドウェルタイム:次のビデオチャンネルを表示する前に、ビデオチャンネルをシーケンスモードで表示したい最長時間を秒単位で入力してください(最長300秒)。

VGA / HDMI解像度:お使いのテレビに適した画面解像度を選択します。

透明度:スライダーをクリックしたまま左右に動かすと、メニューバーとメインメニューが画面に表示される際の透明度を変更できます。適宜調整して下さい。

オーバースキャンを有効にする:主に古いテレビセットで使用されますが、画面上に正しく表示可能エリアを表示します。写真の端をカットしてこれを行い

ます。最新プラズマテレビやLCDテレビでは、画像はデジタルで処理されて正しい比率で表示されるので不要です。

ネットワーク:ネットワーク



SwannLinkピアツーピアテクノロジーを活用してネットワークとモバイルデバイスが通信しているため、ネットワーク設定構成は不要です。あなたがネットワーク専門知識を持っており、特定の設定が必要な場合、この設定を変更できます。

- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

DHCP (ダイナミックホスト構成プロトコル): ルーターが、ネットワークに接続されている各デバイスに自動でIPアドレスを割り当てます。これはデフォルトで有効になっており、推奨接続方法です。

DHCPを無効にすると、下記の5つのオプションが変更可能になります(アドバンスユーザーのみが利用できます):

IP アドレス: ネットワーク上の各デバイスには固有のIPアドレスが必ずあります。一般的なアドレスは、“192.168.1.24”のようなものになります。

サブネットマスク: これにより、ネットワーク構成により分離されるべきホスト間のネットトラフィックフローを可能にします。一般的なアドレスは、“255.255.255.0”のようなものになります。

ゲートウェイ: これによりNVRがインターネットに接続できます。一般的にお使いのモデムやルーターと同じIPアドレスです。

DNS (ドメインネームシステム) 1/2: インターネットサービスプロバイダーのDNS設定を入力します。

ネットワーク:Wi-Fi



NVRに利用可能なUSBポートに接続された互換性のあるWi-Fi dongleがある場合は、Wi-Fiタブが表示されます:これにより、ルーターやモデムに接続しなくても、異なる場所にNVRを自由に設置できるようになります。

- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

開始する前に、EthernetケーブルをNVRのEthernetポート(接続されている場合)から抜きます。

- 1.[スキャン]ボタンをクリックします。すぐに、NVRが検知したWi-Fiアクセスポイントリストが表示されます。お使いのWi-Fiアクセスポイントを選択してから、[保存]ボタンをクリックします。
- 2.お使いのWi-Fiアクセスポイントのパスワードを入力してから、[接続]ボタンをクリックします。進む前にパスワードが正しいことを確認します(Wi-Fiパスワードを表示するには目のアイコンをクリックします)。
- 3.すぐに、NVRがWi-Fiアクセスポイントに接続します。[OK]をクリックして続行します(接続できない場合、パスワードが正しいか確認します)。

リンクステータスが接続済みに変更され、接続が成功したことを表わします。「適用」をクリックすると、設定を保存します。

Wi-Fi dongleを外さなければならない場合、メニューバーの[USB Wi-Fi]ボタン(日付と時間の隣)をクリックしてから、[USBデバイスを安全に取り外す]をクリックします。Wi-Fi dongleを外してから[OK]をクリックします。

ネットワーク:ポート構成とRTSP



- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

歯車の記号(右上)は、経験のあるユーザーに適しており、ネットワーキング知識が必要な機能であることを表わしています。

ほとんどの場合、この設定を変更する必要はありません。下記はアドバンスユーザー専用です。

ウェブ:このポートはネットワーク経由またはリモートでNVRにログインするために使用されます。デフォルトのポート番号(85)は他のデバイスで使われることはほとんどありませんが、このポートを使用する他のデバイスをお持ちの場合、変更しなければならない場合があります。使用可能なその他のポート番号は90です。

クライアント:このポートは、NVRが情報を送信するために使用する内部ポートです。このポート番号(9000)は多くのデバイスで使われることはありませんが、NVRのような他のデバイスをお持ちの場合、変更しなければならない場合があります。

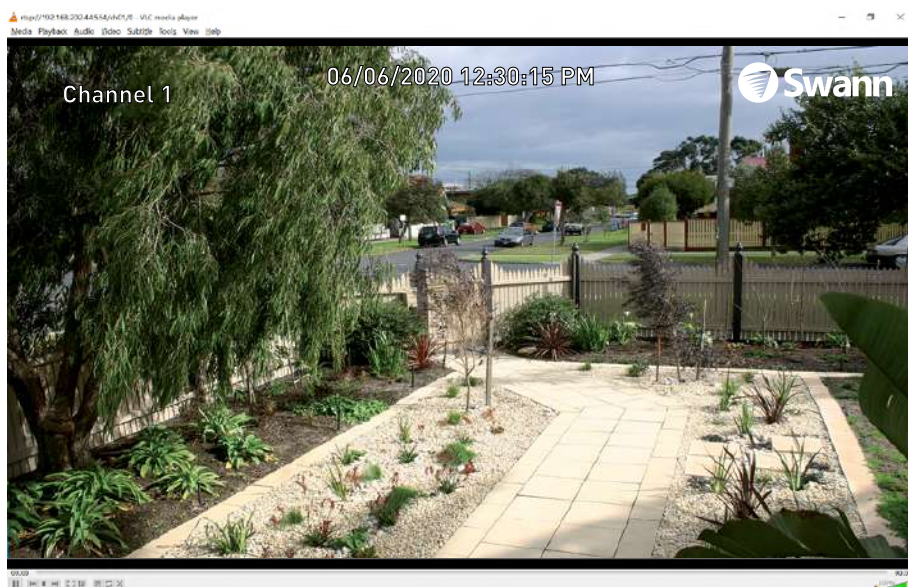
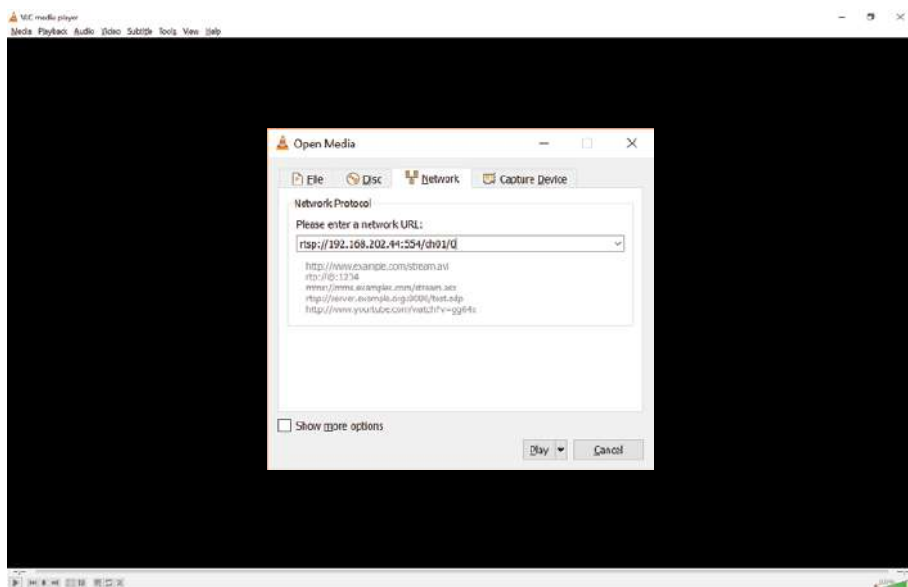
RTSP:このポートは、VLCメディアプレイヤーのようなビデオストリームソフト

ウェアを使い、カメラのライブビュー画像をストリームするために使用可能です(詳細は100ページ参照 - RTSPの使用)。

HTTPS:基本的にはHTTPポートと同じですが、セキュリティレベルがさらに高くなっています。デフォルトのポート番号(443)は他のデバイスで使用されることはほとんどありません。

UPNP:リモートアクセスの目的でネットワーク接続デバイスが自動的にルーターを構成するためのネットワークプロトコルです。チェックボックスをクリックして有効にします(UIDを使用している場合有効にする必要はありません)。

RTSPの使用



下記説明は、VLCメディアプレイヤーソフトウェア向けです(無料コピーを www.videolan.orgからダウンロードできます)。ダウンロード後、ファイルをダブルクリックしてから、画面指示に従ってインストールしてください。

1.コンピュータで、VLCメディアプレイヤーソフトウェアを読み込みます。[メディア]をクリックしてから、[ネットワークストリームを開く]をクリックします(左記の通り)。

2.NVRのIPアドレス(NVRでメインメニューの[ネットワーク]をクリックしてIPアドレスを表示)をVLCに入力します。下記は入力例です - `rtsp://192.168.202.44:554/ch01/0`。

`rtsp://192.168.202.44`:これがあなたのNVRのIPアドレスです。

`554`:これがあなたのNVRのRTSPポートです。

`ch01`:これはチャンネル1を表わしています。チャンネル2を表示するには、`ch02`のように入力します。

`0`:これはメインストリームを表わしています。サブストリームには、1を入力します。

3.[再生]をクリックしてから、ユーザー名とパスワードを入力します。これでカメラからのライブ画像が表示されるようになります。

ネットワーク:電子メール構成



電子メール アドレスの入力は、スタートアップ ウィザードでの要件です。これは、あなたのNVRは、電子メールアラートを送信し、パスワードを忘れた場合にパスワードリセット要求を送信することができますので、です。Gmail と Outlook の両方がサポートされています。

- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

電子メール:これは有効のままにします。

セットアップ:ドロップダウンメニューをクリックして[マニュアル]を選択し、メール詳細を入力します。

暗号化: NVRがメールプロバイダーに対する正しい暗号化を常に使用するために、この機能は[自動]のままにしてください。

SMTPポート: GmailでもOutlookでも、00587を入力します。

SMTPサーバー: Gmail [smtp.gmail.com]。Outlook [smtp.live.com]。

ユーザー名:アカウントにメールユーザー名を入力します。

パスワード:アカウントのメールパスワードを入力します。

送信者:例えばMY NVRのように、メールアカウントの名前を入力します。

レシーバー1/2/3:メールアラートを送信するメールアドレスを入力します。

間隔: これは、NVRからメールアラートを送信し、次に送信するまでの待機時間です。適宜調整して下さい。

テストメール: クリックして情報が正しいかを確認してから、[OK]をクリックします。テストが成功した場合、メッセージが表示されます。[OK]

メールが作動していませんか? 下記を行ってください:

- 1.メールユーザー名とパスワードが正しいか確認します。
- 2.LED が点滅しない場合(イーサネットポートの上)、ケーブルを接続し直すか、ルーターの別のポートを試してください。
- 3.support.swann.comで[より安全性が低いアプリ]を検索してください(Gmailを使用している場合)。

ネットワーク:スケジュールをメール送信する



- 「コピー」機能を使用して、すべての設定を他のカメラに適用します。
- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

チャンネル:編集したいカメラを選択します。

検知:メールアラートがモーション検知で有効な場合、NVRがこのようなアラートを送信できるスケジュールを変更できます。例えば、夜間ではなく、日中のみにアラートを受信できるようにできます。各カメラに対して、異なるスケジュールも作成できます。

例外:例外としてNVRが検知するイベントタイプには、ハードドライブに空き容量が残っていない、ハードドライブエラー、1つまたはそれ以上のチャンネルがカメラからのフィードを失ったという3つがあります (112ページを参照 - [アドバンス: イベント](#))。アラートを送信したい例外がある場合、デフォルトスケジュールのままにしておくことをお勧めします。

分析:分析機能のうちのいずれかが有効になっている場合、モーションが検知されると、メールアラートが自動で送信されます。各カメラに対して、異なる

スケジュールも作成できます。

四角1つは30分を表わしています。マウスを使用して、特定の四角を変更するか、希望する期間に呼応する四角の上でマウスをクリック&ドラッグします。

ネットワーク:DDNS



SwannLinkピアツーピアテクノロジーを開発する前に、NVRへリモート接続するためにはSwannDNSサービスを使用していました。このサービスは以前使用されており、バックアップもk津駅でアカウントの作成を推奨しております。

- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

www.swanndvr.com にアクセスし、[登録]ボタンをクリックして下さい。プロンプト画面に従って、アカウントを作成します。

DDNS: チェックボックスをクリックして有効にします。

サーバー: SWANNDVRが自動で選択されます。

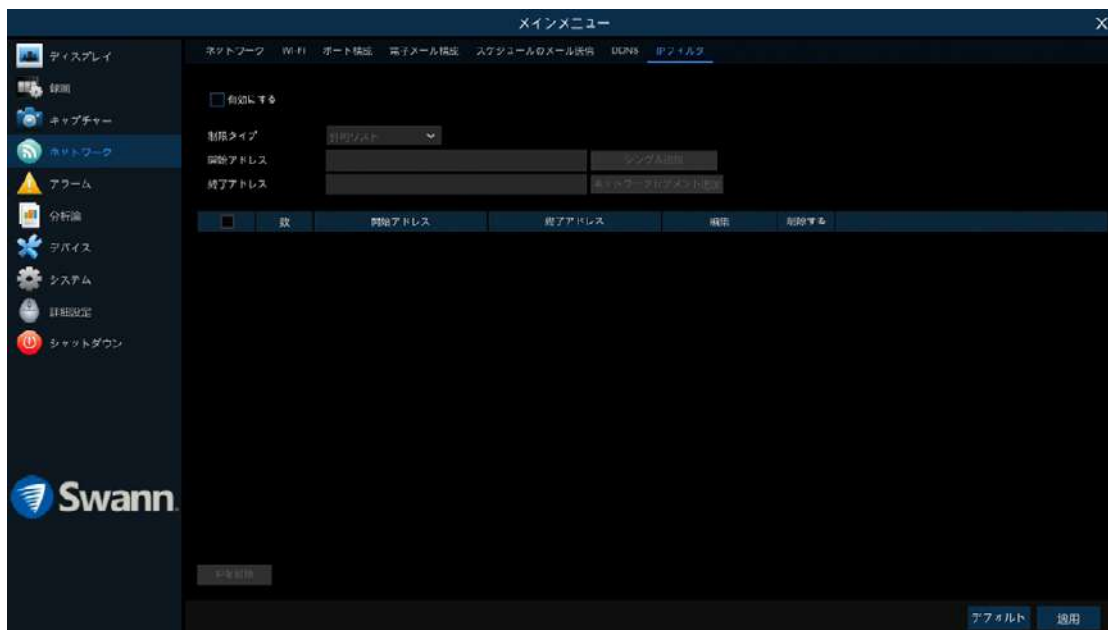
ドメイン: アカウント上でホストされるドメイン名を入力します。例 - (username.swanndvr.net)。

ユーザー: アカウントにユーザー名(ホスト名)を入力します。

パスワード: アカウントのパスワードを入力します。

DDNSをテストする: このボタンをクリックしてから[OK]をクリックしてアカウント詳細情報を確認します。すぐに、[DDNSテストが成功しました!]というメッセージが表示されます。[OK] をクリックして閉じます。

ネットワーク:IPフィルタ

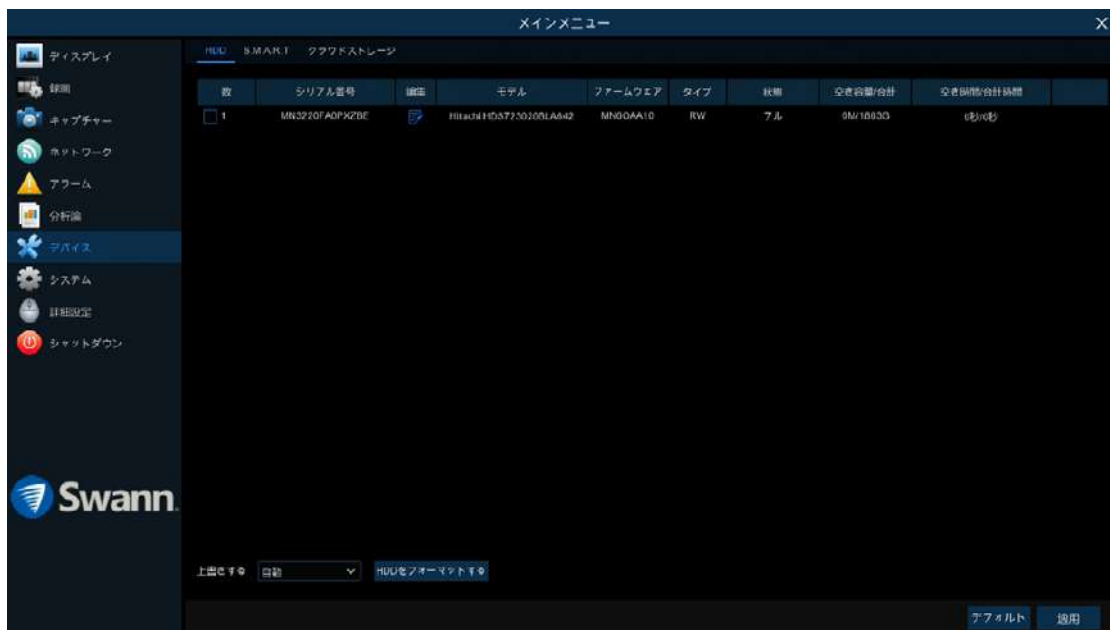


- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

歯車の記号(右上)は、経験のあるユーザーに適しており、ネットワーク知識が必要な機能であることを表わしています。

IPフィルタリングは、特定のIPアドレスグループのネットワークへのアクセスを制限する優れた方法です。例えば、悪意あるユーザーがあなたのネットワークを攻撃しようとしている場合、フィルターを加えて、単独のIPアドレスあるいはIPアドレスブロックからのあなたのデバイスへのアクセスを予防します。NVRの日常的な機能においては、この機能は必要ありません。

デバイス:HDD



この機能により、NVRのハードドライブのフォーマットオプションを提供し、選択できるようにここにリストされています（NVR内に新しいハードドライブがインストールされた場合、使用する前にフォーマットしなければなりません）。

→ 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

上書き:この機能により、ハードドライブが満杯になった場合に、NVRに対して最も古いファイルを上書きするように指示します。また、この機能を無効にするオプションもあり、あるいは上書きされる前にイベントが保管される日数を選択することもできます。NVRのストレージ容量がなくなるのを防ぐため、デフォルト選択のままにしておくことをお勧めします。

HDDをフォーマットする:チェックボックスをクリックして、ハードドライブを選択してから、このボタンをクリックしてフォーマットします。下記の3つのオプションから選べます:

1.ハードディスク全体をフォーマットします。すべてのデータが消去されます: イベント、ログファイルや分析情報を含むすべてのデータが消去されます。

2.録画パーティションのみをフォーマットします。すべての録画データが消去されます: イベント、スナップショットやログファイルのようなデータのみが消去

されます。すべての分析情報は保管されます。

3.一般パーティションのみをフォーマットします。すべてのAI関連データが消去される場合があります: 分析情報のみが消去されます。イベント、スナップショットやログファイルはハードドライブに保管されます。

関連オプションを選択して、[OK]をクリックします。パスワードを入力してから、[認証する]をクリックします。データが消去されると知らせるメッセージが表示されます。[OK] をクリックして続けます。



ハードドライブをフォーマットするように推奨することがあります。これにより、NVRがシステムの健全性を維持できます。USBフラッシュドライブを接続し、保存したいイベントをコピーします。ハードドライブをフォーマット化すると、すべての録画を消去することを忘れないでください。

デバイス:S.M.A.R.T



メインメニュー

HDD: S.M.A.R.T. クラウドストレージ

HDD ID: MN3220FAOPX2BE セルフチェックタイプ: ショート

セルフチェック状態: 検知されませんでした

識別ID: 46 実行回数: 994

評価主体: 警告 チェック

S.M.A.R.T. 情報:

ID	属性名	ステータス	フラグ	属値	閾値	単位	注釈
0x1	Raw Read Error Rate	OK	b	100	100	16	0
0x2	Throughput Performance	OK	5	130	130	54	02
0x3	Spin Up Time	OK	7	168	168	24	380 (Average 238)
0x4	Start Stop Count	OK	12	68	68	0	50232
0x5	Reallocated Sector Ct	OK	23	100	100	5	4
0x7	Seek Error Rate	OK	b	100	100	67	0
0x8	Seek Time Performance	OK	5	135	135	20	25
0x9	Power On Hours	OK	12	07	07	0	23616
0xa	Spin Retry Count	OK	13	150	150	00	6
0xc0	Power Cycle Count	OK	32	100	100	0	457
0xc6	Power Off Retract Count	OK	13	68	68	0	50474
0xc1	Load Cycle Count	OK	12	58	58	0	50674
0xc2	Temperature Celsius	OK	7	130	130	0	46 (Min/Max 3/61)
0xc4	Reallocated Event Count	OK	02	100	100	0	4
0xc5	Current Pending Sector	OK	22	100	100	0	0
0xc8	Offline Uncorrectable	OK	3	150	150	0	0
0xc9	UBER Error Count	OK	0	200	200	0	1

この機能は、NVR内にインストールされたハードドライブのテクニカル情報を表示するために使用されます。潜在的なドライブエラーを評価し、検知するためにテストを実行することもできます(3つのタイプがご利用いただけます)。

セルフチェックタイプ:3つのタイプがご利用いただけます:

マウスを右クリックして終了します。

ショート:このテストにより、読取り/書き込みヘッド、電子部品や内蔵メモリなどのハードドライブの主要コンポーネントを検証します。

ロング:上記を検証し、問題エリアを見つけるために表面スキャンを行い、不良セクターを強制移動する長めのテストです。

輸送:ハードドライブのメカニカルパーツが作動していることを検証するための非常に簡単なテストです。

テストを実行中、NVRは正常に動作を続けます。

ほとんどの場合、ここでの情報は一般的なNVR使用には必要ありませんが、サポートを求めて電話された時に、スワンヘルプデスク&テクニカルサポートスタッフがこの情報にアクセスを求める場合があります。

デバイス:クラウドストレージ



NVRには、スナップショットやビデオ録画をDropbox™経由でクラウドにコピーする機能があります。Dropbox™は、スナップショットとビデオ録画を保存し、共有し、必要な時にいつでも利用できるようにするサービスです。

- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

ビデオをクラウドへコピーするには、最大2台のカメラを選択できます。

始める前に、Dropboxアカウントをまず作成することをお勧めします。www.dropbox.comへアクセスし、名前、メールアドレスとパスワードを入力し、規約に同意してから、サインアップボタンをクリックまたはタップします。

プロバイダー:クラウド機能を起動するには、スワンセキュリティモバイルアプリを使用してください。

ステータス:アクティブな時は、起動済みに変更となります。

容量:起動時に、Dropboxアカウントの空き容量をここに表示します。

上書き:デフォルト設定では、まず最も古いファイルを上書きします。代わりに特定期間を選択したければ、ドロップダウンメニューをクリックします。

ビデオタイプ:再生の互換性を高めるには、既定値のままにします。

ストリームタイプ:クラウドへコピーするサブストリーム(低品質)またはメイン

ストリーム(高品質)ビデオを選択したい場合は、ドロップダウンメニューをクリックします。

クラウド機能を開始します:

- 1.スワンセキュリティアプリで、[メニュー]ボタン(左上)をタップします。
- 2.[Dropbox]をタップします。[認証する]をタップします。
- 3.ログインメールアドレスとパスワードを入力してから、[サインイン]をタップします。
- 4.[許可する]をタップしてから、表示されたNVRをタップします。NVRの隣に青色のチェックマークが表示されます。[完了]をタップして終了します。
- 5.クラウド機能を有効にすると、NVRにクラウドへアラートを送信するように指示しなければなりません(32ページ参照 - アラーム: 検知 - アクション)。

システム：一般



- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

デバイス名: ダイアログボックスをクリックして、NVRの名前を変更します(必要な場合)。

言語: システムメニューに表示してもらいたい言語を選択します。複数の言語がご利用いただけます。

ビデオフォーマット: お住いの国に合ったビデオ基準を選択します。米国とカナダはNTSCです。英国、オーストラリアとニュージーランドはPALです。

メニュータイムアウト: ドロップダウンメニューをクリックして、NVRが未作動中にメインメニューを終了するまでの時間を選択します。[オフ]を選択して、これを無効にすることもできます(パスワード保護が一時的に無効となります)。

透かし: デフォルトでは、接続されている各カメラに対して、スワンロゴが透かしとして重ねられています。この機能が必要な場合、ドロップダウンメニューをクリックして無効にしてください。

ウィザードを表示する: 毎回NVRの電源を入れるまたは再起動するたびに、起動ウィザードを表示したい場合、チェックボックスをクリックします。

システム:日時



- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

日時

日付、時間とタイムゾーンが間違っている場合、関連ダイアログボックスとドロップダウンメニューをクリックして変更します。

NTP設定

NTP(ネットワークタイムプロトコル)機能により、NVRがタイムサーバーの時計と自動的に同期できます。これにより、日付と時間が正確で、イベント発生時に正しいタイムスタンプが押されることを保証できます。

- 1.[今すぐ更新] ボタンをクリックし、NVRの内部クロックとタイムサーバーの自動同期化を即時に実行します。
- 2.時刻が正常に更新されたことを伝えるメッセージが表示されます。[OK] をクリックして続けます。

DST設定

DSTを有効にする:サマータイムがあなたのタイムゾーンや地域に適用される場合、ドロップダウンメニューをクリックして有効にしてください。

時間オフセット:あなたのタイムゾーンで増加されたサマータイムの時間を選択します。この時間は、協定世界時(UTC)と現地時間との間の分刻みの違いを指します。

DSTモード:サマータイムがいつ開始、終了するのかを選択できます。

週:サマータイムが開始、終了する月、日と時間を選択します。例えば、ある月の最初の日曜日の午前2時となります。

日付:サマータイムが開始、終了する時、開始日(カレンダーアイコンをクリック)、終了日と時間を選択します。

システム:ユーザー



→ 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。

→ 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

NVRパスワードを変更するには、[編集]ボタンをクリックします。パスワードは最低6文字で、数字と文字を含むようにしてください。確認のためにもう一度新しいパスワードを入力します。

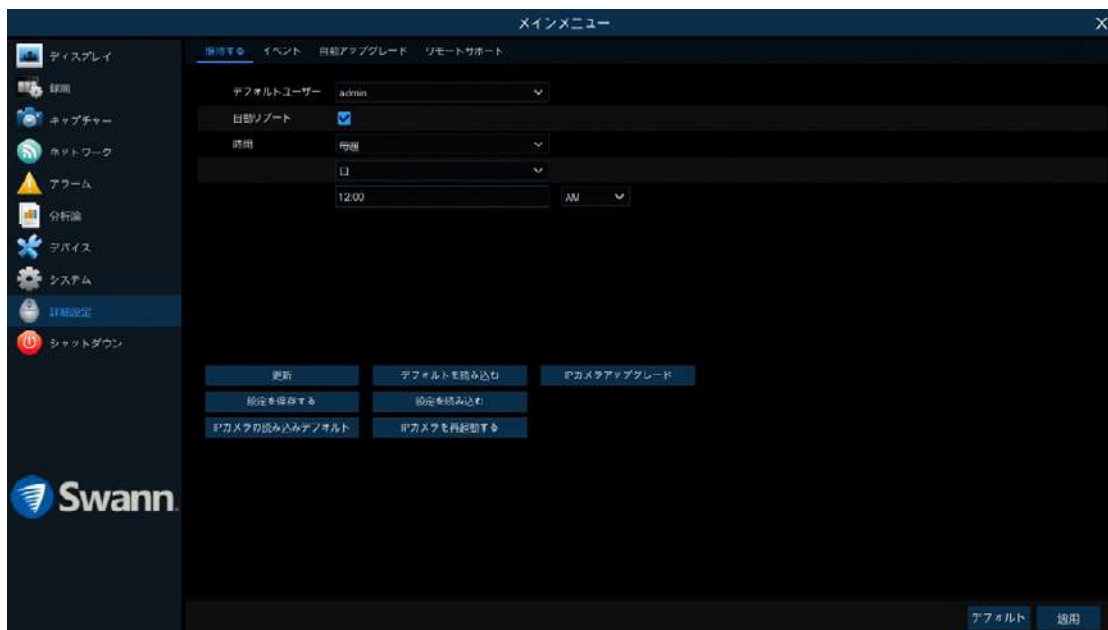
追加ユーザーアカウントも有効にできます：

- 1.[ユーザー1]を選択して[編集]ボタンをクリックします。
- 2.ドロップダウンメニューをクリックして、有効にします。
- 3.ユーザー名とパスワードを入力します。
- 4.[保存]ボタンをクリックして、管理パスワードを入力してから[OK]をクリックして確認します。

許可を変更するには、[許可]ボタンをクリックしてからどのオプションを有効にしたいかを選択します。[すべて]ボタンをクリックすると、すべてのオプショ

ンを選択します。「保存」ボタンをクリックしてから「OK」をクリックして確認します。

詳細設定:維持する



- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

デフォルトユーザー:Adminがデフォルトユーザーアカウントです。複数のユーザーアカウントが作成されている場合、ドロップダウンメニューをクリックして無効にします。

自動再起動:NVRの操作上の健全性を維持するため、この機能を有効なままにしておくことをお勧めします。

時間:NVRを再起動するための適切な日時を選択します。

更新:このボタンをクリックして、USBフラッシュドライブからファームウェアを更新します。ファームウェアファイルを選択してから[OK]をクリックして確認します。ファームウェアアップデートが完了したら、NVRが自動的に再起動します。

設定を保存する:このボタンをクリックすると、あなたがカスタマイズしたすべての設定を含む構成ファイルをエクスポートします。

デフォルトを読み込む:このボタンをクリックすると、工場デフォルト設定を回復します。[すべて]をクリックしてから[保存]をクリックします。NVRが再起動し、起動ウィザードが画面に表示されます。

設定を読み込む:このボタンをクリックすると、あなたがカスタマイズしたすべての設定を含む構成ファイルをインポートします。

詳細設定: イベント



イベントが発生した時はいつでも、あるいはNVRが異常な行動を表示した場合、メール受信、メッセージの画面表示、スワンセキュリティアプリでアラートの受信、内部ブザーの起動などの複数の方法でアラートを受信できるようにします。例外としてNVRが検知できるイベントタイプが3つあります。

- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

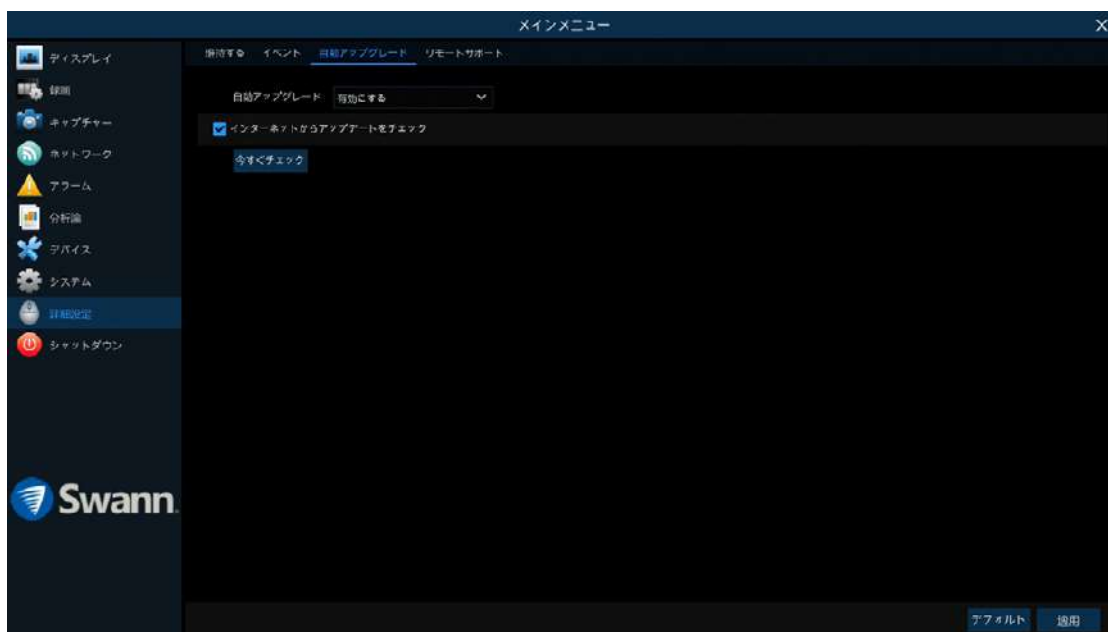
有効: イベント発生時のアラートを無効にしたい場合はチェックボックスをクリックします。

ブザー: ドロップダウンメニューをクリックして、イベント発生時に内部ブザーを作動したい期間を選択します。

メッセージを表示: イベント発生時の画面メッセージを無効にしたい場合はチェックボックスをクリックします。

電子メールの送信: イベント発生時の電子メールアラートを無効にしたい場合はチェックボックスをクリックします。

詳細設定:自動アップグレード



- 「デフォルト」をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- 「適用」をクリックすると、設定を保存します。

自動アップグレード:デフォルトでは、新しいファームウェアが利用できるようになると、NVRが自動でダウンロードし、インストールします。この機能を無効にしたければ、ドロップダウンメニューをクリックします。

インターネットからのアップデートをチェック:デフォルトでは、新しいファームウェアが利用できるようになると、NVRが自動的にチェックし、アラートを送信します。この機能を無効にしたければ、チェックボックスをクリックします。

今すぐチェック:このボタンをクリックすると、新しいファームウェアが利用できるかどうかを確認できます。新しいファームウェアが利用できる場合、画面の指示に従います。

詳細設定:リモートサポート



サポートを求めると、スワンヘルプデスク&テクニカルサポートスタッフがリモートサポート機能を使用して、NVRにリモート接続します。これにより、あなたが抱えている可能性のある問題の診断を助けます。この機能はNVRの日常操作には使用されません。

システムステータス

様々なステータスタブにより、NVRが機能するように選択できる様々な設定とオプションの概要を説明します。NVRが実行する各アクションや検知されたイベントは記録されるので、検索し表示できます。ヘルプデスクに電話してサポートを求める場合、スタッフがこのようなタブにアクセスをお願いし、技術的な問題解決をサポートする場合があります。



システム:情報

項目	値
デバイス名	My NVR
デバイスタイプ	NVR8-8380
ハードウェアバージョン	CM-357
ソフトウェアバージョン	VB 1.0-20200730
ファームウェアバージョン	V2.1.0.153
ビデオフォーマット	日本語 - 50Hz
HDDの容量	18E3G
IPアドレス	192.168.1.100
Wi-Fi	192.168.0.11
ウェブ	89.85
クライアント	90909100
MACアドレス	8C-51-EE-09-8E-76
P2P ID	VNMF4WRGLGNM4DPK111A
エージェントクラウドリンクステータス	接続されていません

このタブは、NVRに関する技術的な情報やデバイスID(P2P ID)とQRコードを表示します。ヘルプデスクに電話してサポートを求める場合、スタッフがこのタブにアクセスをお願いし、技術的な問題解決をサポートする場合があります。

QRコードをスキャンし、スマートフォンセキュリティアプリでNVRとペアリングできます。

MACアドレス:現在のパスワードを忘れた時に、リカバリパスワードとしてこれを使用できます。

ヘルプデスクに電話してサポートを求める場合、スタッフがこのタブにアクセスをお願いし、技術的な問題解決をサポートする場合があります。

MACアドレスを書き留めて下さい: _____

システム:チャンネル情報とレコード情報

チャンネル	エイリアス	状態	メインストリーム	サブストリーム	モバイルストリーム	モーショントラッキングは有効ですか?	プリアプロード
CH1	Channel 1	オンライン	3840x2160, 15Fps, 6Mbps	1280x720, 10Fps, 2Mbps		対応	対応
CH2	Channel 2	オンライン	3840x2160, 15Fps, 6Mbps	1280x720, 10Fps, 2Mbps		対応	対応
CH3	Channel 3	オンライン	3840x2160, 15Fps, 6Mbps	1280x720, 10Fps, 2Mbps	640x480, 10Fps, 120Mbps	対応	対応
CH4	Channel 4	オンライン	3840x2160, 15Fps, 6Mbps	1280x720, 10Fps, 2Mbps	640x480, 10Fps, 120Mbps	対応	対応

各接続カメラで使用しているメインストリーム、サブストリームと録画設定を表示します(録画情報に関しては、1台またはそれ以上のカメラが録画している場合にのみ設定が表示されます)。

ヘルプデスクに電話してサポートを求める場合、スタッフがこのタブにアクセスをお願いし、技術的な問題解決をサポートする場合があります。

マウスを右クリックして終了します。

チャンネル	録画状態	録画を開始	ストリームタイプ	FPS	ビットレート	解像度
CH1	オン	有効にする	デュアルストリーム	10Fps 10Fps	6Mbps 2Mbps	3840x2160 1280x720
CH2	オン	有効にする	デュアルストリーム	15Fps 10Fps	6Mbps 2Mbps	3840x2160 1280x720
CH3	オン	有効にする	デュアルストリーム	15Fps 15Fps	6Mbps 2Mbps	3840x2160 1280x720
CH4	オン	有効にする	デュアルストリーム	15Fps 15Fps	6Mbps 2Mbps	3840x2160 1280x720

システム:ネットワーク状態

属性	属性値
設定	
IP アドレス	192.168.1.100
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.1.1
MACアドレス	8C:51:FE:05:5F:19
DHCP	有効にする
Wi-Fi	
状態	切断された
内部インターフェイス	Connected
IP アドレス	172.16.1.100
サブネットマスク	255.255.255.0
DNS1	192.168.0.1
DNS2	0.0.0.0
ポート	
ウェブ	80:80:非アクティブ:無効にする
クワイアント	9900:9900:非アクティブ:無効にする
RTSP	554:554:非アクティブ:無効にする
HTTPSポート	443:443:非アクティブ:無効にする
総容量	80MByte
使用済み容量	32.25MByte

NVRが使用しているネットワーク設定を表示します。

ヘルプデスクに電話してサポートを求める場合、スタッフがこのタブにアクセスをお願いし、技術的な問題解決をサポートする場合があります。

マウスを右クリックして終了します。

検索:ログ



NVRが実行する各アクションや検知されたイベントは記録されます。このようなログファイルは検索、表示可能で、安全に保管するためにUSBフラッシュドライブにコピーできます。

- 1 開始/終了時刻:** カレンダーアイコンをクリックして、検索したい月、年、日付を選択します。ダイアログボックスをクリックして、開始時間と終了時間を入力します。
- 2 ログタイプ:** デフォルト選択のままにするか、ドロップダウンメニューをクリックして検索したい特定のアクションを選択します。
- 3 検索:** これをクリックして、検索基準と一致するログファイルリストを表示します。ファイルをダブルクリックすると、そのログに関する情報を表示できます。
- 4 バックアップ:** NVRにUSBフラッシュドライブを挿入して、このボタンをクリックすると検索に一致するログファイルをコピーできます。必要に応じて、フラッシュドライブをフォーマットするか、新規フォルダを作成するか選択できます。[OK]をクリックして保存し、再度[OK]をクリックして閉じます。

用語集

3Dノイズフィルター: デジタルノイズリダクションの強化版です。技術進歩により、微光条件でも、画像から効果的にノイズをフィルターすることができます。

50Hz: 英国、オーストラリアやほとんどのヨーロッパ諸国で使用されている電源周波数です。

60Hz: 米国、カナダ、いくつかのラテンアメリカ諸国で使用されている電源周波数です。

AGC(自動利得制御): 微光条件において、カメラが自動で利得制御を上げるので、人や物体がより明確に見えます。この技術のメリットは、かなり微光条件でもカメラが画像を生成できる点です。欠点は増幅させると、ビデオノイズが増えることです。

AHD: アナログハイデフィニション閉回路テレビビデオ監視基準であり、同軸ケーブルを使い、防犯カメラからDVRへHDビデオを送信します。AHDは720pと1080p HDビデオ解像度に対応しています。

分析: DVRやNVRがモーションを検知する上ではるかにコントロールしやすくなる一連の機能です。検知ラインを引くこと、どの方向にモーション検知するかというルール適用、モーションを監視したい特定エリアの定義などが挙げられます。

アンチフリッカー: 蛍光灯がお使いの電源パワーと同じ周波数を使用しているので、カメラから見た時のちらつきの原因となります。アンチフリッカーオプションを有効にすると、目に見えるちらつきが軽減または排除されます。

アンチスマー: スマー効果とは、明るい光源から出た明るい垂直な線が画像で見えるようにすることを意味しています。特に逆光の時に起こります。この機能を有効にすると、非常に明るい背景でも人や物体が鮮明に見えます。

自動DNS(ドメインネームシステム): ドメイン名を保管し、ドメイン名をインターネットプロトコルアドレスに変換するサービスです。例えば、www.google.comには、74.125.224.72というDNSサーバーアドレスがあります。DNSサーバ

ーはインターネットサービスプロバイダーにより自動的に提供されます。

オートフォーカス: 見ている物体に焦点が合うようにカメラレンズを調整します。

帯域幅: コンピュータネットワークでは、帯域幅がデータ転送率と同義語として使用されていますが、一定時間(通常1秒間)にある場所からある場所へ移動可能なデータ量を指します。ネットワーク帯域幅は通常ビット/秒(bps)で表されます。

ビットレート: DVRまたはNVRがビデオ録画に使用するデータ量です。ビットレートが高ければ高いほど、録画でより多くのハードドライブが消費されます。ビットレートを増やすと、ストリーム中により多くの帯域幅も消費します。測定単位はMbps(メガビット/秒)またはkbps(キロビット/秒)のいずれかです。

BLC(バックライト補正): 光源の前にある物体の露出を改善します。画像全体を異なるエリアに分割し、そのエリアにあう個別の露出を適用してバックライト補正を行います。

明るさ: 表示される画像の明るさを変更します。明るさの値は日中の明るさに対する暗さによって異なります。例えば、車のヘッドライトの照明は夜の方がより明るく見えます。

CDS: CDSにより、カメラの光センサーが画像を設定できます。CDSセンサーは基本的に、センサーに当たる光量によって抵抗値(オーム)を変更するレジスタを指します。

クラウド: クラウドコンピューティングとは、サーバーへ直接接続ではなく、ウェブベースツールやアプリケーションを通じてインターネットからリソースを読み出すインフォメーションテクノロジーサービスの提供モデルを指します。Dropbox、Google DriveやMicrosoft OneDriveなどのサービスはクラウドコンピューティングのほんの数例です。

用語集

合成ストリーム: DVRやNVRがビデオと音声を同時に録画していることを表しています。

コントラスト: コントラストにより、画像の最も黒い黒と最も白い白の差を増加させます。コントラストがなければ、明暗の差がないので画像が得られません。

非表示: カメラはモーションを検知し、DVRやNVRを作動させて録画しますが、ライブビューモードでカメラの画像は表示されません。

DDNS (ダイナミックDNS): IPアドレスをホスト名に変換するサービスです(ホスト名はIPアドレスを覚えるよりもかなり簡単です)。DHCPサーバーに割り当てられたようなダイナミックIPアドレスにも対応しています。この特性により、DDNSは、時々変更されるISPからIPアドレスを通常受信するホームネットワークに最適です。

DHCP (ダイナミックホスト構成プロトコル): ネットワーク接続デバイスにIPアドレスをダイナミック割り当てを可能にするため、適切なサーバーやルーターを使用します。

ディスプレイ解像度: TVやVGAモニターで対応するピクセル数またはDVRやNVRのような監視装置の出力信号です。

DNSサーバー: ウェブサイトやその他のインターネットドメインの一般名を管理する標準テクノロジーです。DNSテクノロジーにより、ウェブブラウザに名前を入力すると、コンピュータが自動的にインターネット上でアドレスを検索します。

Dropbox: ファイルホスティングサービスで、DVRやNVRからのスナップショットやビデオ録画を保管・共有できます。

DST (サマータイム時間): 1年の中で時計が1時間早められる期間を指します。

デュアルストリーム: DVRやNVRがメインストリームとサブストリームビデオを

同時に録画するプロセスです。

フォーマット: USBフラッシュドライブやハードドライブのようなデータを保管するストレージデバイスを用意するコマンドです。

ファームウェア: 個別素子(例、スマートフォン)を制御するためのソフトウェアです。デバイスの制御に欠かせないので、ソフトウェアと呼ばずにファームウェアと呼ばれています。

フレームレート: ビデオフィードを作成するために見せる静止画のコマ数です。単位はコマ/秒(fps)です。

ゲートウェイ: 自宅ネットワークのデバイスから、インターネットへのアクセスを提供する外部ネットワークへのトラフィックを制御するノードまたはルーターです。

H.264+: 大量のビデオデータには大量のストレージ容量が必要です。この問題を解決するため、画像品質を維持しながらデータ量を減らすビデオ圧縮テクノロジーが使用されています。H.264+は監視カメラのための革新的なエンコーディング技術です。

H.265: 動画圧縮規格で、広く使用されているH.264に代わる技術の1つとされています。ビデオ品質レベルを保ちながら、2倍のデータ圧縮率を提供します。

ハードウェア: DVRやNVRのような実際のデバイスを指します。

HDD (ハードディスクドライブ): DVRやNVRの内部にあるストレージデバイスです。すべてのデータが維持、保存、保管される場所です。

HTTPポート (ハイパーテキスト転送プロトコル): このポートは、ウェブクライアントを使用しDVRやNVR(利用可能な場合)のウェブブラウザインターフェイスへログするために使用されます。

用語集

色相:通常、カラーと呼ばれるものと同義語です。色相を変えることで、画像のカラーミックスを変更できます。

IP アドレス:ネットワークに付属するデバイスのアドレスです。ネットワーク上の各デバイスは必ず固有のアドレスを使用しています。

IPフィルタ:特定のIPアドレスグループのネットワークへのアクセスを制限する優れた方法です。

ライブビュー:DVRまたはNVRのデフォルトディスプレイモードです。画面に接続された各カメラが表示されます。

MAC アドレス:ネットワークハードウェアの固有識別子です。現在のパスワードを忘れた時に、スーパーパスワードとしてこれを使用することもできます。

メインストリーム:DVRまたはNVRが表示し、録画するビデオストリームです。

マスク:プライバシーを守るために画像の一部にぼかしを入れるために使用します。DVRやNVRがモーションを検知した時に、誤認識作動を最小限に抑えるためにも使用されます。ぼかしが入れたエリアはライブデモ録画でも表示されません。

メニュー:DVRやNVRで利用可能な様々なアクションやオプションをコントロールする場所です。

モーション検知:DVRやNVRがモーションを検知するために使用する主な方法で、セキュリティシステムの非常に重要な機能です。ビデオの1枚のコマを次のコマと比較して検知しています。2コマ間にある特定量の差異をモーションとして解釈します。

NAS(ネットワーク接続ストレージ):他のネットワークデバイスが使用可能な1台またはそれ以上のHDDが付いたネットワークデバイスを、ストレージが直接接続されているかのように使用できます。

NIC(ネットワークインターフェースコントローラー):デバイスがネットワーク

へ接続できるようにするハードウェアコンポーネントです。

NTP(ネットワークタイムプロトコル):お使いのDVRやNVRの時計をネットワークタイムサーバーと自動的に同期させるために使用されます。ほとんどのタイムサーバーはインターネット上にあります。

NTSC:北米、カナダ、いくつかのラテンアメリカ諸国で使用されているビデオシステムです。NTSCでは、毎秒30コマ転送されます。

光学ズーム:トゥルーズーム機能です。カメラレンズを使用してクローズアップ画像を取得するために、物体にズームイン(またはズームアウト)できます。

OSD(画面ディスプレイ):時間、日付やカメラ名などのカメラからの情報を画面上に表示します。

オーバースキャン:主に古いテレビセットで使用されますが、画面上に正しく表示可能エリアを表示します。写真の端をカットしてこれを行います。最新プラズマテレビやLCDテレビでは、画像はデジタルで処理されて正しい比率で表示されるので不要です。

パック期間:DVRやNVRに個別ユニットに録画を分割するように指示します。各ユニットは最長60分となります。DVRやNVRはこれらを連続した1本のビデオとして再生します。

PAL:英国、オーストラリアやほとんどのヨーロッパ諸国で使用されているビデオシステムです。PALでは、毎秒25コマ転送されます。

PIR(受動型赤外線):PIRセンサーが内蔵されているカメラが、人、車両や動物を含む温かい物体の動きを感知できます。

ポストレコード:イベント発生後、一定時間DVRやNVRに録画するように指示します。

用語集

PPPoE (ポイントトゥポイントプロトコル・オーバーEthernet): インターネット接続を有効にするため、ISPへのログインにルーターが使用する最も一般的な方法です。この設定はDVRやNVR上にも存在しますが、構成を完了するのが難しいので、上級者向けです。

プレコード: DVRやNVRがイベント発生前に指定した秒数録画できます。

プライバシーゾーン: マスクの情報を参照してください。

解像度: 表示できる画像の鮮明度です。数値が高くなればなるほど、画像が鮮明になります。

RTSP (リアルタイムストリーミングプロトコル): ネットワークやインターネット経由でリアルタイムにビデオや音声情報を転送するためのネットワークプロトコルです。

彩度: 画像にどれだけ色を表示するかを変更します。彩度が高ければ高いほど、色がより明るく鮮明に見えます。

サーバーポート: サーバーポートとはロジカルコネクション部分で、特にインターネットプロトコルTCP/IPを使い、クライアントプログラムがネットワークのコンピュータ上の特定のサーバープログラムを指定する方法を指します。

SEQ: DVRやNVRをシーケンスモードにします。これにより、ライブビューモードで事前に決めた時間、各ビデオチャネルを繰り返します。

S.M.A.R.T. (セルフ・モニタリング・アナリシス・アンド・リポーティング・テクノロジー): この機能は、エラーが発生する前に、潜在的なドライブエラーを検知するモデムHDDとSSDの自動システムです。

SMTP (シンプル・メール・トランスファー・プロトコル): これを使って外部にメールを送信します(例、DVRやNVRからメールアドレスへ)。

SMTPポート: メール送信リクエストを聞き取るためにSMTPサーバーが使用するポート番号です。メールプロバイダーが指定します。

SMTPサーバー: これがSMTP用にサーバーが使用するアドレスです。通常ウェブアドレス形式です(例、smtp.gmail.com)。

ソフトウェア: コンピューティングデバイス上で実行する一連の指示を指します。

SSID: ワイヤレスネットワーク名の技術用語です。ワイヤレスネットワークをセットアップする際、周辺の他のネットワークと区別するために名前をつけてください。

SSL (セキュア・ソケット・レイヤー): サーバーに接続するセキュアな方法です。DVRやNVR関連で、メールサーバー接続に主に使用されます。

静的: IPアドレスを参照する際に、デバイスのIPアドレスを手動で入力する場所です。UIDをもたない旧式デバイスでインターネットアクセスに備えるために使用されることがあります。

静的DNS: ある状況において、インターネットサービスプロバイダーがルーターの自動DNSの代わりに、静的DNSを使用するように要請する場合があります。

サブストリーム: DVRやNVRがネットワークやインターネット経由でリモートデバイスに送信するビデオストリームです。ビデオ品質は送信しやすくするために低質になっています。

サブネットマスク: IPアドレスのどの部分がネットワークロケーションに参照するのかを定義します。

タグ: ビデオ内に人物や物体のような情報を記録できます。基準に一致するタグが表示され、検索を開始できます。検索時のより迅速な特定方法です。

タイムサーバー: 参照時計からの実際の時間を読み取り、ネットワーク上のクライアントへ情報を配信するサーバーです。

用語集

タイムゾーン:法的、商業、社会的な目的で統一した標準時間に従う地域を指します。密に連絡を取るエリアが同じ時間であると便利です。

タイムスタンプ:特定イベントが発生した時に特定する一連の特長や暗号化された情報であり、通常日付やその日の時刻ですが、時にほんの1秒ほど正確な場合もあります。

TVI:HD防犯カメラで使用するビデオのためのデジタル信号処理と輸送技術です。TVIカメラは現在、従来のCCTVカメラが使用しているのと同じ同軸配線技術を使用する1080pビデオ解像度に対応しています。

UID(固有識別子):一定システム内の1つのエンティティに関連する英数字の文字列です。あなたのUIDをモバイルアプリやコンピューターソフトウェアに入力することで、IPアドレスやポート番号を記憶しなくても、DVRやNVRと通信できます。

UPnP(ユニバーサル・プラグ&プレイ):リモートアクセスの目的でネットワーク接続デバイスが自動的にルーターを構成するためのネットワークプロトコルです。UID使用時には有効にする必要はありません。

VCA(ビデオコンテンツ分析):録画やイベントを作動させる新しい方法です。この方法では、DVRやNVRおよびカメラの画像処理システムを使用して、特定の方法で録画が作動するように設定します(例、ライン交差や侵入など)。このシステムにはより多くの処理能力を使うので、すべてのデバイスで利用できるとは限りません。

ビデオロス:潜在的なアラームイベントとして見なされ、DVRやNVRがビデオ入力からアクティブなビデオ信号を受信しない時に発生すると考えられています。

ビデオ品質診断:照明やカメラのホワイトバランスにより、カメラに不鮮明な画像、画像に異常な明るさや不要な色がある場合(カラーキャストと呼ばれる現象)に有効となり、DVRやNVRがアラートを送信できるようにします。

ビデオストリーム:DVRやNVRがビデオストリームのみを録画中であることを表しています。

透かし:他の画像の上に意図的に重ねられた特定の画像(通常ロゴ)です。オリジナルの画像をコピーしたり、許可なく使用するのを難しくするために使用されます。

WDR (ワイドダイナミックレンジ):ダイナミックレンジが広い画像のバランスを取るための技術です。室内カメラが窓やビルのエントランスに向けてあるような場合、この例として挙げられます。入ってくる光が明るすぎるので、日中にカメラが生成する画像が非常にぼやけてしまうことがあります。

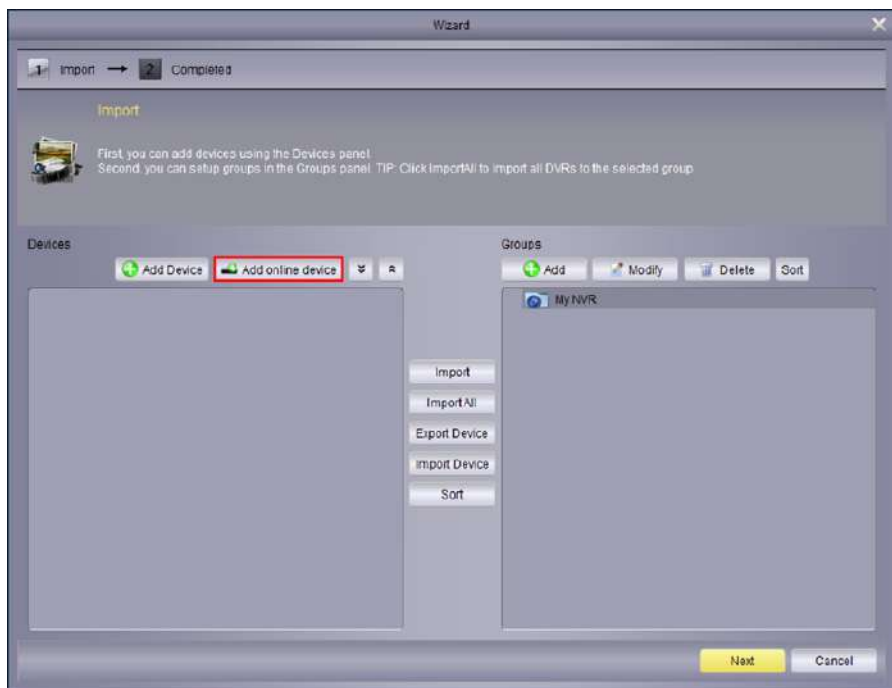
Wi-Fi:デバイスが直接ケーブル接続をしなくても通信できるようにするワイヤレスネットワークングプロトコルです。

ホームセーフビューを使用したパスワードリカバリ

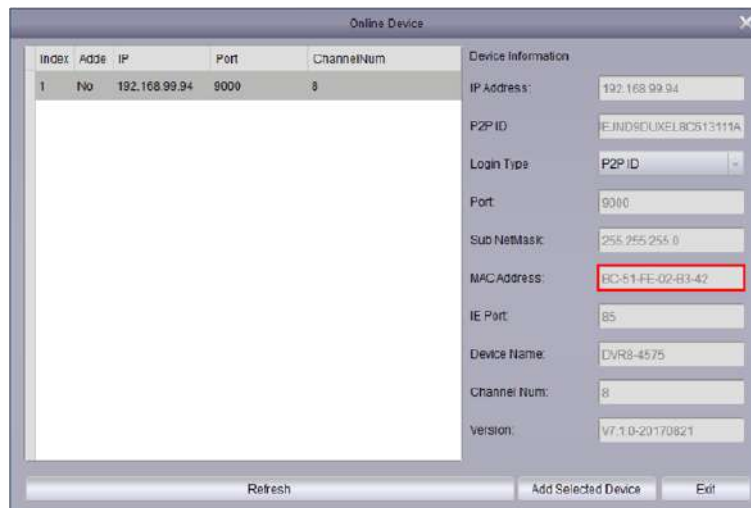
お使いのコンピュータに合ったバージョンをダウンロードし、画面指示に従ってインストールを完了して下さい。

ホームセーフビューWindowsの方は[ここをクリック](#)して下さい。ホームセーフビューMacの方は[ここをクリック](#)して下さい。

1.初めてホームセーフビューを実行する場合、紹介画面が表示されます。[次へ]をクリックして続けます。下記が画面が表示されます：

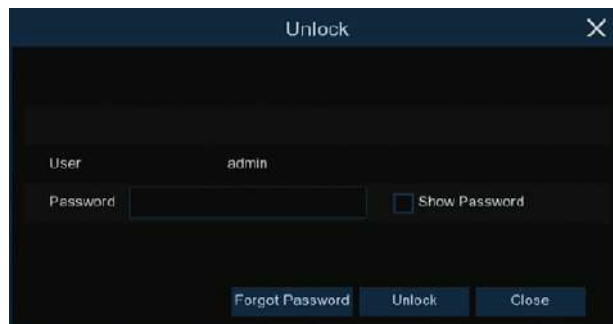


2.お使いのルーターに接続されたNVRを表示するには、上記に記載の通り、[オンラインデバイスの追加]ボタンをクリックします（NVRが表示されない場合、デバイスが同梱Ethernetケーブルを使用してルーターに接続されているか確認して下さい）。



3.上記に記載の画面が表示されます。NVRをクリックしてMACアドレスを表示します。これが、パスワードをリセットするために使用するリカバリコードです。ダッシュ(-)をコロン(:)に置きかえて、書き留めます。

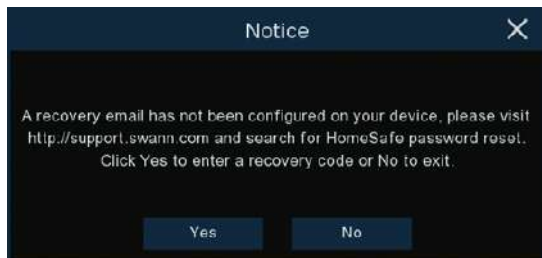
4.NVRにリカバリコードを入力します。ライブビュー画面でマウスを右クリックし、メニューバーを表示してから[メインメニュー]をクリックします。ログインプロンプトが画面に表示されます：



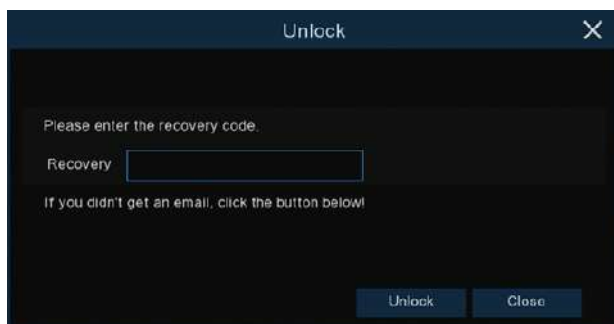
(次ページに続く)

ホームセーフビューを使用したパスワードリカバリ

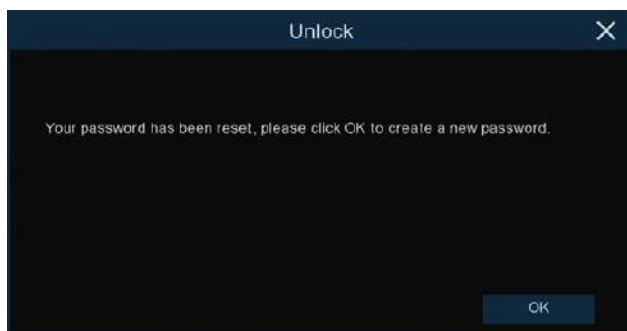
5. [パスワードを忘れた場合]をクリックします。



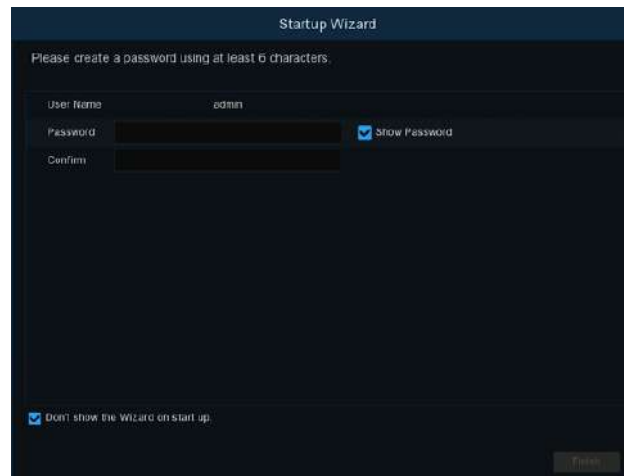
[はい] をクリックして続けます。



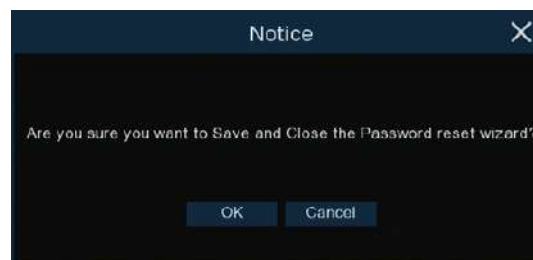
ダイアログボックスをクリックして、例えばBC:51:FE:02:B3:42 のようなリカバリコード(MACアドレス)を入力してから[OK]をクリックします。パスワードのリセットを始めるメッセージが画面に表示されます。



6. パスワードの入力促すメッセージが表示されます。



パスワードは最低6文字で、数字と文字を含むようにしてください。覚えることができるけれども、他人には簡単に知られないようなパスワードを使用します。パスワードを書き留め、安全な場所に保管します。書き留めたら、[保存]をクリックします。次に下記が面が表示されます：



[OK] をクリックして終了します。

パスワードを必ず書き留めておいてください。_____

よくある質問

私がUSBフラッシュドライブにコピーしたNVR上のビデオを再生できますか？

検索:外部ファイル機能を使用して再生できます(94ページを参照)。

NVR内にインストール可能なハードドライブの最大容量はいくらですか？

インストール可能な最大ハードドライブは6TB(テラバイト)です。Western Digital Purple™やSeagate Skyhawk™ のドライブのような監視カメラ規格のドライブを購入することをお勧めします。

ポータブルUSBハードドライブに接続して録画できますか？

できません。お使いのNVRはインストールした内蔵ハードドライブのみに録画できます。

ポータブルUSBハードドライブに接続してビデオをコピーできますか？

USBハードドライブの携帯性により、NVRのUSBポートに接続した際、ドライブが作動するかを保証できません。試してみるしかありません。バックアップ目的であれば、USBフラッシュドライブの使用をお勧めします。

NVR上のビデオ録画をどうすれば保存できますか？

ビデオ録画をUSBフラッシュドライブにコピーするには、検索:イベント機能を使用します(86ページ参照)。

NVR上のスナップショットをどうすれば保存できますか？

スナップショットをUSBフラッシュドライブにコピーするには、検索:クイックショット機能を使用します(88ページ参照)。

新しいメールアドレスを作成する代わりに、自分のメールアドレスとサーバーを使用できますか？

SMTPポートとサーバーに必要な設定をご存知な場合にのみ、使用できます。ご存知ない場合、インターネットサービスプロバイダーに連絡してこの情報を取得しなければなりません。

Windowsコンピュータで再生するためにUSBフラッシュドライブに録画を保存しましたが、Windowsメディアプレイヤーで再生できません。どうすれば再生できますか？

Windowsメディアプレイヤーには、NVRからの録画再生に必要なコードがありません。様々な異なるビデオ形式の再生に必要なコードがあるVLCメディアプレイヤーの使用をお勧めします。www.videolan.orgから無料でダウンロードできます。

保証内容

米国

Swann Communications USA Inc.
12636 Clark Street
Santa Fe Springs CA 90670
USA

Australia

Swann Communications
Suite 5B, 706 Lorimer Street
Port Melbourne Vic 3207
Australia

イギリス

Swann Communications LTD.
Stag Gates House 63/64 The Avenue
S0171XS
United Kingdom

保証規約

Swann Communicationsは、本製品に仕上がりおよび材質に欠陥がある場合、購入日から1年間保証します。保証を有効にするには、購入日の証拠としてレシートを提示していただく必要があります。上記期間中にユニットに欠陥があると判断した場合、Swannの独断で、部品や工賃をいただくずに修理するか、交換いたします。エンドユーザーは、Swann修理センターに製品を送付する際に発生する運送費をすべて負担しなければなりません。エンドユーザーは、原産国以外への国への発送や出荷の際に発生する運送費をすべて負担しなければなりません。

本製品の使用に起因する、または使用ができないことによる、偶発的、事故や間接的損害には、本保証は適用されません。職人やその他の人物が本製品の取り付けや取り外しにかかる費用や、使用に関連するその他の費用は、エンドユーザーが負担します。本保証は本製品の購入者のみに適用され、第三者へは譲渡できません。不正なエンドユーザーや第三者がコンポーネントを修正した場合や、デバイスの誤使用や乱用が認められた場合、保証はすべて無効となります。

法律により、国によっては本保証の特定の適用除外に関する制限を認めていません。現地法で適用される場合、規則や法的権利が優先されます。

オーストラリア: 弊社製品には保証が付いており、オーストラリア消費者法によって除外されることはありません。重大な欠陥がある場合、あなたには、製品を交換または返金を求め、合理的に予測可能な損失や損害に関して補償を求める権利があります。また、製品が許容可能な品質ではなく、その欠陥が重大な欠陥にならなかった場合に、製品の修理または交換を求める権利もあります。

ヘルプとリソース

support.swann.comからスワンサポートセンターにアクセスしてください。製品を登録して、専門のカスタマーサポートを受けたり、ガイドをダウンロードしたり、よくある質問の回答を確認したりできます。



製品登録



カスタマーサポート



取扱説明書



よくある質問



サポートコミュニティ